



HF/VHF/UHF
ALL MODE TRANSCEIVER

FT-897D

取扱説明書



当社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この「取扱説明書」をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。

この取扱説明書に記載の社名・商品などは、各社の商標または登録商標です。

この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

本機は日本国内専用です。国外では使用できません。

目次


安全上の注意	1	メモリーチャンネルを呼び出す	29
オプション	4	呼び出し方法	29
準備	6	メモリーチューン	29
アンテナについて	6	メモリーの消し方	29
マイクロホンを取り付ける	6	メモリーチャンネルに名前を付ける	30
電源について	6	メモリーチャンネルをグループに分ける	31
付属品	6	メモリーグループの分けかた	31
電池パック“FNB-78”で運用する	7	メモリーグループの切り換え	31
取り付け方法	7	ホームチャンネル/QMB	32
充電方法	7	ホームチャンネル	32
パネル面の説明	8	QMB(Quick Memory Bank)	32
ディスプレイの説明	10	スキャン	33
ディスプレイの色や表示の大きさを調える	11	VFOスキャン/メモリースキャン	33
ディスプレイの色変更	11	メモリースキップ	33
倍角表示	11	特定の周波数範囲をスキャンする	34
背面の説明	12	プログラマブルメモリースキャン(PMS)	34
背面/上面/底面/マイクロホンの説明	13	信号が入感する周波数を探して記憶する	34
マルチファンクションキー	14	スマートサーチ	34
受信操作	16	近接した周波数の使用状況をチェックする	35
基本的な操作	16	スペクトラムスコープ	35
ビープ音の変更操作	16	指定した周波数を定期的に受信する	36
LOCK	16	プライオリティスキャン	36
受信時に使用するその他の機能	17	デュアルレシーブスキャン	36
STEP	17	電源の切り忘れを防ぐ	37
CLAR(クラリファイア)	17	オートマチックパワーオフ(APO)	37
SSB/AM/FMモードでの交信	18	トーンスケルチ(CTCSS)	38
基本的な操作	18	トーンサーチ	38
送信出力の調整	18	スプリットトーン	38
タイムアウトタイマー機能(TOT)	18	デジタルコードスケルチ(DCS)	39
MIC GAINの調整	18	DCSサーチ	39
VOX操作	19	スプリットトーン	39
送信メーターの切り換え	19	相手局と交信できる範囲にいるかを確認する	40
オールリセット	19	ARTS機能	40
レピーターを使った交信	20	CWIDの設定	40
430MHz帯のレピーターを使う場合	20	ディスプレイの状態を変更する	41
29MHz帯のレピーターを使う場合	20	ディスプレイの明るさ変更	41
CWモードでの交信	21	コントラスト調整	41
縦振れ電鍵を使用する場合	21	バックライトの動作変更	41
内蔵のエレクトロニックキーヤーを使用する場合	21	設定した間隔で繰り返しCW符号を送出する	42
CW運用時の付属機能	22	ビーコン	42
キーイングスピードの調整	22	パケット/RTTY	43
CWディスプレイタイムの調整	22	メニューモード	44
CWサイドトーンの音量調整	22	クローン	55
CWピッチの調整	23	CAT 運用	56
CWトレーニング	23	FC-30を使用する	58
DSPを使って混信を軽減する	24	FP-30を使用する	60
DSPバンドパスフィルターを使う	24	ATAS-100/-120を使用する	61
DSP AUTO NOTCH	24	MH-59 _{A&J} を使用する	62
DSP NR	24	VL-1000を使用する	64
混信・雑音が激しいとき	25	YF-122C/YF-122CN/YF-122Sを使用する	65
IF SHIFT	25	故障かな?と思う前に	66
IFフィルターの切り換え	25	アフターサービスについて	66
NB(ノイズブランカー)	25	アマチュア無線免許申請書の書きかた	67
受信感度を調整する	26	定格	70
RF GAIN	26	索引	71
IPO(Intercept Point Optimization)	26	バンド区分	73
ATT(アッテネーター)	26		
快適な交信を行うために	27		
スプリット運用	27		
AGC	27		
DSPマイクイコライザー	27		
メモリーチャンネルに書き込む	28		
書き込み方法	28		


安全上の注意(必ずお読みください)


本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



マークの種類と意味



 **危険** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。


 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。


図記号の種類と意味


 本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。図の中や近くに具体的に禁止内容（ の場合は分解禁止）が書かれています。


 本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。図の中や近くに具体的に禁止内容（ の場合は電源プラグを外す）が書かれています。

危険


 病院内や医療用電子機器の近くでは使用しないでください。
医療用電子機器の影響を与える場合があります。


 心臓ペースメーカー等の医療機器を装着されている方は、できるだけアンテナから離れて送信してください。
本機からの電波が医療機器に影響を及ぼし、誤動作による事故の原因になることがあります。


 車載でご使用になる場合には、運転者は走行中に各種の設定操作は絶対に行わないでください。
走行中に運転者が、本機のディスプレイに気を取られたり、操作を迷ったりすると大変危険です。走行中は、運転者は送受信操作以外の操作は絶対に行わないでください。


 雷が鳴る恐れがある場合は、早めに電源スイッチを切り、電源コードとアンテナケーブルを本機から外してください。
雷によっては、火災や感電・故障の原因になります。

警告

 本機を改造しないでください。
また、本書に記載のない方法で分解しないでください。
火災や漏液・感電・故障の原因になります。

 指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
火災や感電の原因になります。

 電源コードは直接、直流電源に接続してください。
電源ケーブルの延長や継ぎ足しは、火災や故障の原因になります。

 “煙が出ている”、“変な臭いがする”などの異常状態のまま使用すると、火災や故障の原因になります。
すぐに電源スイッチを切り、Ni-MH電池パック、電源などを本機から外してください。煙や変な臭いなどが出なくなったことを確認の上、お買い上げいただきました販売店またはサービスに修理をご依頼ください。

安全上の注意(必ずお読みください)

⚠ 注意

-  本機を押入や本棚などの、風通しが悪く狭い場所に押し込まないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
-  本機をぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。
-  本機をジュウタンや布団の上に置かないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
-  本機の上に重い物を置かないでください。
落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。
-  本機の上に花瓶・化粧品・コップなどの、水の入った容器を置かないでください。
こぼれたり中に入った場合、火災や故障の原因になります。
-  本機の上にクリップなどの小さな金属物を置かないでください。
中に入った場合、火災や故障の原因になります。
-  電源コードの上に重い物を載せたり、電源コードを無理に曲げたり引っ張ったりしないでください。
電源コードが傷つき、火災や故障の原因になります。
-  無線中継装置の近くでは使用しないでください。
業務無線通信に、妨害を与える場合があります。
-  シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。
ケースの汚れは中性洗剤を湿した布で軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。
-  本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
火災や故障の原因になります。
-  長期間ご使用にならない場合には、安全のため、電源スイッチを切るとともに、Ni-MH 電池パック、電源などを本機から外してください。
-  万一、内部に異物が入った場合には、すぐに電源スイッチを切り、Ni-MH 電池パック、電源などを本機から外してください。
そのまま使用すると、火災や故障の原因になります。
-  オプションの取り付けなどで、本機の内部に触れるときには、Ni-MH 電池パック、電源などを本機から外してください。
故障や感電の原因になります。
-  本機を移動させるときには、電源コードを電源から外すとともに、アンテナケーブルや周辺機器などを接続している全てのケーブルを外した上で行ってください。
-  おやみに内部に触れないでください。オプションの取り付け時以外は、お手を触れないでください。
-  オプションの取り付け時には、シャーシの角などでケガをしないよう十分ご注意ください。
-  磁気カードやビデオテープなどは本機に近づけないでください。
キャッシュカードやビデオテープなどの内容が、消去される場合があります。
-  本機を直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。
変形や・変色などの原因になります。
-  ヘッドホンやイヤホンを使用するときには、音量を大きくしないでください。
聴力障害の原因になることがあります。

安全上の注意(必ずお読みください)

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けている、との連絡を受けた場合はただちに電波の発射を中止し、障害の有無や程度を確認してください。

《参考》無線局運用規則 第9章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときには、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。(以下省略)

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機、アンテナ系を点検し障害に応じて当社サービス窓口やお買い上げの販売店などに相談するなどして、適切な処置を行ってください。

受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、おずかしい場合もあります。

(社)日本アマチュア無線連盟(JARL)では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

(社)日本アマチュア無線連盟(JARL)

〒170-8073 東京都豊島区巣鴨 1-14-5

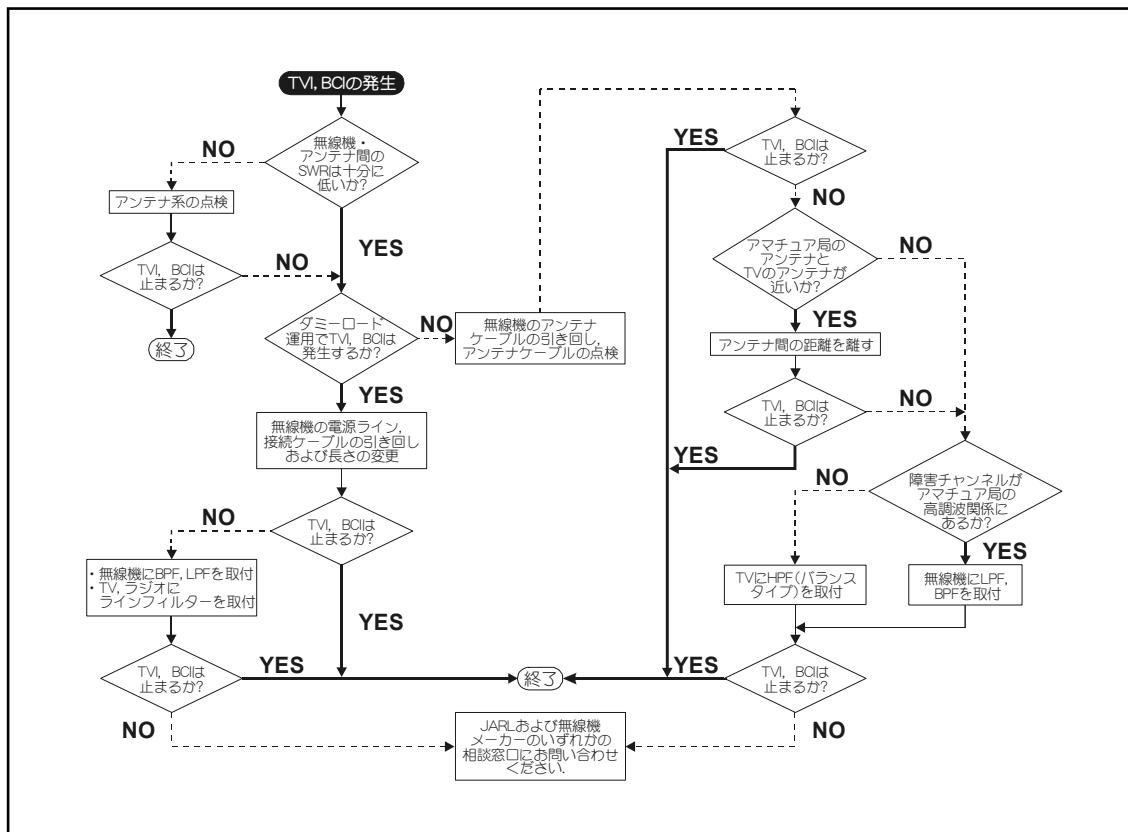
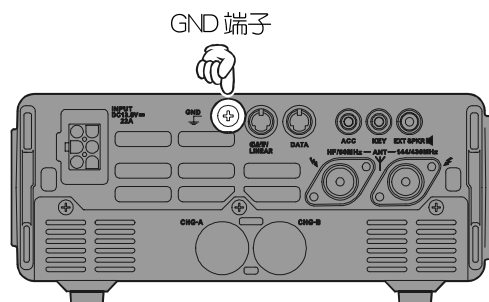
TEL 03-5395-3111

アースについて

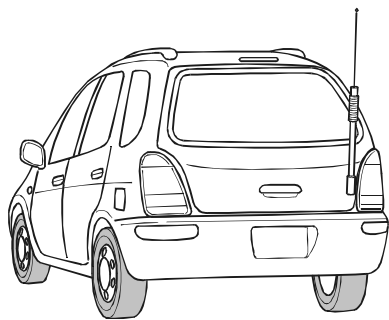
感電事故を未然に防ぐため、またスプリアース放射を少なくして質の高い電波を発射するためにも、良好なアースを取ることは大切なことです。

市販のアース棒や銅板などを地中に埋め、十分に太い銅線を使用して、できるだけ最短距離で本体背面の **GND** 端子に接続してください。

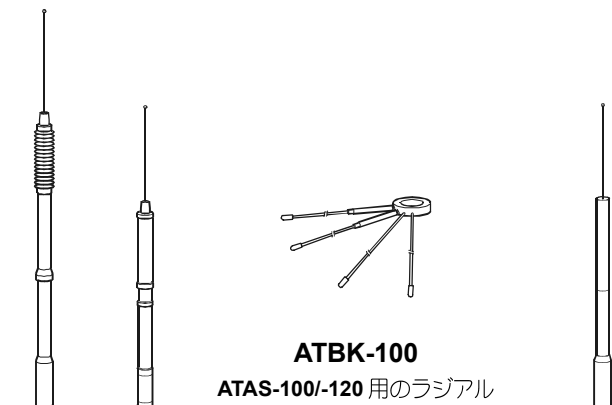
なお、ガス配管や配電用のコンジットパイプなどは、爆発などの事故防止のため、絶対にご使用にならないでください。



オプション



モバイル運用



ATAS-100/-120

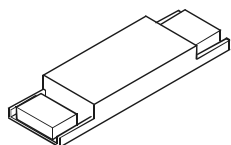
自動的にチューニングを行う
“アクティブ・チューニング・アンテナシステム”

ATBK-100

ATAS-100/-120用のラジアル

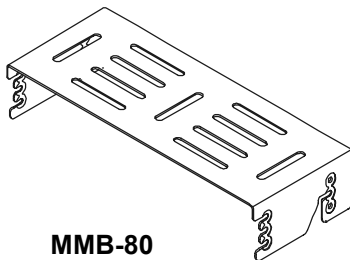
ATAS-25

手動でチューニングを行う
“アクティブ・チューニング・アンテナシステム”



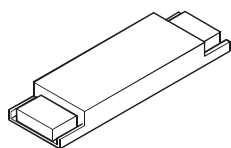
YF-122S

SSBフィルター



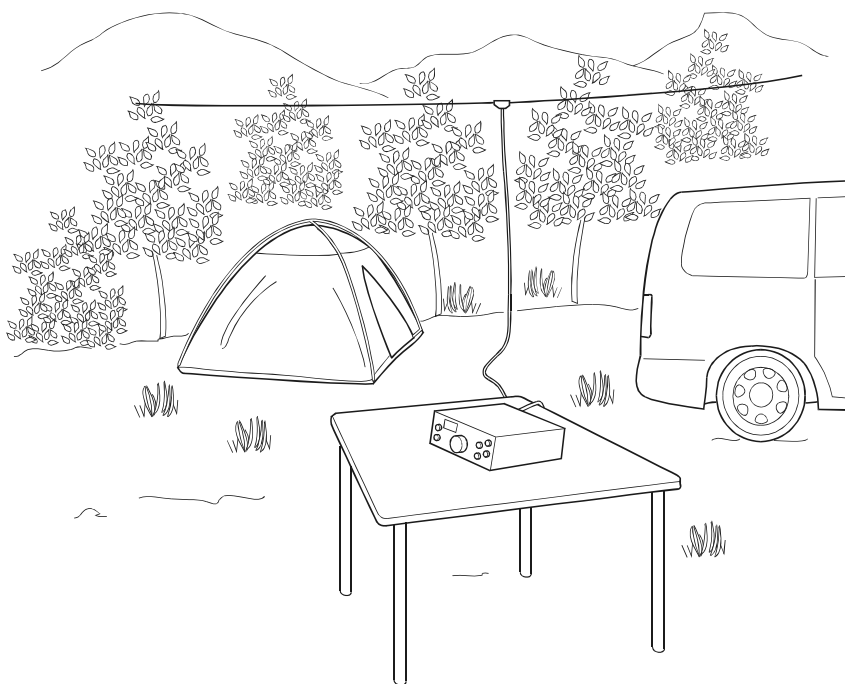
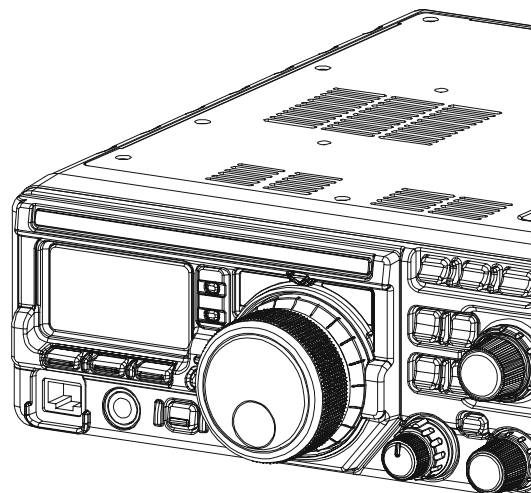
MMB-80

モバイルブラケット

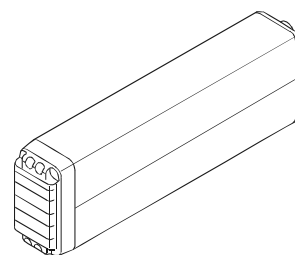


YF-122C/YF-122CN

CWフィルター

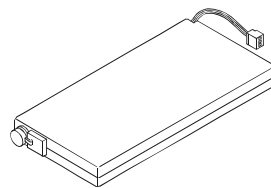


野外運用



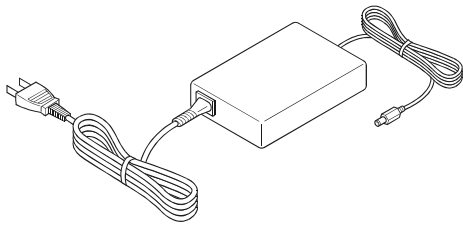
FC-30

自動的にアンテナシステムのチューニングを行う
“オートマチックアンテナチューナー”



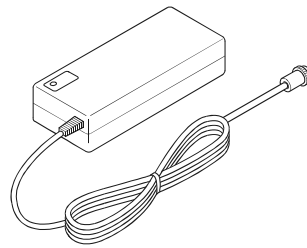
FNB-78

FT-897Dに内蔵できるNiMHバッテリーパック
2個内蔵することで、運用時間が2倍に！



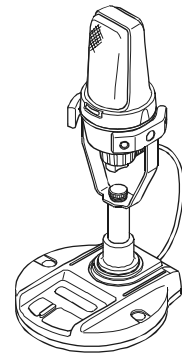
PA-26

CD-24 に接続する専用電源
CD-24 とセットで使用し FNB-78 の充電を
行います。



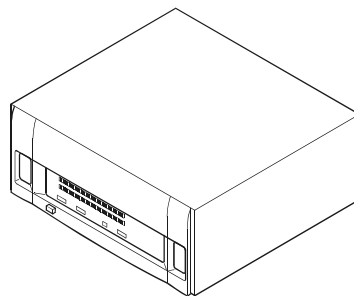
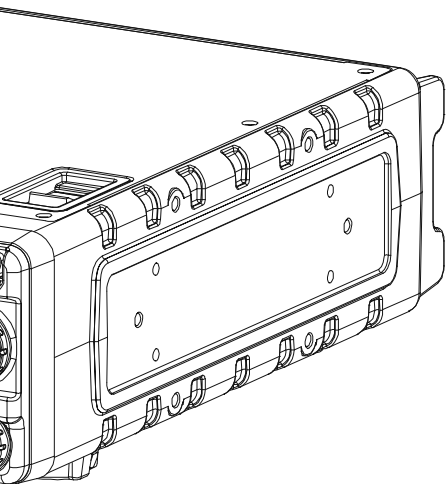
CD-24

FNB-78 専用充電器
13.8V の直流電源または PA-26 に接続し、
約4時間で FNB-78 の充電を行います。



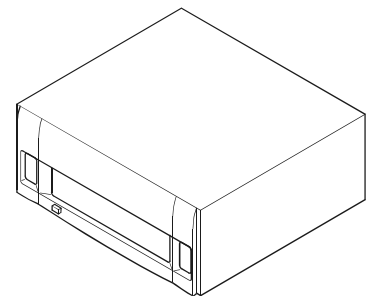
MD-200A8X

最高級デスクトップマイクロホン
VSPC を採用し、お好みの音質に調整可能



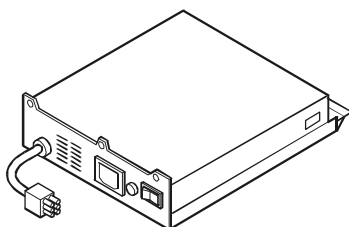
VL-1000

高出力リニアアンプ
HF 帯で 1kW, 50MHz 帯では
500W の高出力を実現



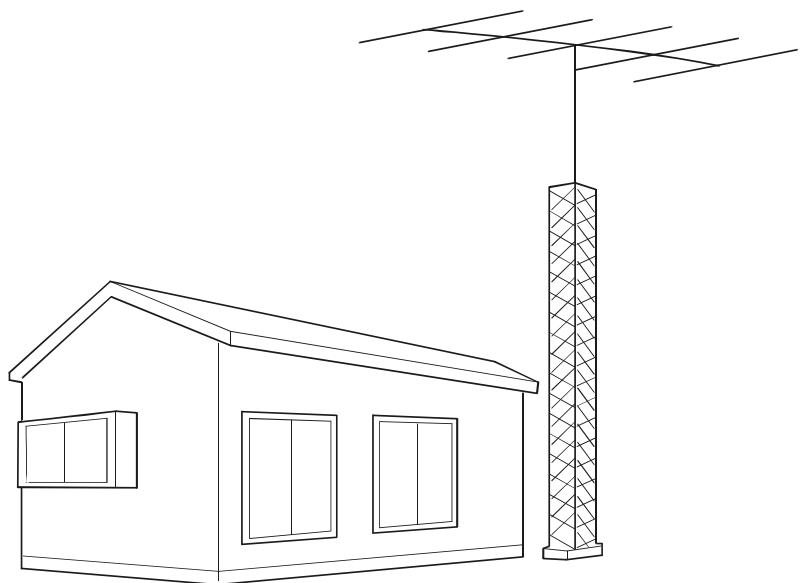
VP-1000

VL-1000 専用電源
VL-1000 に必要な電力を安定して供給可能



FP-30

FT-897 に内蔵できる DC 電源 (13.8V, 22A)



固定運用

準備

アンテナについて

本機のアンテナインピーダンスは、50Ωのアンテナに整合するように設計してあります。

したがって、アンテナ端子に接続する点のインピーダンスがこの値にあるアンテナであれば、どのような型式のものでも使用することができます。

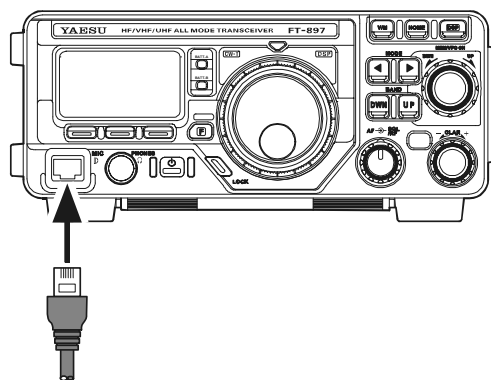
ただし、アンテナにより受信感度や送信する電波の飛び具合などに大きく影響しますので、アンテナの調整は念入りに行ってください。

また、430MHz帯のように波長が短くなると、本機とアンテナを結び同軸ケーブルでの損失が無視できなくなりますので、なるべく損失の少ない良質の同軸ケーブルを使用するとともに、アンテナと同軸ケーブル・同軸ケーブルと本機間の整合を確実にとり、SWRが低い状態で使用するようになしてください。

なお、本機には、本体側面に取り付けることができ、HF帯から50MHz帯までのアマチュアバンドをカバーするアンテナ・チューナー“FC-30”をオプションとして用意しておりますので、お使いのアンテナのSWRが十分に下がらないような場合にご利用ください。

マイクロホンを取り付ける

下図を参考に、付属のマイクロホンを本体正面のMIC端子に差し込みます。



- ・マイクロホンを外すときには、マイクコネクタの“PUSH▼”部分を押しながら引き抜いてください。

電源について

本機は下記に記す3電源に対応していますので、さまざまな状況のもとで運用することができます。

電池パック“FNB-78”

本機に内蔵することができる、オプションのニッケル水素電池パック“FNB-78”(13.2V, 4500mAh)を使用して、最大出力20Wの運用を行うことができます。なお“FNB-78”は2個内蔵することができますので、長時間の野外運用が可能です。

使用時間の目安

“FNB-78”を1個内蔵の時 ▶▶ 約4時間

“FNB-78”を2個内蔵の時 ▶▶ 約8時間

21MHz、USBモード、送信出力20W時(送信“1”，受信“1”，待ち受け“18”)

上記の使用時間は目安です。実際に使用できる時間は、使いかたや周囲の温度などにより異なります。

AC電源“FP-30”

屋内ではオプションの内蔵型AC電源“FP-30”を使用し、最大出力100Wの運用を行うことができます。

DC電源

付属の電源ケーブルを使用することにより、カーバッテリーなどの直流電源で運用することができます。

外部電源使用時の注意事項

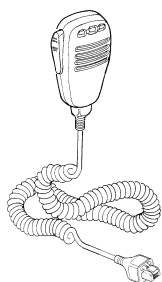
- ・本機を外部電源で使用するときは、必ず付属の電源ケーブルを使用して、直流電源(下表参照)に接続してください。
- ・電源ケーブルの極性と外部電源のプラス(+), マイナス(-)を間違えないよう、十分に注意してください。(電源ケーブルの赤線を外部電源の“プラス”, 黒線を“マイナス”に接続してください)。間違っていると故障の原因になります。

FT-897D	13.8V 22A 以上
FT-897DM	13.8V 14A 以上
FT-897DS	13.8V 10A 以上

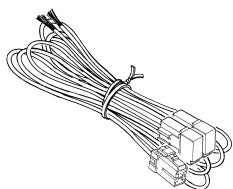
ナス(-)を間違えないよう、十分に注意してください。(電源ケーブルの赤線を外部電源の“プラス”, 黒線を“マイナス”に接続してください)。間違っていると故障の原因になります。

- ・電池パック“FNB-78”が取り付けられているときに外部電源を使用すると、外部電源が優先されます。

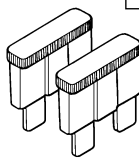
付属品



マイクロホン MH-31A&J



電源コード(ヒューズ付)



予備ヒューズ(25A)

保証書に、お買い上げになりました販売店と日付が記入されていることをご確認ください。

- ・取扱説明書(本書)
- ・保証書
- ・JARL 入会申込書
- ・ご愛用者カード

電池パック “FNB-78” で運用する

野外運用時など、外部電源を使用することができない状況で運用する場合、オプションの“FNB-78”を使用することで、出力20Wの本格的な運用を行うことができます。

1つの“FNB-78”でも本格的な運用を行うことはできますが、更にもう1つ内蔵することにより、長時間の運用を行うことができ、2つの電池パックは、本体上面のスイッチで切り換えることができます。

また、運用中は“BATT-A”または“BATT-B”の点灯状態で、電池パックの状況を知ることができます。

取り付け方法

1. 電源をオフにし、電源ケーブルなどの全てのケーブル類を外します。
 2. 本体底面にある3本のビスを外します(図1参照)。
 3. 本体背面にある3本のビスを外し(図2参照)、FT-897D本体の底面ケースを外します。
 4. “A”または“B”の位置にある溝に、電池パック“FNB-78”の凸部分を合わせ入れます(図3参照)。
 5. 電池パック“FNB-78”の電源コネクタをFT-897D本体のコネクタに差し込みます(図3参照)。
- “A”の位置に取り付けた場合は“A”のコネクタに、“B”の位置に取り付けた場合は“B”のコネクタに接続してください。
6. 底面ケースを取り付けた際に、電源コネクタの線材が挟まれないよう“FNB-78”に付属のテープで、線材を固定します。
 7. 充電端子カバー(図2参照)を取り外します。
 8. 底面のケースを元通りに取り付けます。

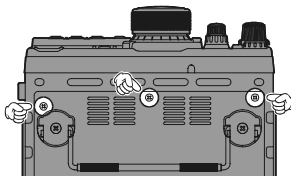


図1

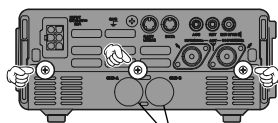


図2 充電端子カバー

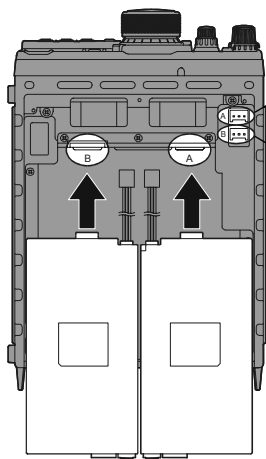
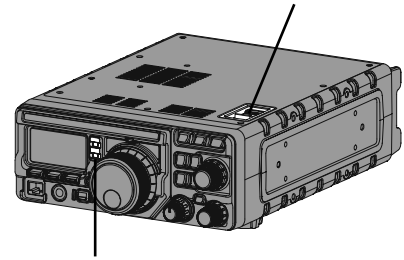


図3

Aの位置に取り付けた電池パックのコネクタを接続する

Bの位置に取り付けた電池パックのコネクタを接続する

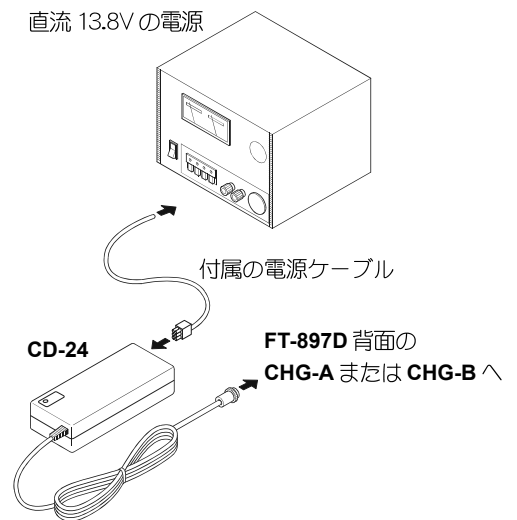
電池パック“A”と“B”を切り換えるスイッチ



- オレンジの点灯 : 現在使用中の電池/パック
- 緑の点灯 : 電池/パックが接続されています。
- オレンジ/緑の点滅 : 電池の容量が少なくなりました。充電を行ってください。
- 赤の点灯 : 充電中(充電が完了すると消えます。)
- 消灯 : 電池/パックが接続されていないか、電池の容量が少なすぎるため、本機を動作させることができない状態です。

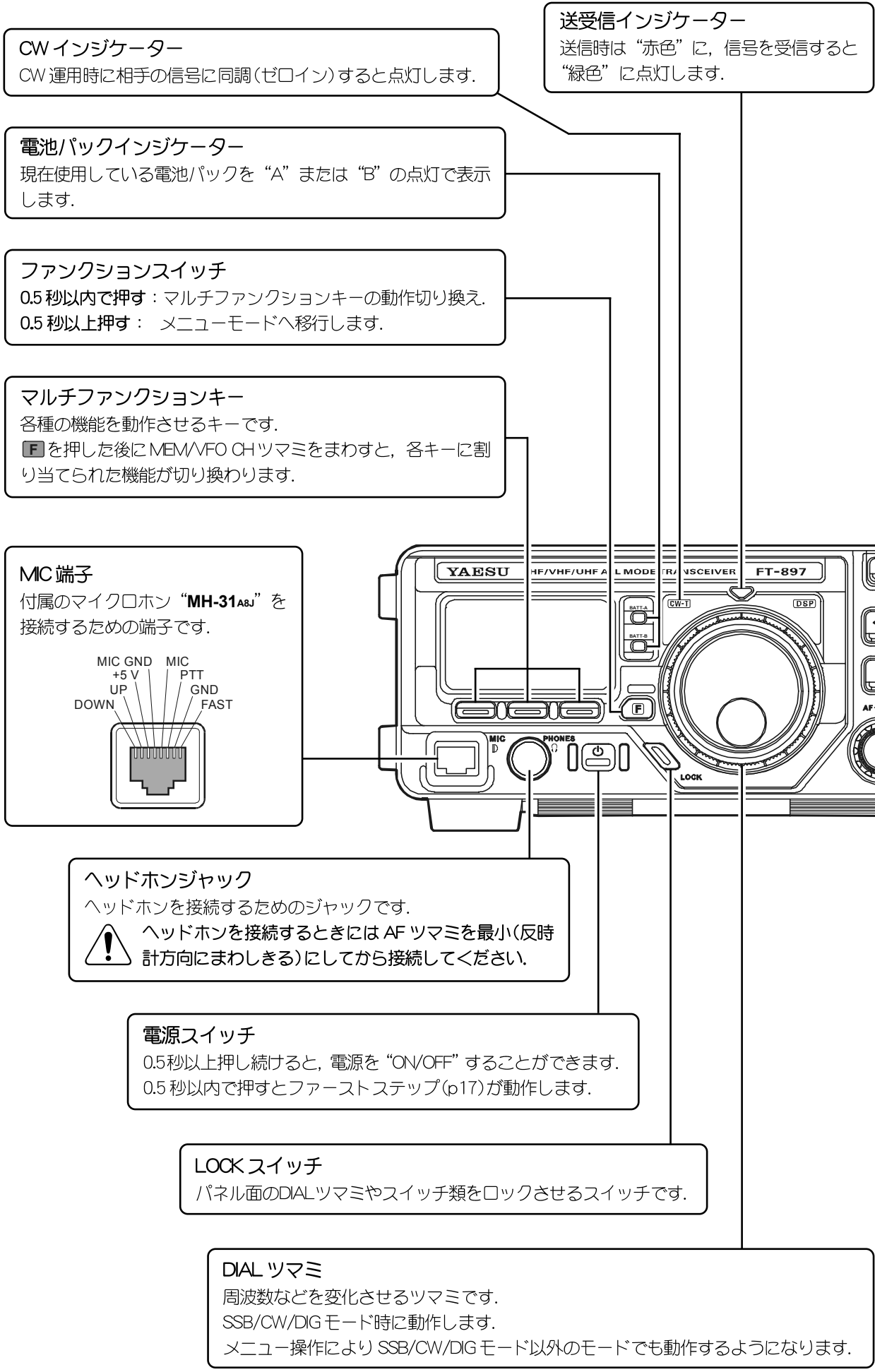
充電方法

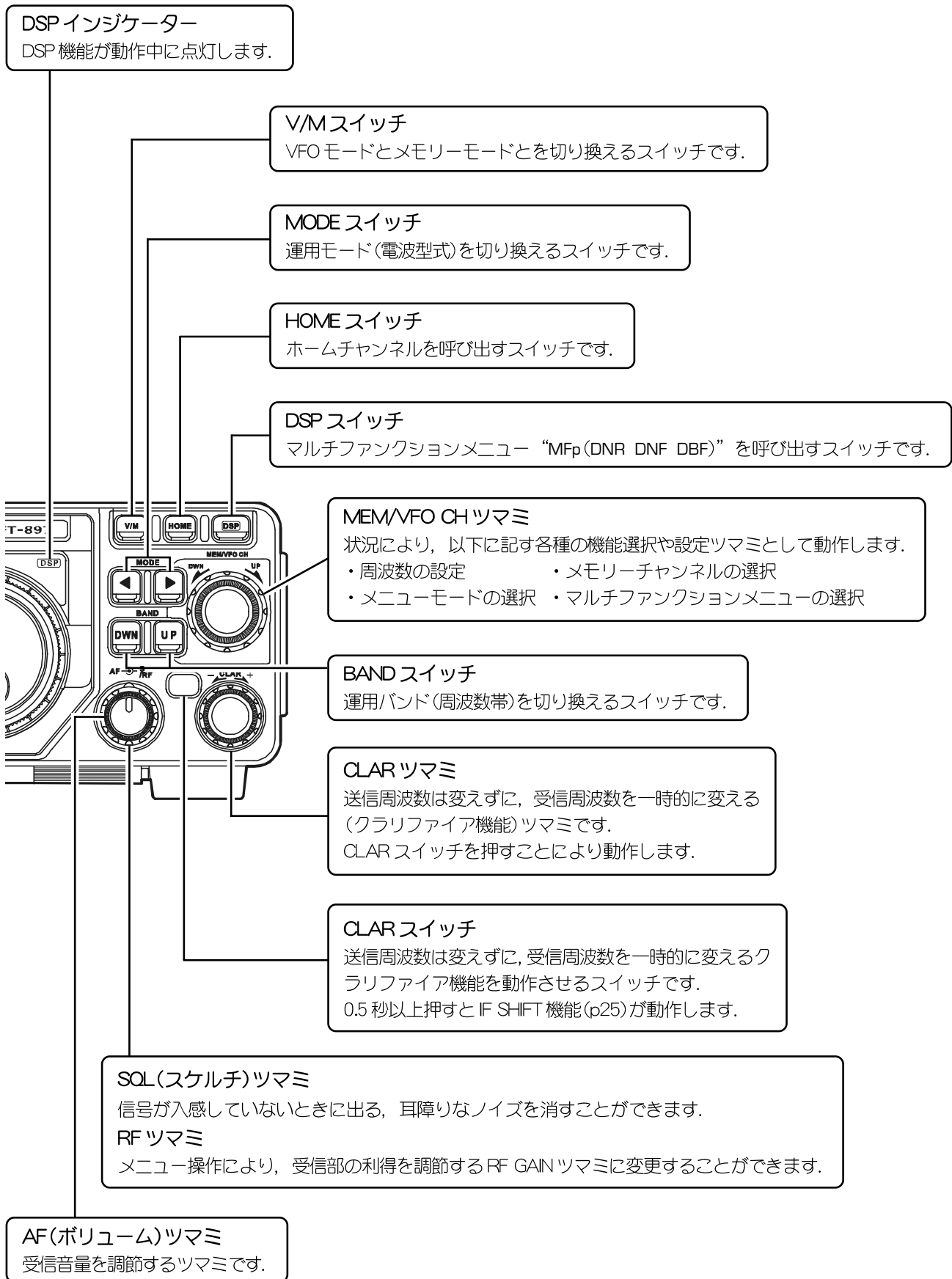
1. 付属の電源ケーブルを使用して、直流13.8Vの電源とオプションの充電器“CD-24”を接続します。
 - ・直流13.8V電源の代わりに、オプションの“PA-26”を使用して充電することもできます。
2. FT-897Dの電源がオフになっていることを確認し、“CD-24”の充電プラグを本体背面にある電池パックの充電端子(CHG-AまたはCHG-B)に接続します。
3. 充電中は“BATT-A”または“BATT-B”が赤色に点灯し、充電が完了(約4時間)すると、赤色の点灯が消えます。



- ・長時間使用しない場合は、本体から電池/パックを取り外しておいてください。
- ・電池/パックの取付や取り外しを行うときには、電源をオフにしてください。

パネル面の説明





ディスプレイの説明

T : トーンエンコーダーが動作中に点灯します(メニュー No-079 SPLIT TONE が ON の場合).
TEN : トーンエンコーダーが動作中に点灯します(メニュー No-079 SPLIT TONE が OFF の場合).
T-D : トーンエンコーダーおよび DCS デコーダーが動作中に点灯します.
T-T : トーンエンコーダーおよびトーンデコーダーが動作中に点灯します.
D : DCS エンコーダーが動作中に点灯します(メニュー No-079 SPLIT TONE が ON の場合).
DEN : DCS エンコーダーが動作中に点灯します(メニュー No-079 SPLIT TONE が OFF の場合).
D-D : DCS エンコーダーおよび DCS デコーダーが動作中に点灯します.
D-T : DCS エンコーダーおよびトーンデコーダーが動作中に点灯します.
TSQ : トーンスケルチ機能が動作中に点灯します.
DCS : DCS(デジタルコードスケルチ)機能が動作中に点灯します.

SPL: スプリット機能が動作中に点灯します.
-: マイナスシフト(レピーター運用時)時に点灯します.
+: プラスシフト(レピーター運用時)時に点灯します.

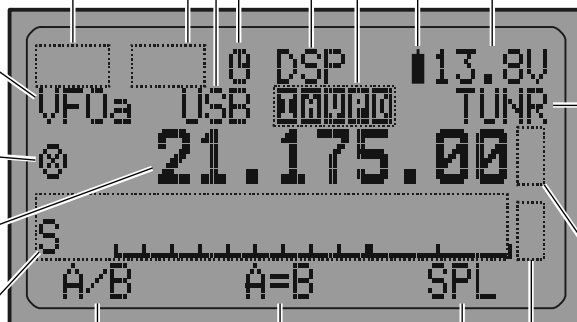
“VFOモード”やメモリーモードなどの動作状態を表示します.

トランスバーターモード時に点灯します.

送受信周波数を表示します.

送受信メーターを表示します.

S: Sメーター
PWR: POメーター
MOD: 変調メーター
SWR: SWRメーター
ALC: ALCメーター



運用モード(電波型式)を表示します.

APO 機能(オートマチックパワーオフ)が動作中に点灯します.

DSP 機能が動作中に点灯します.

I: IPO 機能が動作したときに点灯します.
A: アッテネーター機能が動作したときに点灯します.
V: VOX 機能が動作したときに点灯します.
P: プライオリティ機能が動作したときに点灯します.
D: デュアルワッチ機能が動作したときに点灯します.

電池パック“FNB-78”で運用中に点灯します.

電源電圧を表示します.

TUNR: アンテナチューナー動作中に点灯します.

HSWR: SWRが3以上のときに点灯します.

HTMP: 本体内部の温度が異常上昇したときに点灯します.

▲▲▼▼◆: IF SHIFTが動作しているときに点灯します.

↑▲▼↓■: クラリファイアが動作しているときに点灯します.

マルチファンクションキーの動作を表示します.

⏏: LOCK機能が“ON”のときに点灯します.

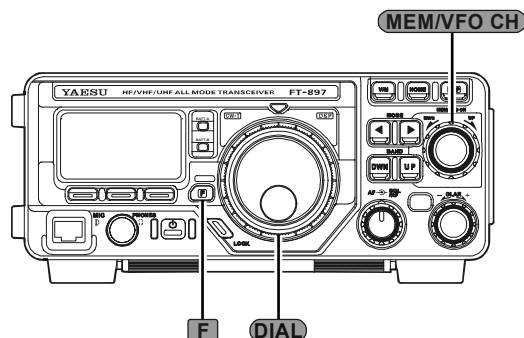
⏏と**⏏**の点滅:
 マイクロホンの“FST”スイッチを押すか電源スイッチを押して“ファースト機能(p17)”が動作したときに点灯します.

ディスプレイの色や表示の大きさを変える

ディスプレイの色変更

ディスプレイの色を 32 色の中から好みの色に変更することができます。更に、運用状態に応じてディスプレイの色が変わるようにすることができますので、現在の運用状態を一目で知ることができます。

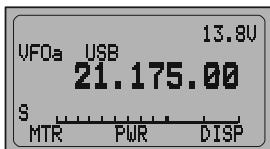
1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-041 DISP COLOR” を呼び出します。
3. **MEM/VFO CH** ツマミを押します。
4. **DIAL** ツマミをまわして、ディスプレイの色を変更したい状態を選びます。
5. **MEM/VFO CH** ツマミを押します。
6. **DIAL** ツマミをまわして、希望の色パターン (FIX のときは希望の色) を選択します。
7. **F** を長押しすると、設定は終了です。



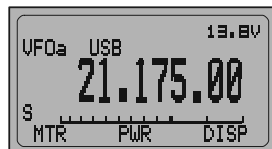
ARTS	アーツ機能の状態により、異なるディスプレイの色を表示させることができます (2 パターン)。
BAND	運用バンドごとに、異なるディスプレイの色を表示させることができます (2 パターン)。
FIX	運用モードや状態に関係なく、常に表示させたい色 (32 色) を設定できます。
MEMGRP	メモリーグループごとに、異なるディスプレイの色を表示させることができます (2 パターン)。
MODE	運用モードごとに、異なるディスプレイの色を表示させることができます (2 パターン)。
MTR	メーターの振れる量に応じて、ディスプレイの色を変化させることができます (2 パターン)。
VFO	VFOa と VFOb を異なるディスプレイの色で表示させることができます。

倍角表示

周波数の表示を大きくすることができます。

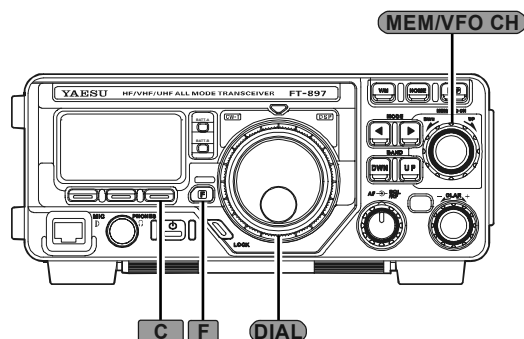


通常の表示



倍角表示

1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “MFi (MTR PWR * DISP)” を呼び出します。
※前回の設定により表示が異なります。
3. **C** (DISP) を押します。
周波数表示が大きくなります。
4. もう一度 **C** (DISP) を押すと、元の大きさに戻ります。



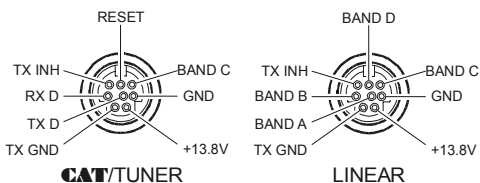
・倍角表示のときにメニューモードを呼び出すと、選択項目の表示が “倍角表示” になります。

背面の説明

CAT/リニアコネクタ

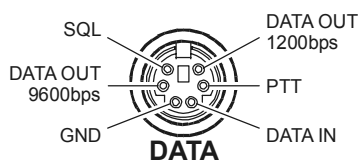
CAT 運用時にはオプションの **CAT** インターフェースケーブル “**CT-62**” を使用して、パソコンと接続します。

リニアアンプ “**VL-1000**” を接続する時には、オプションの接続ケーブル “**CT-58**” を使用して、リニアアンプ “**VL-1000**” と接続します。



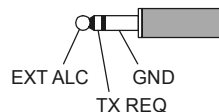
DATA(データ)コネクタ

データ通信の周辺機器を接続するためのコネクタです。



ACC(アクセサリ)端子

リニアアンプ “**VL-1000**” を接続したときの ALC 電圧の入力と、送受信切り換え端子です。



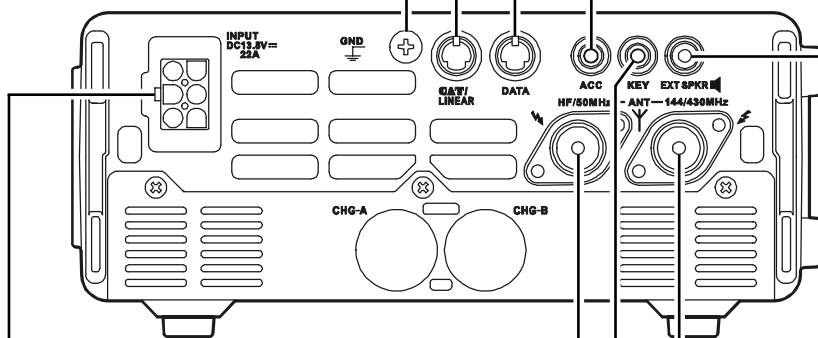
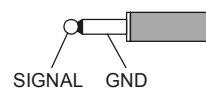
GND(グラウンド)端子

本機をアースする端子です。

できるだけ太い線材を使用し、最短距離で大地に接続してください。

EXT SPKR(外部スピーカー)端子

外部スピーカーを接続するジャックです。



ANT(アンテナ)端子

HF 帯と 50MHz 帯のアンテナを接続する(M型)端子です。

ANT(アンテナ)端子

144MHz 帯と 430MHz 帯のアンテナを接続する(M型)端子です。

電源端子

外部直流電源を接続する端子です。

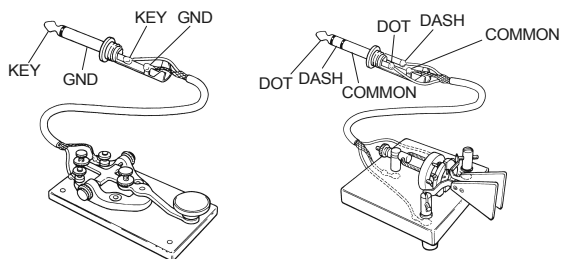
付属の電源ケーブルを使って、直流電源に接続します。

FT-897D	13.8V 22A 以上
FT-897DM	13.8V 14A 以上
FT-897DS	13.8V 10A 以上

KEYジャック

電鍵を接続するための 3.5φ の 3ピンジャックです。

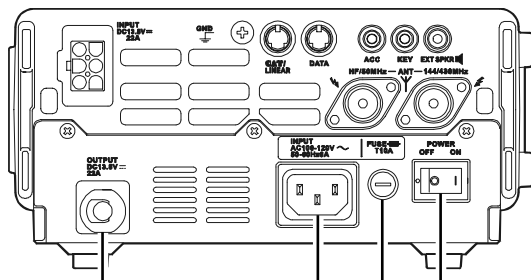
下図を参考に、お手持ちの電鍵またはパドルを接続します。開放時の電圧は +5V、短絡時の電流は約 0.5mA です。



背面 / 上面 / 底面 / マイクロホンの説明

● AC電源“FP-30”を内蔵した場合

● 電池パック“FNB-78”を内蔵した場合

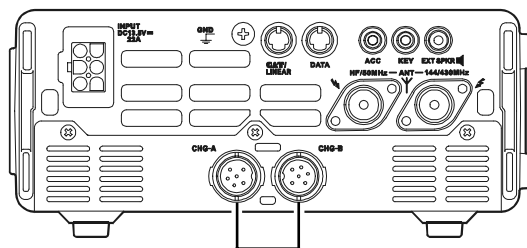


電源出力ケーブル
 直流 DC13.8V 22A が出力されるケーブルです。

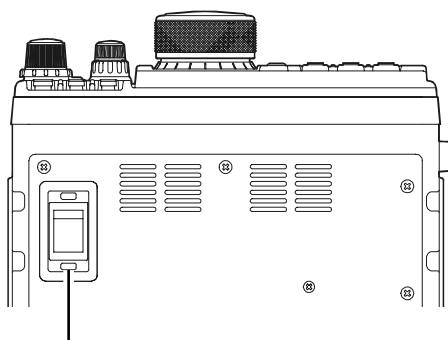
AC電源スイッチ
 FP-30の電源スイッチです。

AC入力ソケット
 AC 100V用の3P型ソケットです。付属の電源コードを使って、直接AC 100Vのコンセントに接続します。

FUSEホルダー
 10Aのヒューズを使用します。

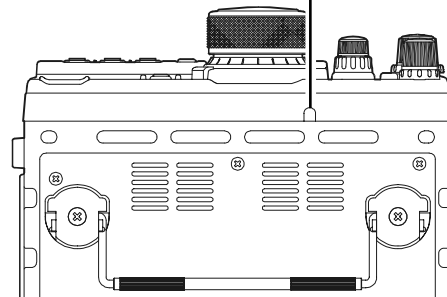
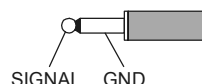


充電端子
 電池パック“FNB-78”の充電端子です。オプションの充電器“CD-24”を接続して充電します。



電池パック切り換えスイッチ
 電池パック“A”と“B”を切り換えるスイッチです。

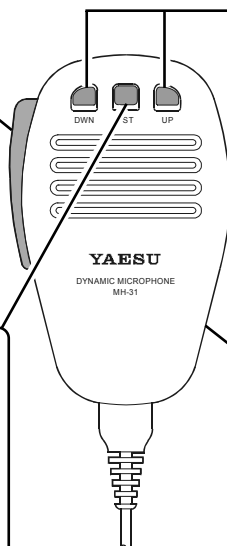
アナログメーター端子
 本機のPWR, ALC, MODメーターなどの信号を出力する端子です。



PTTスイッチ
 送受信を切り換えるスイッチです。押して「送信」、離すと「受信」になります。

[UP]/[DWN]スイッチ
 周波数の変更やメモリーチャンネルの選択を行うスイッチです。CW運用時には、簡易キーヤーとして使用することができるように設定することができます。

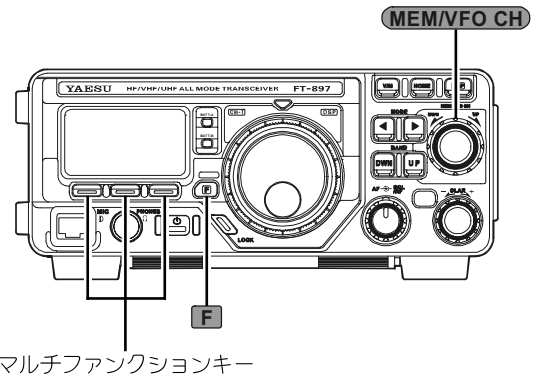
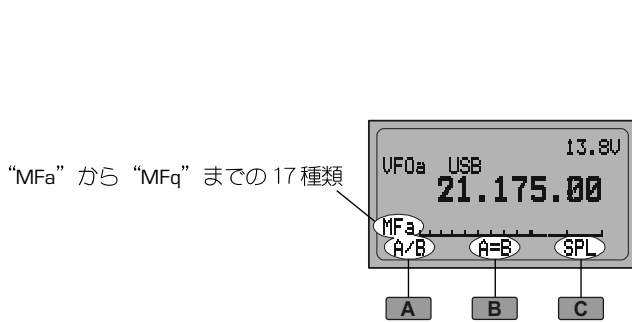
FASTスイッチ
 周波数の変化量を切り換えるスイッチです。
MEM/VFO CH ツマミの周波数変化量が2倍、
DIAL ツマミの周波数変化量が10倍になります。また、0.5秒以上押し続けると、電源を“ON/OFF”することができます。



TONEスイッチ
 送信音質を切り換えるスイッチです。“2”側に切り換えると高音が強調された送信音になります。

マルチファンクションキー

Fを押した後に **MEM/VFO CH** ツマミをまわすと、マルチファンクションキー **A B C** の機能(動作)を変更することができます。



MFa	
	<ul style="list-style-type: none"> A VFO-AとVFO-Bの切り換え B VFO-AとVFO-Bの内容を同じにする C スプリット機能の“ON/OFF”操作

MFe	
	<ul style="list-style-type: none"> A トーンエンコーダーの“ON/OFF”操作 DCSエンコーダーの“ON/OFF”操作 B — C トーン周波数サーチ、DCSコードサーチ機能の“スタート/ストップ”

MFb	
	<ul style="list-style-type: none"> A VFOの内容をメモリーチャンネルに書き込む B メモリースキップの“ON/OFF”操作 メモリークリア操作 C TAG表示の“ON/OFF”操作

MFf	
	<ul style="list-style-type: none"> A アーツ機能の“ON/OFF”操作 B スマートサーチ機能の“ON/OFF”操作 C プログラマブルメモリースキャン(PMS)操作

MFc	
	<ul style="list-style-type: none"> A VFOの内容をQMBチャンネルに書き込む B QMBチャンネルの呼び出し C スピーチプロセッサ機能の“ON/OFF”操作

MFg	
	<ul style="list-style-type: none"> A スキャンの“スタート/ストップ” B プライオリティ機能の“ON/OFF”操作 C デュアルレシーブスキャン機能の“ON/OFF”操作

MFd	
	<ul style="list-style-type: none"> A レピーター機能の“ON/OFF”操作 B レピーター運用時に送受信周波数を入れ換える C VOX回路の“ON/OFF”操作

MFh	
	<ul style="list-style-type: none"> A スペクトラムスコープ機能の“ON/OFF”操作 B スペクトラムスコープ機能の表示幅設定 C スペクトラムスコープ機能のステップ幅設定

マルチファンクションキー

MFi

A 送信メーターの動作選択
 B 送信メーターの動作選択
 C 周波数を倍角の大きさを表示する

MFn

A セラミックフィルターを選択
 B FIL1に取り付けられたオプションフィルターを選択
 C FIL2に取り付けられたオプションフィルターを選択

※オプションのフィルターが取り付けられていない場合(N/Aが表示されている場合)は、**B**と**C**は動作しません。

MFj

A 押している間サイドトーンを発生するSPOT機能が動作
 B CW ブレークイン回路の“ON/OFF”操作
 C エレクトリックキーヤ回路の“ON/OFF”操作

MFo

A ビーコンテキスト1の内容を送出
 B ビーコンテキスト2の内容を送出
 C ビーコンテキスト3の内容を送出

MFk

A アンテナチューナーの“ON/OFF”操作
 B ATAS-100/-120のチューニング(アンテナを縮める)操作
 C ATAS-100/-120のチューニング(アンテナを伸ばす)操作

MFp

A DSP NR機能の“ON/OFF”操作
 B DSP AUTO NOTCH機能の“ON/OFF”操作
 C DSP BPF機能の“ON/OFF”操作

MFi

A ノイズブランカーのON/OFF操作
 B AGC回路の“ON/OFF”操作
 C AGC回路の時定数の切り換え

MFq*

A 押している間スケルチを開きます
 B クイックスプリット機能(p27参照)の“ON/OFF”操作
 C 通常は使用しないでください

※MFqで使用される**A****B****C**を押したときの動作は、メニューモード“**No-065 PG A**”“**No-066 PG B**”“**No-067 PG C**”で変更することができます。

なお、これらのメニューモードは“**No-001 EXT MENU**”を“ON”にしないと、呼び出すことはできません(p46参照)。

MFm

A 受信部高周波増幅回路の“ON/OFF”操作
 B 受信アッテネーターの“ON/OFF”操作
 C Narrow FMとWide FMの切り換え

受信操作

基本的な操作

1. 電源スイッチを押し続けると、電源がオンになります。
2. **AF** ツマミをまわして、受信音量を調節します。
時計方向(右)にまわすと、受信音が大きくなります。
3. **BAND(UP)** / **BAND(DWN)** を押して受信するバンドを選びます。

周波数 (初期値)	運用 モード	周波数 (初期値)	運用 モード
1.80000MHz	CW	21.00000MHz	USB
3.50000MHz	LSB	24.50000MHz	USB
7.00000MHz	LSB	28.00000MHz	USB
10.00000MHz	CW	50.00000MHz	USB
14.00000MHz	USB	88.00000MHz	WFM
15.00000MHz	AM	144.00000MHz	USB
18.00000MHz	USB	430.00000MHz	USB

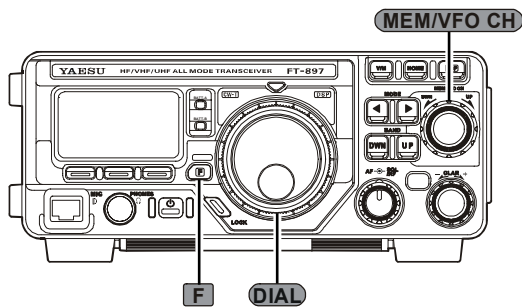
- ・ 15MHzバンドは“ゼネラルカバレッジ受信バンド”といい、0.1～30MHzの周波数を連続して受信することができるバンドです。なお、“ゼネラルカバレッジ受信バンド”は設定した周波数により**BAND(UP)** / **BAND(DWN)** で呼び出される順番が異なります。
- ・ 88MHzバンドでは、FMラジオを受信することができます。

4. **MODE(▶)** を押して、運用モード(電波型式)を選びます。
MODE(◀) / **MODE(▶)** を押すたびに、以下のように切り換わります。

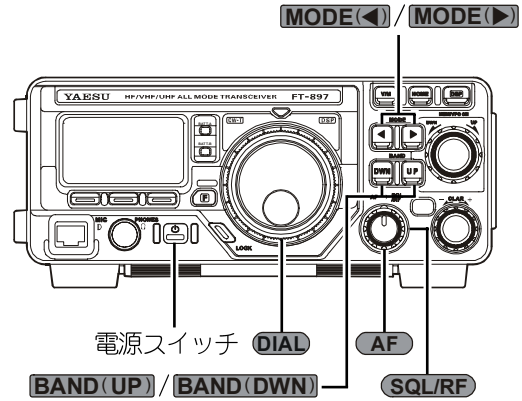
・・・LSB ↔ USB ↔ CW ↔ CWR
AM ↔ FM ↔ DIG ↔ PKT・・・

ビープ音の変更操作

操作時などに発する、操作確認音の音量と音程(トーン)を変更することができます。



1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわし、音程を変更するときにはメニューモードの“No-013 BEEP TONE”，音量を変更するときには“No-014 BEEP VOL”を呼び出します。
“No-001 EXT MENU”を“ON”にしないと“No-013 BEEP TONE”を呼び出すことはできません(p46 参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわして、お好みの音程(440Hz/880Hz/1760Hz、工場出荷時：880Hz)または音量(0～100、工場出荷時：50)に設定します。
4. **F** を長押しすると、ビープ音が変更されます。

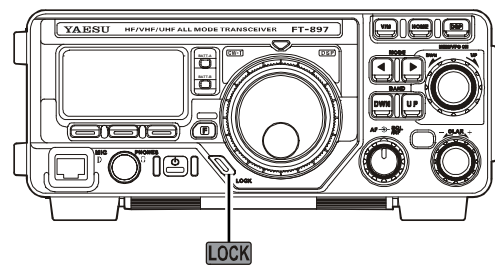


5. FMモードで受信する場合には、**SQL/RF** ツマミをまわして、スケルチを調節します。
信号のない周波数を選んで、雑音が聞こえなくなる位置にします。
FMモード以外ときには**SQL/RF** ツマミは左方向にまわしきっておきます。
6. **DIAL** ツマミまたは**MEM/VFO CH** ツマミをまわして、希望の周波数にあわせます。
マイクロホンの[UP]/[DWN]でも周波数をあわせることができます。

- ・ 運用モード(電波型式)がAM/FM/PKTの時には、**DIAL** ツマミは動作しませんが、メニューモード“No-004 AM&FM DIAL”の設定(p46)により、動作するように変更することができます。
※ “No-001 EXT MENU”を“ON”にしないと“No-004 AM&FM DIAL”を呼び出すことはできません(p46 参照)。

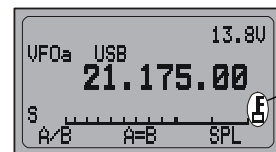
LOCK

移動の時などに、振動その他の原因で周波数などが変更しないよう、**DIAL** ツマミをロックすることができます。



1. **LOCK** を押します。
2. もう一度**LOCK** を押すと、ロックは解除されます。

- ・ ロック機能が動作しているときは、ディスプレイに“**F**”が点灯します。



“**F**” が点灯する

- ・ メニューモード“No-054 LOCK MODE”の設定により、**DIAL** ツマミと**LOCK** 以外のツマミやスイッチもロックできるようにすることができます。
※ “No-001 EXT MENU”を“ON”にしないと“No-054 LOCK MODE”を呼び出すことはできません(p46 参照)。



受信時に使用するその他の機能

STEP

DIAL ツマミと **MEM/VFO CH** ツマミのステップ幅は、下表に示すように、バンドと運用モード(電波型式)により異なります。

運用モード(電波型式)	DIAL	MEM/VFO CH
LSB/USB	10 / 20 Hz	1.0 / 2.5 / 5.0 kHz
CW	10 / 20 Hz	1.0 / 2.5 / 5.0 kHz
AM	—	2.5 / 5.0 / 9.0 / 10.0 / 12.5 / 25.0 kHz
FM	—	5.0 (HF/50MHz) / 6.25 / 10.0 / 12.5 / 15 / 20.0 (144/430MHz) 25.0 / 50.0 kHz
PKT	—	5.0 (HF/50MHz) / 6.25 / 10.0 / 12.5 / 15 / 20.0 (144/430MHz) 25.0 / 50.0 kHz
DIG	10 / 20 Hz	1.0 / 2.5 / 5.0 kHz
WFM	—	50 kHz

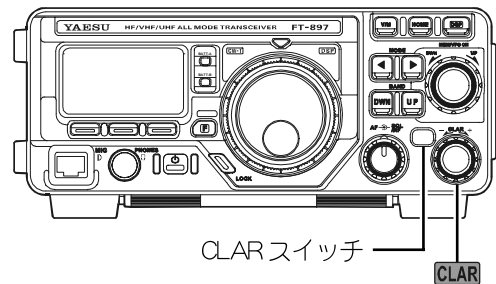
アンダーラインで示した値は、工場出荷時に設定されている値(初期値)です。
FMモードとPKTモード時の初期値は、バンドにより異なります。





- **MEM/VFO CH** ツマミを押し後に **MEM/VFO CH** ツマミをまわすと、周波数を“1MHz”ステップで変更することができます。
- マイクロホンの[UP]/[DWN]は、SSB/CW/DIGモード時は**DIAL** ツマミと同じステップで、FM/PKT/WFM/AMモード時は**MEM/VFO CH** ツマミと同じステップで周波数が変化します。
- **DIAL** ツマミのステップ幅を変更することができます(メニューモード“N0-035 DIAL STEP”)。
- **MEM/VFO CH** ツマミのステップ幅を変更することができます(メニューモード“N0-006 AM STEP” “N0-052 FM STEP” “N0-082 SSB STEP”)。 ※これらのメニューモードは“N0-001 EXT MENU”を“ON”にしないと、呼び出すことはできません(p46 参照)。
- マイクロホンの[FST]を押す、または電源スイッチを0.5秒以内で押すと、ディスプレイに“”と“”の表示が交互に点灯し、**MEM/VFO CH** ツマミの周波数変化量が2倍、**DIAL** ツマミの周波数変化量が10倍になります(ファースト機能)。もう一度[FST]を押すか、電源スイッチを0.5秒以内で押すと、元の周波数変化量に戻ります。
- 運用モード(電波型式)がAM/FM/PKT/WFMのときには、**DIAL** ツマミは動作しません。ただし、メニューモード“N0-004 AM&FM DIAL”の設定により、AM/FM/PKT/WFMのときでも動作するように変更することができます。なお、このときのステップ幅は“100Hz”です。
※ “N0-001 EXT MENU”を“ON”にしないと“N0-004 AM&FM DIAL”を呼び出すことはできません(p46 参照)。

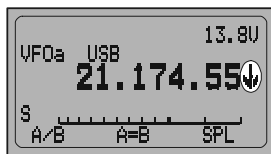
CLAR(クラリファイア)

送信周波数は変えずに、受信周波数だけを変えることができます。



1. [CLAR]スイッチを押します。
2. **CLAR** ツマミをまわすと、受信周波数だけが変わります(調節範囲：± 9.99 kHz)。
3. もう一度[CLAR]スイッチを押すとクラリファイア機能が解除されます。



- クラリファイア機能を解除しても、クラリファイアの変化量(受信周波数と送信周波数の差)はそのまま残ります。
- クラリファイア機能を解除したあとに**DIAL** または**MEM/VFO CH** ツマミをまわすと、変化量は“±0(受信周波数=送信周波数)”になります。
- 受信周波数と送信周波数の関係により、ディスプレイに“”または“”, “-”, “”または“”が点灯します。



受信周波数 < 送信周波数



周波数変化量が 1kHz を超えると
“” が “” に変わります。



受信周波数 = 送信周波数



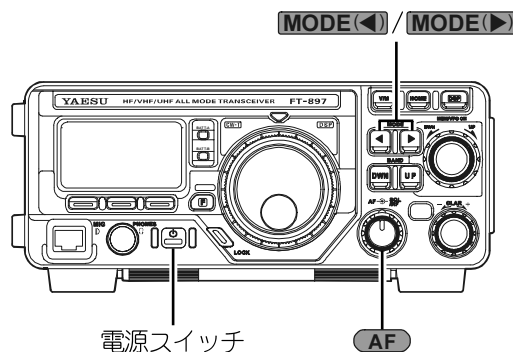
受信周波数 > 送信周波数

周波数変化量が 1kHz を超えると
“” が “” に変わります。

SSB/AM/FMモードでの交信

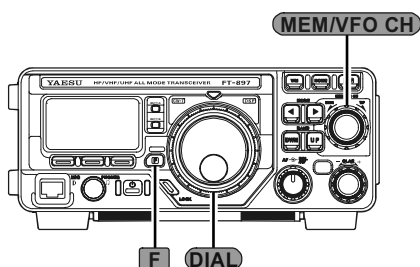
基本的な操作

1. **MODE**(←) / **MODE**(→) を押して、運用モード(電波型式)を選びます。
SSBモードの場合、7MHz帯以下の周波数では“LSB”、10MHz帯以上の周波数では“USB”を選びます。
2. **DIAL** ツマミまたは **MEM/VFO CH** ツマミをまわして、希望の周波数にあわせます。
3. マイクロホンのPTT を押しながら、マイクロホンに向かって話します。
マイクロホンと口元の間隔は5cm位が適当で、普通の声で話します。
4. PTT を離すと、受信状態に戻ります。



送信出力の調整

距離の近い相手と交信するときや、バッテリーの消費を抑えるときには、送信出力を下げるすることができます。



1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“No-075 RF POWER SET”を呼び出します。
3. **DIAL** ツマミをまわして、希望の送信出力に設定します。
4. **F** を長押しすると、送信出力が設定されます。

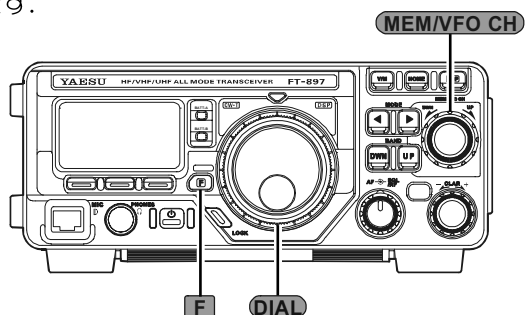
- ・ オプションのNi-MH電池パック“FNB-78”で運用している場合には、最大送信出力の上限は20W(430MHz帯は10W)になります。
- ・ 最大送信出力は周波数帯により異なります(下表参照)。

	HF 帯	50MHz 帯	144MHz 帯	430MHz 帯
FT-897D	100W (25W)	100W (25W)	50W (12.5W)	20W (5W)
FT-897DM	50W (12.5W)	50W (12.5W)	50W (12.5W)	20W (5W)
FT-897DS	10W (3W)	20W (5W)	20W (5W)	20W (5W)

() は AM モード時の出力です。

タイムアウトタイマー機能(TOT)

指定した時間連続送信を行うと、自動的に受信状態に戻るようにすることができます。誤操作による“不要電波の送出”や“バッテリーの消耗”を防ぐことができます。

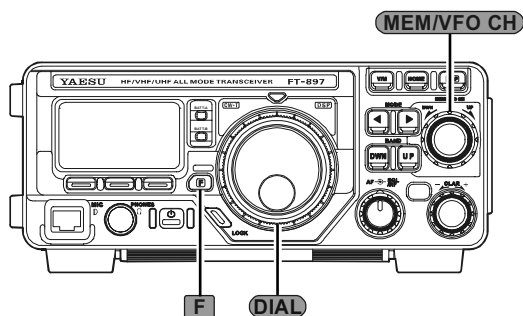


1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“No-084 TOT TIME”を呼び出します。
“No-001 EXT MENU”を“ON”にしないと“No-084 TOT TIME”を呼び出すことはできません(p46 参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわして、自動的に受信状態に戻るまでの時間を選びます。
4. もう一度 **F** を長押しすると、タイムアウトタイマー機能が設定されます。

- ・ 選択できる時間は、1分間隔で“1分”から“20分”までです。
- ・ タイムアウトタイマー機能を解除するには、上記の操作を繰り返し、操作3. で設定を“OFF”にあわせます。

MIC GAINの調整

マイクロホンの感度を運用モード(電波型式)ごとに調節することができます。



1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして、運用モード(電波型式)にあったメニューを呼び出します(下表参照)。

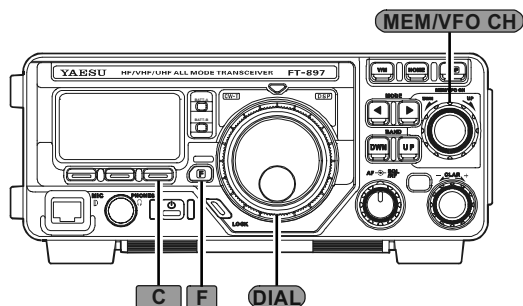
運用モード(電波型式)	メニューモード
SSB	No-081 SSB MIC GAIN
AM	No-005 AM MIC GAIN
FM	No-051 FM MIC GAIN

3. **DIAL** ツマミをまわして、マイクロホンの感度を調整します(0 ~ 100)。(工場設定値: 50)
4. もう一度 **F** を長押しすると、マイク感度が設定されます。

SSB/AM/FMモードでの交信

VOX 操作

マイクロホンのPTTを押さなくても、音声により送信/受信を自動的に切り換えることができます。話すとき“送信”，話すのをやめると“受信”に戻ります。



1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFd (RPT REV VOX)”を呼び出します。
3. **C** (VOX) を押すと、VOX機能が動作します。
ディスプレイに“**VOX**”表示が点灯するとともに、“VOX”の表示が“[VOX]”に変わります。

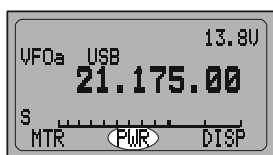
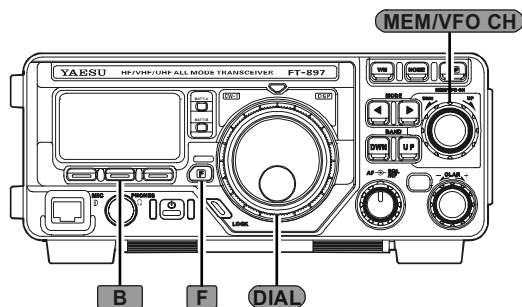
4. **C** (VOX) を長押しします。
5. **DIAL** ツマミをまわして、VOX GAIN (VOX回路の動作感度) を調節します。
周囲の音で送信状態にならないように調節します。
6. **MEM/VFO CH** ツマミを左方向に1クリックまわします。
7. **DIAL** ツマミをまわして、VOX DELAY (話終わってから受信状態に戻るまでの時間) を調節します。
8. **F** を長押しすると“VOX GAIN”と“VOX DELAY”が設定されます。
9. VOX操作を止めるときは、**C** (VOX) を押します。

・操作4～8で行った“VOX GAIN”と“VOX DELAY”の調節は、一度行えば、VOX操作を行うたびに調節する必要はありません。

送信メーターの切り換え

送信時に動作するPOメーターを“ALCメーター”，“SWRメーター”または“変調メーター”に切り換えることができます。

1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFi (MTR PWR* DISP)”を呼び出します。
※前回の設定により表示が異なります。
3. **A** (MTR) を押すたびに、メーターの表示が切り換わります(下表参照)。



表示	動作	機能
PWR	POメーター	送信出力を表示します。送信出力が大きいほどたくさん振れます。SSBモードの時には、音声入力に従ってメーターが振れます。
ALC	ALCメーター	送信回路のALC電圧を表示します。SSBモードの時には、音声入力に従ってメーターが振れます。
SWR	SWRメーター	アンテナ回路の同調(マッチング)状態を表示します。マッチング状態が良好なほど、メーターの振れが少なくなります。
MOD	変調メーター	マイクロホン回路の動作状態を表示します。マイクロホン入力に従ってメーターが振れます。

各メーターの指示は実際の値ではなく、目安を示す「相対値」で表示されます。実際の値を計る場合には、市販のパワメーターやSWRメーターなどを別途ご用意ください。

オールリセット

設定した全ての内容を、初期値(工場出荷時の状態)に戻すことができます。

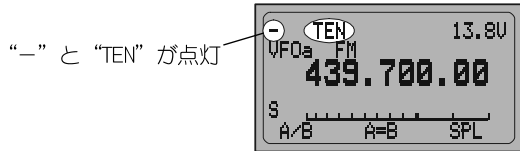
1. 一度電源をオフにします。
2. **HOME** 押しながら電源をオンにします。

レピーターを使った交信

430MHz帯のレピーターを使う場合

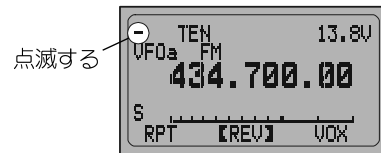
ARS(Automatic Repeater Shift)機能により、受信周波数をレピーター局の周波数にあわせるだけで、レピーターを使った交信ができます。

1. 受信周波数をレピーター局の周波数にあわせます。
ディスプレイに“-”と“TEN”の表示が点灯します。



2. マイクロホンのPTTを押しながら、マイクロホンに向かって話します。
送信時は88.5Hzのトーン信号を伴いながら、受信周波数より5MHz低い周波数で電波が発射されます。

- ディスプレイに“MFd(RPT REV VOX)”の表示を呼び出して **B** (REV)を押すと、送信周波数と受信周波数が入れ替わり、相手と直接交信できるか確認することができます(リバーズ運用：もう一度 **B** (REV)を押すと、リバーズ運用は解除されます)。

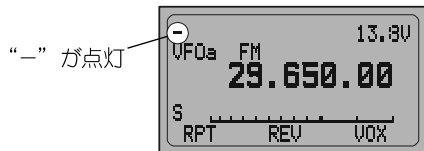


- ARS機能をオフにすることができます(メニューモード“No-003 430MHz ARS”)。
- レピーター運用時のシフト幅を変更することができます(メニューモード“No-076 RPT SHIFT”)。
※“No-001 EXT MENU”を“ON”にしないと“No-076 RPT SHIFT”を呼び出すことはできません(p46参照)。
- トーン周波数を変更することができます(メニューモード“No-083 TONE FREQ”)。

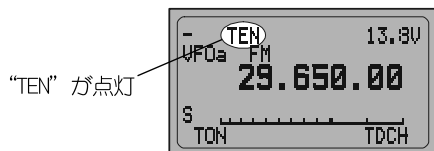
29MHz帯のレピーターを使う場合

下記に記す簡単な操作で、レピーターを使った交信ができます。

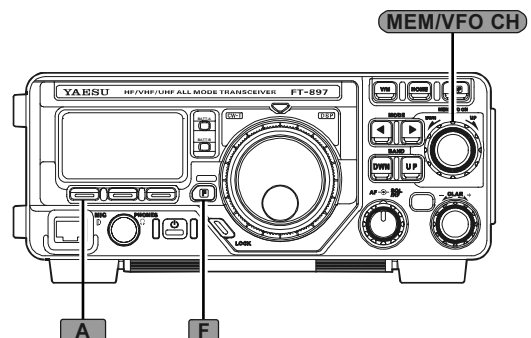
1. 受信周波数をレピーター局の周波数にあわせます。
2. **F**を押します。
3. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFd(RPT REV VOX)”を呼び出します。
4. **A** (RPT)を押します。



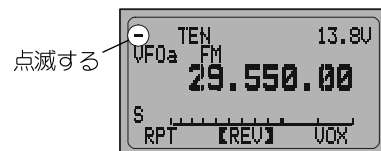
5. **F**を押します。
6. **MEM/VFO CH** ツマミを右に1クリックまわして“MFe(TON TDCH)”を呼び出します。
7. **A** (TON)を押します。



8. マイクロホンのPTTを押しながら、マイクロホンに向かって話します。
送信時は88.5Hzのトーン信号を伴いながら、受信周波数より100kHz低い周波数で電波が発射されます。



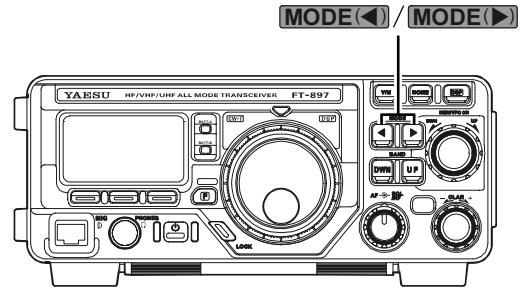
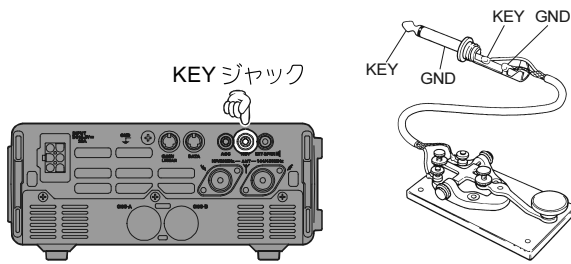
- ディスプレイに“MFd(RPT REV VOX)”の表示を呼び出して **B** (REV)を押すと、送信周波数と受信周波数が入れ替わり、相手と直接交信できるか確認することができます(リバーズ運用：もう一度 **B** (REV)を押すと、リバーズ運用は解除されます)。



- レピーター運用時のシフト幅を変更することができます(メニューモード“No-076 RPT SHIFT”)。
※“No-001 EXT MENU”を“ON”にしないと“No-076 RPT SHIFT”を呼び出すことはできません(p46参照)。
- トーン周波数を変更することができます(メニューモード“No-083 TONE FREQ”)。

縦振れ電鍵を使用する場合

1. 背面の“KEY” ジャックに電鍵を接続します。

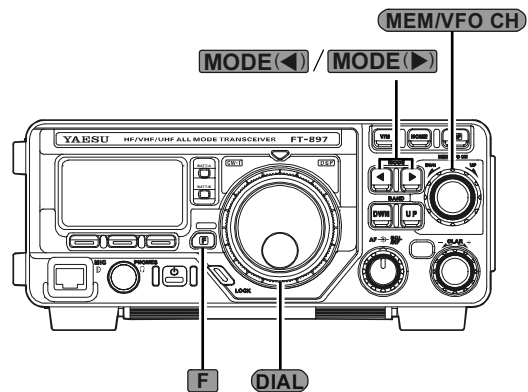
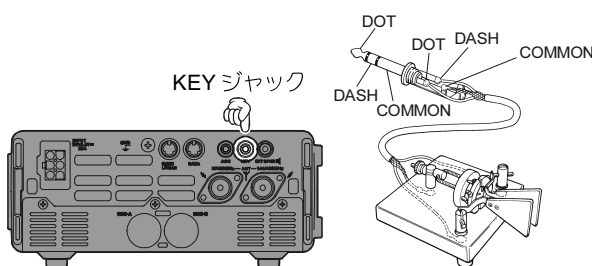


2. **MODE<left>/MODE<right>** を押して、運用モード(電波型式)を“CW” に設定します。
3. 希望の周波数にあわせませす。
4. **F** を押します。
5. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFJ(SPOT BK KYR)” を呼び出します。

6. **B** (BK) を押します。
“BK” の表示が“【BK】” に変わります。
7. 電鍵でキーイング操作を行います。
キーイング操作を行うと自動的に送信状態になり、キーイング操作を止めると受信状態に戻ります。

内蔵のエレクトロニックキーヤーを使用する場合

1. 背面の“KEY” ジャックにパドルを接続します。

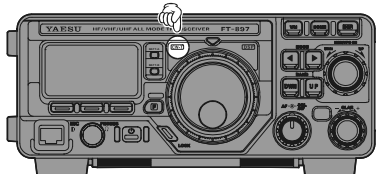


2. **MODE<left>/MODE<right>** を押して、運用モード(電波型式)を“CW” に設定します。
3. 希望の周波数にあわせませす。
4. **F** を押します。
5. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFJ(SPOT BK KYR)” を呼び出します。
6. **C** (KYR) を押します。
“KYR” の表示が“【KYR】” に変わります。
7. パドルでキーイング操作を行います。
キーイング操作を行うと自動的に送信状態になり、キーイング操作を止めると受信状態に戻ります。

- マイクロホンの[UP] [DWN]でも簡易的にキーイング操作を行えるようにすることができます(メニューモード“№026 CW PADDLE”)。
 - パドルの“Dot”(短点)と“Dash”(長点)を反転することができます(メニューモード“№025 CW KEY REV”)。
- ※これらのメニューモードは“№001 EXT MENU”を“ON”にしないと呼び出すことはできません(p46 参照)。

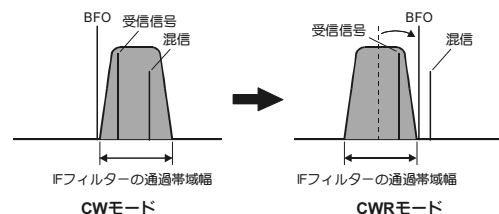
- 相手の信号に正確に同調(ゼロイン)すると、“CW-T”インジケータが点灯します。

CW-T インジケータ



- **HOME** を長押し、または“MFJ(SPOT BK KYR)”を呼び出して**A** (SPOT) を押すと、押している間だけサイドトーンが出ます。受信音がサイドトーンと同じ音程(ゼロビート)になるように**DIAL** ツマミを調整することで、相手局の信号に正確に同調することができます。

- ディスプレイに“MFJ(SPOT BK KYR)”を呼び出し、**B** (BK) を押してブレイクイン機能をオフにすると、キーイング操作を行っても電波は出ずにサイドトーンのみが出力されるようになりますので、電鍵の調節などを行うことができます。
- 混信がある場合には、運用モードを“CWR”に切り換える(**MODE<right>**を1回押す)ことにより、BFOをUSB側からLSB側に移動させて、混信から逃れることができる場合があります。



CW 運用時の付属機能

キーイングスピードの調節

内蔵エレクトロニックキーヤーの“キーイングスピード”を変えることができます。

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-030 CW SPEED” を呼び出します。
3. パドルでキーイング操作を行いながら **DIAL** ツマミで希望のスピードに設定します。
4. もう一度 **F** を長押しすると、キーイングスピードが設定されます。

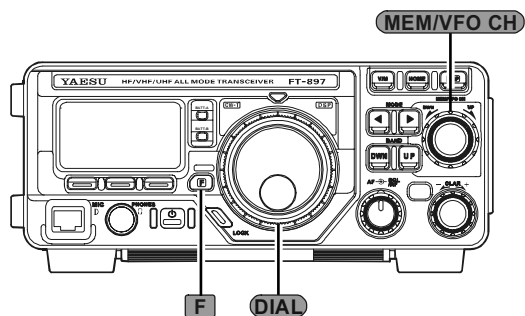
- ・ 操作3の時に **MEM/VFO CH** ツマミを押すと、キーイングスピードの表示が “wpm” “cpm” と切り換わります(工場出荷時は “wpm”)。

wpm(Word Per Minutes):

1分間に送出する単語数の目安(ARRL で定めた “PARIS” 式「1単語 = 5文字」より算出)で、“20 wpm” なら、平均して1分間に20単語の文字を送るスピードになります。

cpm(Character Per Minutes):

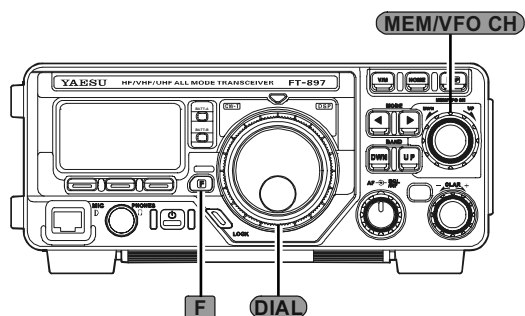
1分間に送出できる文字数の目安で、“60 cpm” なら、1分間に約60字の文字を送るスピードになります。



CW ディレイタイムの調整

キーイング操作が終わってから受信状態に戻るまでの時間を調整することができます。

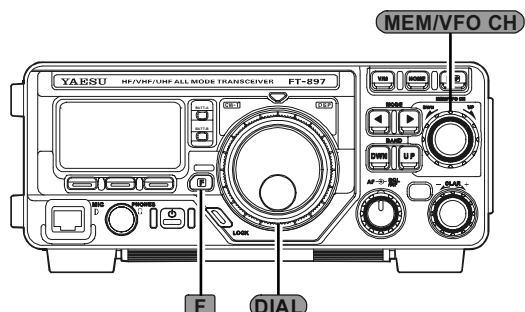
1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-024 CW DELAY” を呼び出します。
3. **DIAL** ツマミをまわして、希望の時間 (FULL/30 ~ 3000ms) を選びます(工場設定値 : 250ms)。
4. もう一度 **F** を長押しすると、CW ディレイタイムが設定されます。



CW サイドトーンの音量調整

キーイング操作時に発する、CW サイドトーンの音量を調整することができます。

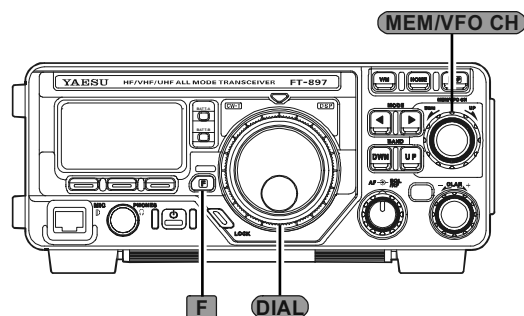
1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-029 CW SIDE TONE” を呼び出します。
3. **DIAL** ツマミをまわして、お好みの音量(0 ~ 100)に設定します(工場設定値 : 50)。
B を押すと、設定した音量でサイドトーンを鳴らすことができます。
4. もう一度 **F** を長押しすると、CW サイドトーンの音量が設定されます。



CW ピッチの調整

CW 信号の受信音 (CW ピッチ) をお好みのトーンに調整することができます。

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-027 CW PITCH” を呼び出します。
3. **DIAL** ツマミをまわして、聞き易い CW ピッチ周波数 (400 ~ 800Hz) を選びます (工場設定値 : 700Hz)。
B を押すと、設定した周波数でトーンを鳴らすことができます。
4. もう一度 **F** を長押しすると、CW ピッチ周波数が設定されます。

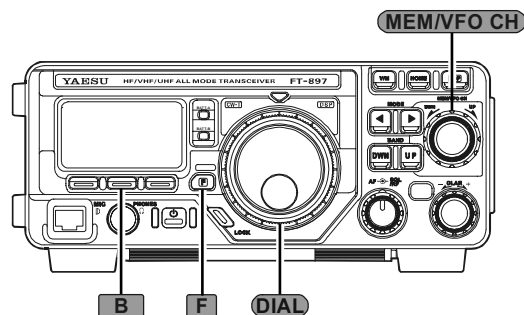


- 相手局の CW 信号が設定した周波数で聞こえたとき、相手局の送信周波数に正確に合ったときです。
- CW ピッチ周波数を変えると、送信時に発する “サイドトーン” の音程も同時に変わります。

CW トレーニング

ランダムなモールス符号をスピーカーから送出し (送信はしません)、その後、送出したモールス符号をディスプレイに表示します。

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-031 CW TRAINING” を呼び出します。
“No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-031 CW TRAINING” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわして送出する文字の種類を選択します。
N : 数字のみ
A : 英字のみ
AN : 英数字混在
4. **B** (STAT) を押すと 5 文字のモールス符号を送出します (スピーカーから音が出るだけで、送信状態にはなりません)。
5. モールス符号の送出が終わると、送出したモールス符号をディスプレイに文字で表示します。



- CW 符号の送出スピードは、メニューモード “No-030 CW SPEED” で変更することができます。
- CW 符号の音量は、メニューモード “No-029 CW SIDE TONE” で変更することができます。

DSP を使って混信を軽減する

DSP バンドパスフィルターを使う

DSP バンドパスフィルターを使用することで、混信を軽減させることができます。

1. **DSP** を押します。
2. **C** (DBF) を押します。
“DBF” の表示が “【DBF】” に変わり、DSP BPF が動作します。
DSP インジケータが点灯します。
3. **C** (DBF) を長押しします。
メニューモード “No-047 DSP LPF CUTOFF” が呼び出されます。
4. **DIAL** ツマミをまわして設定を行います。

SSB/AM/FM/DIG モード時

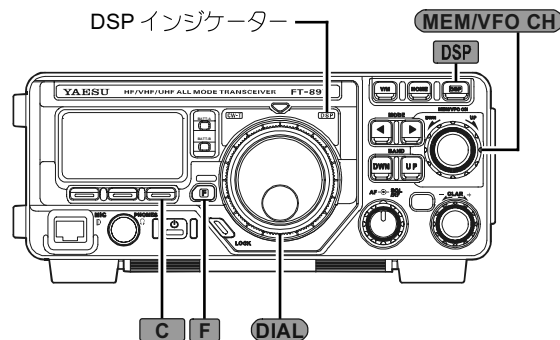
カットオフ周波数(1000 ~ 6000Hz)を選びます(工場設定値: 6000Hz)。

CW モード時

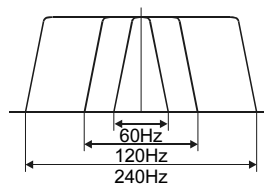
帯域幅(60/120/240Hz)を選びます(工場設定値: 240Hz)。

5. **MEM/VFO CH** ツマミを右に 1 クリックまわします。
メニューモード “No-046 DSP HPF CUTOFF” が呼び出されます。
6. **DIAL** ツマミをまわして、DSP LPF のカットオフ周波数(100 ~ 1000Hz)を選びます(工場設定値: 100Hz)。
7. **F** を長押しすると、設定は終了です。

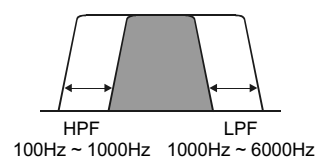
- DSP BPF を解除するには、再度 **C** (DBF) を押します。
“【DBF】” の表示が “DBF” に戻ります。



CW モードのとき



SSB/AM/FM/DIG モードのとき



BFO ピッチに BPF の中心周波数が連動し、帯域幅を 3 段階に切り換えることができます。

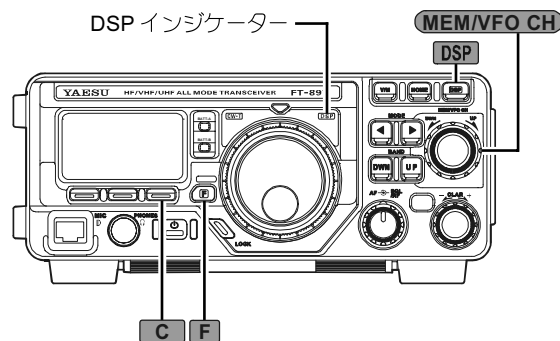
BPF の低域側と高域側のカットオフ周波数を独立して可変し、混信の除去や受信周波数特性の補正等ができます。

DSP AUTO NOTCH

受信信号の中に不要なビート音があるときには DSP AUTO NOTCH により自動的に軽減することができます。

1. **DSP** を押します。
2. **B** (DNF) を押します。
“DNF” の表示が “【DNF】” に変わり、DSP AUTO NOTCH が動作します。
DSP インジケータが点灯します。

- DSP AUTO NOTCH を解除するには、再度 **B** (DNF) を押します。
“【DNF】” の表示が “DNF” に戻ります。

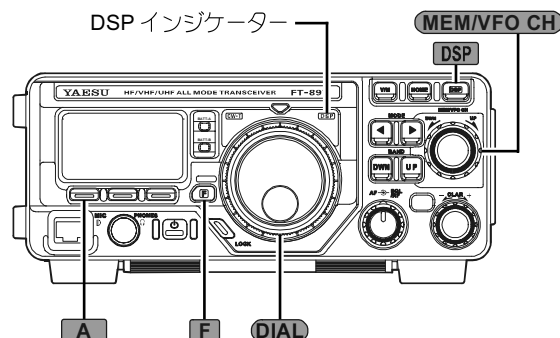


DSP NR

連続した帯域性のノイズを DSP NR により軽減することができます。

1. **DSP** を押します。
4. **A** (DNR) を押します。
“DNR” の表示が “【DNR】” に変わり、DSP NR が動作します。
DSP インジケータが点灯します。
5. **A** (DNR) を長押しします。
メニューモード “No-049 DSP NR LEVEL” が呼び出されます。
6. **DIAL** ツマミをまわして、DSP NR のレベル(1 ~ 16)を雑音が少なくなる値にあわせます(工場設定値: 8)。
7. **F** を長押しすると、設定は終了です。

- DSP NR を解除するには、再度 **A** (DNR) を押します。
“【DNR】” の表示が “DNR” に戻ります。



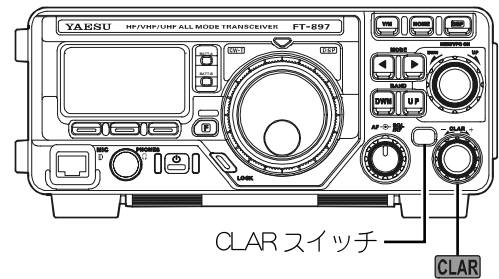
混信・雑音が激しいとき

IF SHIFT (SSB/CW モード時のみ有効)

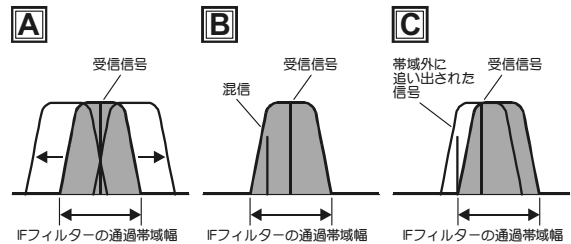
受信信号の近くに混信する信号(近接妨害波)が出現したときには、中間周波数だけをシフトさせて、近接妨害波をIFフィルターの帯域外に追い出して混信を低減することができます。

1. [CLAR]スイッチを長押しします。
2. **CLAR** ツマミをまわして、混信が少なくなる位置に調節します。
3. [CLAR]を長押しすると、IF SHIFT 機能が解除されます。

- ・ IF SHIFT 機能を解除しても、中間周波数のシフト量はそのまま残ります。
- ・ 受信周波数がIFフィルターの中心より低い位置にある場合は“▼”または“▽”，高い位置にある場合は“▲”または“△”，同じ位置の場合は“●”がディスプレイに表示されます。



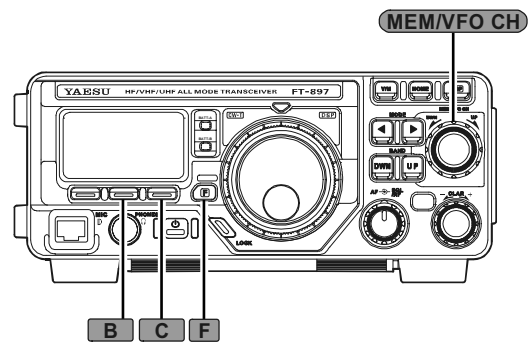
図[A]の太線で書かれたIFフィルターの通過帯域幅は、IF SHIFT がオフのとき、細線で書かれた通過帯域幅は、IF SHIFT をオンにして **MEM/VFO CH** ツマミをそれぞれ左右にまわしたときの位置を示しています。図[B]は、IFフィルターの通過帯域内に近接妨害波が出現した状態です。ここで **MEM/VFO CH** ツマミをまわすと、図[A]の矢印で示したようにIFフィルターの通過帯域幅が左右に動きますので、図[C]に示すように **MEM/VFO CH** ツマミをまわして、近接妨害波をIFフィルターの通過帯域外に追い出します。



IFフィルターの切り換え

オプションのコリンズフィルター“YF-122C”，“YF-122CN”または“YF-122S”を取り付けると、受信帯域幅を狭くして混信から逃れることができます。

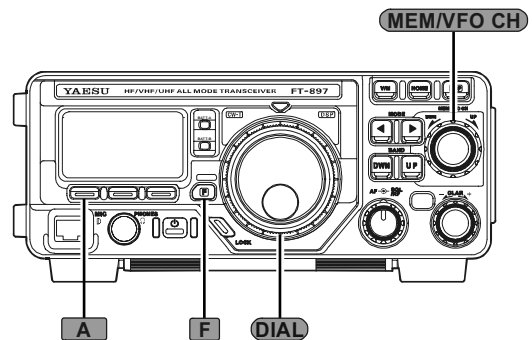
1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFn(CFIL 2.3* 300※)”を呼び出します。
※フィルターの種類や、取り付けた位置により、表示される値や表示場所が異なります。
3. CW運用時は“300”または“500”のキーを、SSB運用時は“2.3”のキーを押します。
“300”“500”“2.3”の表示が、それぞれ“[300]”“[500]”“[2.3]”に変わり、受信帯域幅が“300Hz”“500Hz”または“2.3kHz”になります。
4. もう一度同じキーを押すと、元の帯域幅に戻ります。



NB(ノイズブランカー)

自動車のイグニッションノイズのようなパルス性雑音を低減することができます。

1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFI(NB AGC OFF)”を呼び出します。
3. **A** (NB) を押します。
“NB”の表示が“[NB]”に変わり、ノイズブランカー機能が動作します。
4. **A** (NB) を長押しします。
5. **DIAL** ツマミをまわして、ノイズブランカーのレベル(0~100)を雑音が少なくなる値にあわせませう(工場設定値:50)。
6. **F** を長押しすると、設定は終了です。



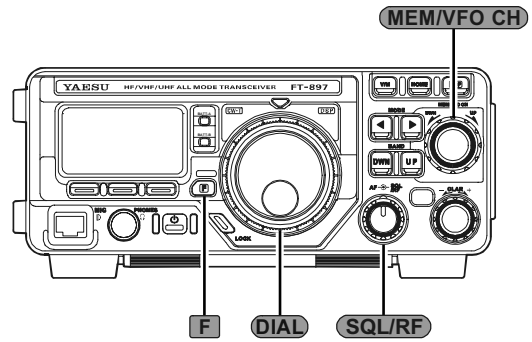
- ・ ノイズブランカー機能を解除するには、再度 **A** (NB) を押します。“[NB]”の表示が“NB”に戻ります。

受信感度を調整する

RF GAIN

混信や雑音が激しいときには、受信部の利得 (RF GAIN) を自在に調整して受信することができます。

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-080 SQL RF GAIN” を呼び出します。
3. **DIAL** ツマミをまわして “RF-GAIN” を選びます。
4. **F** を長押しすると、SQL/RF の動作が “RF-GAIN” になります。
5. **SQL/RF** ツマミを左方向にまわすと、RF GAIN が下がり、強い信号だけが浮き上がって受信できます。

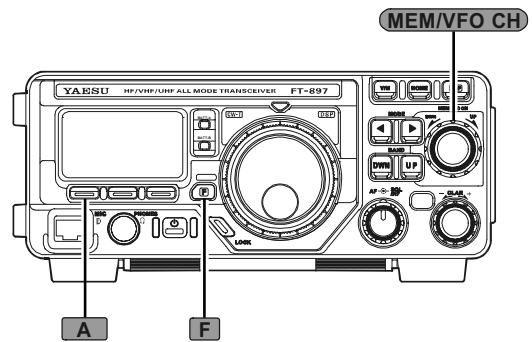
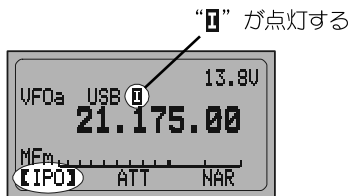


- RF GAIN は、WFM モードのときには動作しません。
- **SQL/RF** ツマミの動作を “RF-GAIN” にした場合、SSB/CW/AM/DIG モード時には、スクルチは常に開いた状態になります (FM/PKT モード時はプリセット値)。
- **SQL/RF** ツマミの動作を “SQL” に戻すには、上記の操作を繰り返し、操作 3. で設定を “SQL” にあわせませす。
- 工場出荷時は **SQL/RF** ツマミの動作は “SQL” になっています。

IPO (Intercept Point Optimization)

受信部高周波増幅回路の動作を止めて、混信妨害を低減することができます。

1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “MFm (IPO ATT NAR)” を呼び出します。
3. **A** (IPO) を押します。
ディスプレイに “**I**” が点灯するとともに、“IPO” の表示が “**[IPO]**” に変わり、受信部高周波増幅回路の動作が止まります。

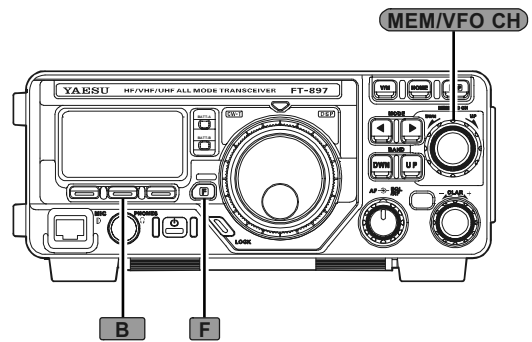
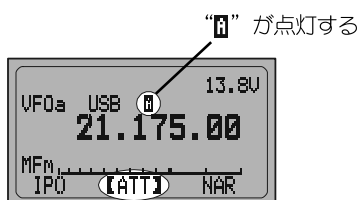


- IPO 機能を解除するには、再度 **A** (IPO) を押します。“**[IPO]**” の表示が “ipo” に戻ります。
- ATT (アッテネーター) 機能が動作中は、IPO 機能は動作しません。
- IPO 機能は HF 帯と 50MHz 帯でのみ動作します。

ATT (アッテネーター)

目的信号の近くに非常に強い信号があるときには、入力信号を減衰 (約 10dB) させて受信部高周波増幅段の歪みを低減することができます。

1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “MFm (IPO ATT NAR)” の表示を呼び出します。
3. **B** (ATT) を押します。
ディスプレイに “**B**” が点灯するとともに、“ATT” の表示が “**[ATT]**” に変わり、ATT 機能がオンになります。



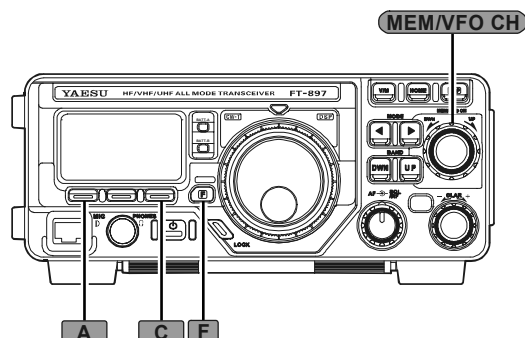
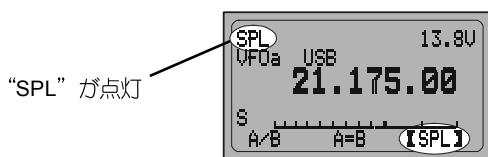
- ATT 機能を解除するには、再度 **B** (ATT) を押します。“**[ATT]**” の表示が “ATT” に戻ります。
- IPO 機能が動作中は、ATT 機能は動作しません。
- ATT 機能は HF 帯と 50MHz 帯でのみ動作します。

スプリット運用

VFO-A に設定した周波数と VFO-B に設定した周波数を利用して、異なる周波数で送受信することができます。

1. **F** を押します。
2. **MEM/WFO CH** ツマミをまわして “MFa(A/B A=B SPL)” を呼び出します。
3. 送信したい周波数にあわせます。
4. **A** (A/B) を押して、もう片方の VFO を呼び出します。
5. 受信する周波数を設定します。
6. **C** (SPL) を押します。
“SPL” の表示が “【SPL】” に変わり、スプリット運用が行えます。
7. もう一度 **C** (SPL) を押すと、スプリット運用は解除されます。

- ・受信する周波数と送信する周波数の間には、バンドや運用モード（電波型式）の組み合わせに制限はありません。
- ・スプリット運用時には、ディスプレイの左上に “SPL” の表示が点灯します。



クイックスプリット機能

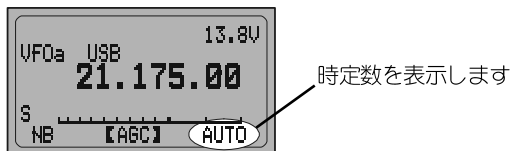
自動的に、VFO-B の周波数が、VFO-A の周波数より 5kHz 高い周波数に設定され、VFO-A で受信、VFO-B で送信を行います。クイックスプリット機能を動作させるためには、マルチファンクションキー 1 の “MFq” に、クイックスプリット機能を割り当てる必要があります (p15 参照)。

AGC

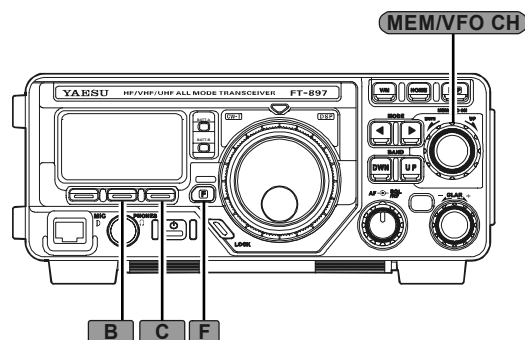
運用モード（電波型式）やフェージングなどの状況にあわせて、AGC 回路の時定数を切り換えることができます。

1. **F** を押します。
2. **MEM/WFO CH** ツマミをまわして “MF1(NB 【AGC】 AUTO)” を呼び出します。
3. **C** を押すたびに AGC 回路の時定数が切り換わります。
B (AGC) を押すと、AGC 回路がオフになります。
“【AGC】” の表示が “AGC” に変わります。

- ・ディスプレイに、AGC 回路の時定数を表示します。



- AUTO: 運用モード（電波型式）に応じて、自動的に時定数が切り換わります。
- FAST: 時定数が速くなります。CW モードや DIG モードに適しています。
- SLOW: 時定数が遅くなります。SSB モードや AM モードに適しています。

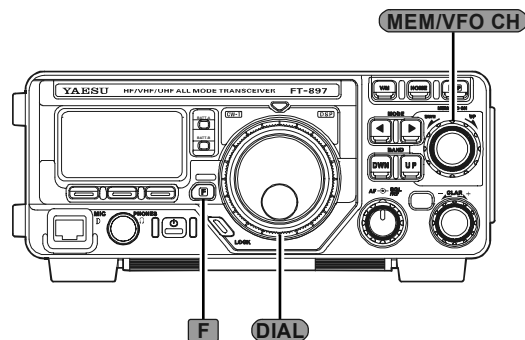


DSP マイコライザー

送信時の音質を、内蔵の DSP イコライザー回路により、3つのタイプから選択することができます。

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/WFO CH** ツマミをまわして “No-048 DSP MIC EQ” を呼び出します。
3. **DIAL** ツマミをまわして、希望のイコライザーに設定します。
4. **F** を長押しすると、DSP イコライザー回路が動作します。

- ・イコライザーは、下記の 3 タイプから選択することができます。
- OFF: DSP イコライザー機能はオフになります。
- LPF: 低域が強調された音質になります（ハイカット）。
- HPF: 高域が強調された音質になります（ローカット）。
- BOTH: 中域が強調された音質になります（ハイカット & ローカット）。



メモリーチャンネルに書き込む

本機には、通常のメモリーチャンネル(チャンネル番号“M-001”～“M-200”)の他に、

- ・ワンタッチで周波数などの書き込み / 呼び出し操作が行える QMB (QUICK MEMORY BANK) チャンネル
- ・各アマチュアバンドごとに独立して“ワンタッチ呼び出し”が可能なホームチャンネル
- ・5組のプログラマブルメモリースキャン (PMS) 用メモリーチャンネル

を搭載しています。

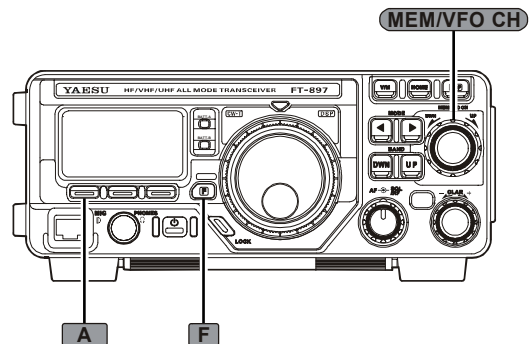
なお、これらのメモリーチャンネルは各チャンネルごと個別に、運用周波数の他に、運用モード(電波型式)などのデータも同時にメモリーすることができます。

メモリーできるデータは次の通りです。

- ・運用周波数
送受信個別にメモリー可能：QMB チャンネルを除く
- ・運用モード(電波型式)
送受信個別にメモリー可能：QMB チャンネルを除く
- ・FMN 情報
- ・メモリータグ
- ・IPO 情報
- ・ATT 情報
- ・レピーター運用情報(シフト方向)
- ・トーン情報(動作“エンコーダー/デコーダー”およびトーン周波数)
- ・DCS 情報(動作“ON/OFF”およびDCSコード)
- ・メモリースキップ情報

書き込み方法

1. メモリーしたい周波数や運用モード(電波型式)などを設定します。
2. **F** を押します。
3. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFb(MW SKIP TAG)”を呼び出します。
4. **A** (MW) を押します。
最後に使用したメモリーチャンネルが呼び出されます。メモリーチャンネル番号が点滅します。
5. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして、メモリーしたいチャンネルを選びます。
すでにメモリーされているメモリーチャンネルでは、周波数などのデータが表示されます。
6. メモリーチャンネルに名前を付けない場合は、**A** (MW) を長押しすると書き込みが終了し、VFOモードに戻ります。
7. メモリーチャンネルに名前を付ける場合は、**A** (MW) を押します。
8. **DIAL** ツマミをまわして文字を選択します。
9. **MEM/VFO CH** ツマミを時計(右)方向に1クリックまわして、次の桁に移ります。
10. 操作8. と9. を繰り返して、名前の全ての文字を入力します。
11. **F** を長押しすると、書き込みは終了です。



VFO/メモリーリセット

VFOの内容とメモリーチャンネルの内容を全て消去します。

1. 一度電源をオフにします。
2. **V/M** を押しながら電源をオンにします。

メモリーした内容は、誤操作や静電気または電氣的雑音を受けたときに消失する場合があります。また、故障や修理の際にも消失する場合がありますので、メモリーした内容は、必ず紙などに控えておくようにしてください。

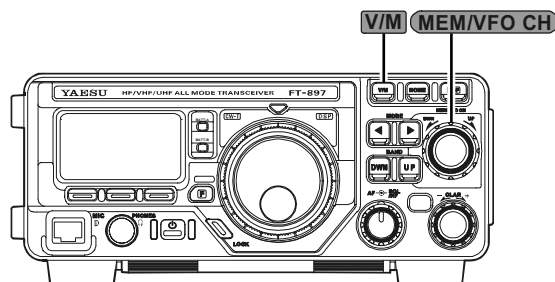
- ・お買い上げ時には、メモリーメモリーチャンネル“M-001”には「7.00000MHz, LSB」がメモリーされています。
- ・すでにメモリーされているメモリーチャンネルに再度書き込み操作を行うと、新しい周波数に書き換えることができます。
- ・1つのメモリーチャンネルに、異なる受信周波数と送信周波数をメモリーすることができます。
 1. 受信周波数をメモリーします。
 2. VFOモードで送信周波数を設定します。
 3. **A** (MW) を押します。
 4. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして、受信周波数をメモリーしたチャンネルを選びます。
 5. マイクロホンのPTTを押しながら **A** (MW) を長押しします。
- ・異なる受信周波数と送信周波数をメモリーしたメモリーチャンネルは、呼び出したときにディスプレイ上部に“-+”の表示が点灯します。

メモリーチャンネルを呼び出す

呼び出し方法

1. **V/M** を押してメモリーモードにします。
メモリーチャンネル番号が表示されます。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして、希望のメモリーチャンネルを選びます。

- ・ マイクロホンの [UP] [DWN] でも、メモリーチャンネルの選択をすることができます。
- ・ もう一度 **V/M** を押すと、VFO モードに戻ります。

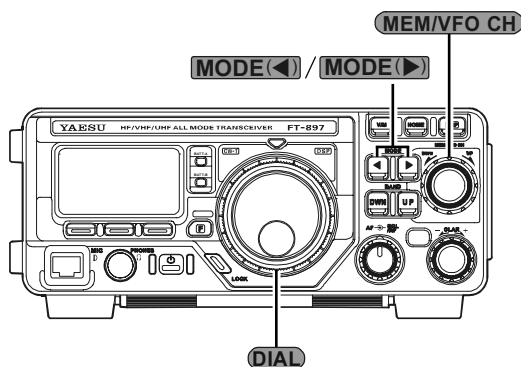


メモリーチューン

メモリーした周波数と運用モード(電波型式)を、一時的に変更することができます。メモリーされている周波数と運用モードは、もう一度書き直さない限り変わることはありません。

1. **DIAL** ツマミをまわすとメモリーチューンになります。
FM/AM/PKT モードの時は、メニューモード “No-004 AM&FM DIAL” を “ENABLE” してください。
※ “No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-004 AM&FM DIAL” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
2. **DIAL** ツマミまたは **MEM/VFO CH** ツマミをまわして、周波数を変更することができます。
3. **MODE<◀** / **MODE▶** を押して、運用モードを変更することもできます。

- ・ **V/M** を押すと、メモリーチューンは解除され、元の運用周波数と運用モードに戻ります。
- ・ メモリーチューンが動作しているときには、メモリーチャンネル番号表示 “M-XXX” が “MTUNE” に変わります。

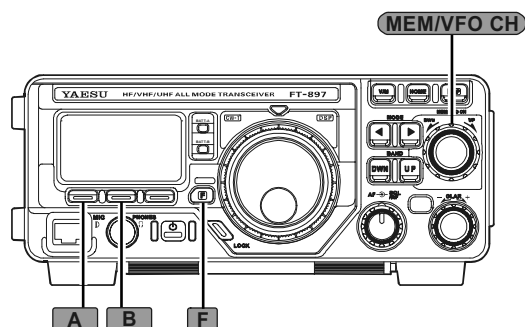


メモリーの消しかた

メモリーチャンネルにメモリーした、周波数や運用モード(電波型式)などを、消去することができます。

1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “MFb (MW SKIP TAG)” を呼び出します。
3. **A** (MW) を押します。
B (SKIP) の表示が **B** (MCLR) に変わります。
4. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして消去したいメモリーチャンネルを呼び出します。
5. **B** (MCLR) を押します。
約3秒後に消去され、メモリーチャンネルの消去操作を行う前の状態に戻ります。

- ・ メモリーチャンネル “M-001” は消去できません。
- ・ 消去したメモリーチャンネルは、周波数などを新たに書き込む前であれば、上記の操作を繰り返すことにより、復活させることができます。



メモリーチャンネルをグループに分ける

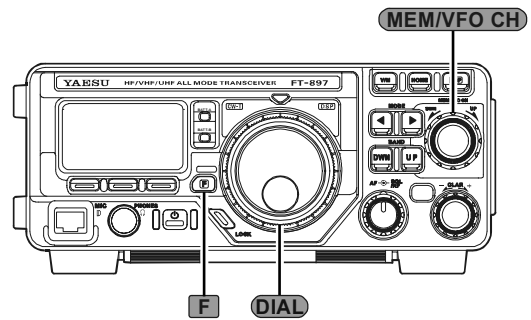
メモリーグループの分けかた

本機のメモリーチャンネルは、10のグループ(グループ“a”～“j”：各20チャンネル)に分けて運用することができます。

なお、メモリーチャンネルをグループに分けたときでも、メモリーチャンネルの書き込み方法に変わりはなく、28ページに示す手順で書き込むことができます。

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“**No-055 MEM GROUP**”を呼び出します。
“**No-001 EXT MENU**”を“**ON**”にしないと“**No-055 MEM GROUP**”を呼び出すことはできません(p46参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわして、設定を“**ON**”にします。
4. もう一度 **F** を長押しすると、メモリーチャンネルが10のグループに分かれます。

メモリーグループ時のチャンネル表示	
Ma-01 ~ Ma-20	Mf-01 ~ Mf-20
Mb-01 ~ Mb-20	Mg-01 ~ Mg-20
Mc-01 ~ Mc-20	Mh-01 ~ Mh-20
Md-01 ~ Md-20	Mi-01 ~ Mi-20
Me-01 ~ Me-20	Mj-01 ~ Mj-20



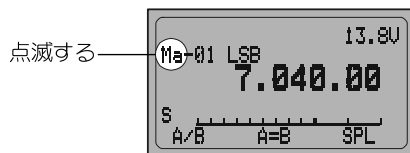
- メモリーグループを解除するには、1. ~ 4. の操作を繰り返し、操作3. で“**OFF**”を選択します。
- メモリーグループを設定したときには、PMS用メモリーチャンネルは“**Mk-1L ~ 5L**”，“**Mk-1U ~ 5U**”と表示されます。

メモリーグループの切り換え

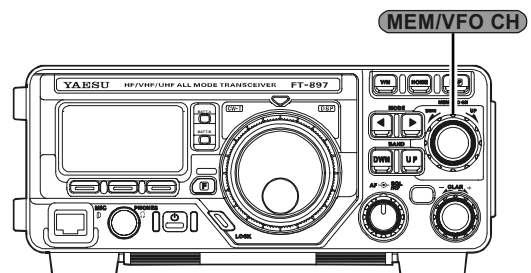
メモリーグループが設定されているときには、メモリーグループ内のメモリーチャンネルだけが呼び出されるようになります。

他のメモリーグループに移るときは、

1. **MEM/VFO CH** ツマミを押します。
メモリーグループ表示が点滅します。



2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわすとメモリーグループが切り換わりますので、希望のメモリーグループにあわせませす。
3. もう一度 **MEM/VFO CH** ツマミを押すと、希望のメモリーグループに移ります。



- 切り換えたメモリーグループ内のメモリーチャンネルだけが、呼び出されるようになります。
- メモリーされているメモリーチャンネルがないメモリーグループは、呼び出されません。

ホームチャンネル / QMB (Quick Memory Bank)

ホームチャンネル

よく使用する周波数は、**HOME** を押すだけで呼び出すことができます (HF 帯 / 50MHz 帯 / 144MHz 帯 / 430MHz 帯, 各 1 チャンネル)。

工場出荷時には、下表に示す周波数と運用モード (電波型式) がメモリーされています。

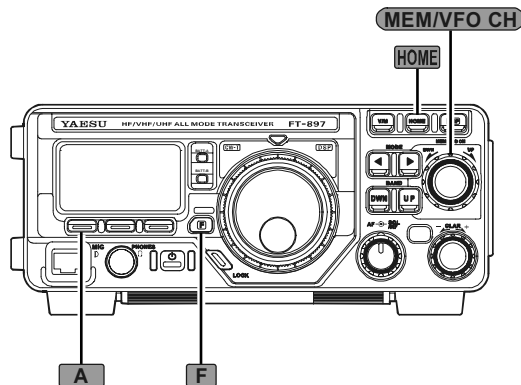
なお、これらの周波数と運用モードは、自由に変更することができます。

■呼び出し方法

HOME を押します。

現在使用している運用バンドのホームチャンネルが呼び出されます。

- ・もう一度 **HOME** を押すと、ホームチャンネルを呼び出す前の状態に戻ります。
- ・ホームチャンネルを呼び出しているときに **DIAL** ツマミまたは **MEM/VFO CH** ツマミをまわすと、VFO モードに戻ります。



■ホームチャンネルの周波数の変えかた

1. メモリーしたい周波数や運用モード (電波型式) などを設定します。
2. **F** を押します。
3. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “MFb (MW MC TAG)” を呼び出します。
4. **A** (MW) を押します。
5. **HOME** を長押しすると、書き込みが終了します。

バンド	運用周波数	運用モード (電波型式)
1.8 ~ 28MHz 帯	29.300MHz	FM
50MHz 帯	51.000MHz	FM
88 ~ 144MHz 帯	145.000MHz	FM
430MHz 帯	433.000MHz	FM

- ・ホームチャンネルにも、メモリータグ (名前) を付けることができます (p30)。

QMB (Quick Memory Bank)

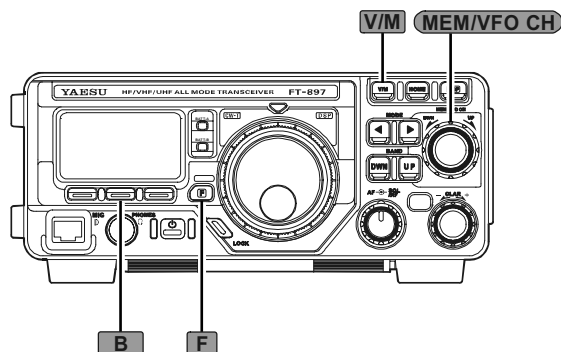
現在の運用状態を、ワンタッチで専用のメモリーチャンネル (Quick Memory Bank) にメモリーすることができます。

■書き込み方法

V/M を、ピープ音が 2 回鳴るまで押し続けます。

現在の運用状態が、QMB にメモリーされます。

- ・ディスプレイに “MFc (STO RCL PROC)” を呼び出し、**A** (STO) を押すことでも QMB にメモリーすることができます。
- ・QMB にも、メモリータグ (名前) を付けることができます (p30)。



■呼び出し方法

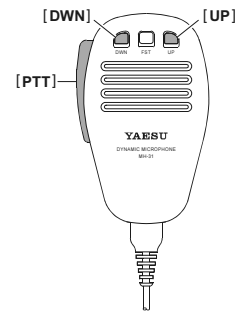
1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “MFc (STO RCL PROC)” を呼び出します。
3. **B** (RCL) を押します。
QMB が呼び出されます。
4. もう一度 **F** を押すと、QMB を呼び出す前の状態に戻ります。

- ・QMB を呼び出しているときに **DIAL** ツマミまたは **MEM/VFO CH** ツマミをまわすと、メモリーチューンになります。
- ・**B** (RCL) を押すとメモリーチューンは解除され、QMB 呼び出し時の状態に戻ります。

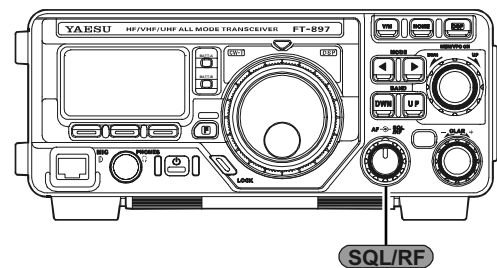
VFO スキャン / メモリースキャン

信号が入感する周波数(あるいはメモリーチャンネル)を自動的に探し出します。

1. **[SQL/RF]** ツマミでスケルチを調整します。
無信号時に“ザー”という雑音聞こえなくなり、信号が入感したときにスケルチが開くように調整します。
2. マイクロホンの **[UP]** または **[DWN]** を長押しすると、スキャンを開始します。
それぞれの方向に周波数(またはメモリーチャンネル)が自動的に変化し、信号が入感するとスキャンが一時停止します。
3. スキャンを中止するには、マイクロホンの **PTT** を押します。



- SSB/CW モードのときには、信号が入感するとスキャンのスピードが遅くなります(スキャンは一時停止しません)。
 - マイクロホンの **[UP]** **[DWN]** の代わりに、ディスプレイに“MFg (SCN PRI DW)”の表示を呼び出し、**[A]** (SCN) を押すことでもスキャンを開始することができます。
ただし、このときには、スキャンの方向は“UP”方向となります。
[DIAL] ツマミまたは **[MEM/VFO CH]** ツマミを左方向にまわすと、スキャンの方向を“DOWN”方向に変えることができます。
 - メモリーグループが設定してあるときには、グループ内のメモリーチャンネルだけをスキャンしますが、**[A]** (SCN) を長押しすると、全てのメモリーグループ(PMS用グループとエマージェンシーは除く)をスキャンします。
 - メニューモード“No-078 SCAN RESUME”の設定により、一時停止したスキャンが再スタートするまでの時間を変更することができます。
 - メニューモード“No-077 SCAN MODE”の設定により、一時停止したスキャンが再スタートする条件を変更することができます。
- ※これらのメニューモードは“No-001 EXT MENU”を“ON”にしないと呼び出すことはできません (p46 参照)。

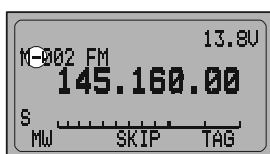


メモリースキップ

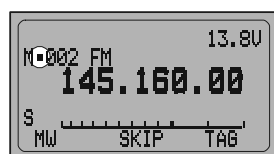
指定したメモリーチャンネルはスキャン(受信)せずに、希望するメモリーチャンネルだけをスキャンすることができます。

メモリースキャンを行う前に、受信したくないメモリーチャンネルに“スキップ指定”を設定しておくこと、そのメモリーチャンネルはスキップして(受信せずに)スキャンが始まります。

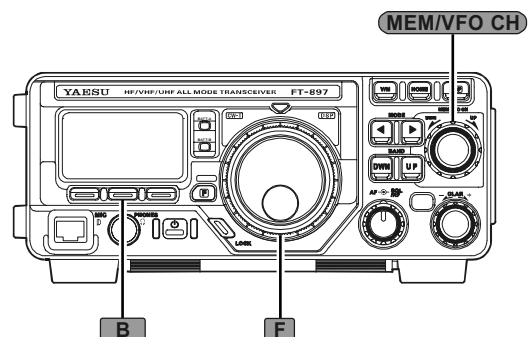
1. スキップしたいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. **[F]** を押し、**[MEM/VFO CH]** ツマミをまわして“MFb (MW SKIP TAG)”を呼び出します。
3. **[B]** (SKIP) を押すとスキップ指定が設定されます。



スキップ指定：無



スキップ指定：有



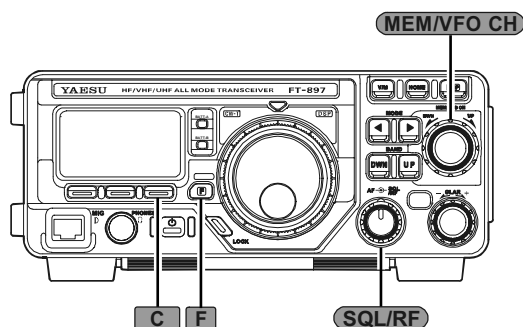
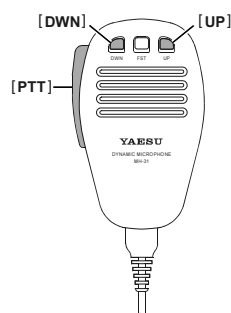
- スキップを解除するには、上記の操作を繰り返し、スキップ指定を外します。
- メモリーチャンネル“M-001”と“MEMG”には、スキップ指定を設定することはできません。

特定の周波数範囲をスキャンする 信号が入感する周波数を探して記憶する

プログラブルメモリスキャン(PMS)

あらかじめ設定された周波数範囲内をスキャンし、信号が入感する周波数を自動的に探し出します。

1. スキャンしたい周波数範囲の下限周波数をメモリーチャンネル“MP***L**”に、上限周波数を“MP***U**”にメモリーしておきます(p28).
*は1~5の任意の数字で、下限のメモリーと上限のメモリーは同じ番号にしてください。
2. **[SQL/RF]** でスケルチを調整します。
無信号時に“ザー”という雑音が聞こえなくなり、信号が入感したときにスケルチが開くように設定します。
3. **[F]** を押し、**[MEM/VFO CH]** ツマミをまわして“MFf(ARTS SRCH PMS)”を呼び出します。
4. **[C]** (PMS) を押します。
5. マイクロホンの**[UP]** **[DWN]** を長押しすると、スキャンを開始します。
設定した周波数範囲内をスキャンし、信号が入感するとスキャンが一時停止します。
6. スキャンを中止するには、マイクロホンの**[PTT]** を押します。
7. もう一度**[C]** (PMS) を押し、プログラブルメモリスキャン機能は解除されます。



- 下限周波数と上限周波数は、必ず同じバンド内の周波数にしてください。なお、HF帯については、100kHzから30MHzまでを1つのバンドと見なします。
- 下限周波数と上限周波数との間は、必ず100kHz以上開けるようにしてください。
- ディスプレイに“MFg(SCN PRI DW)”の表示を呼び出し、**[A]** (SCN) を押すことでもスキャンを開始することができます。
ただし、このときには、スキャンの方向は“UP”方向となりますが、**[DIAL]** ツマミまたは**[MEM/VFO CH]** ツマミを左方向にまわすと、スキャンの方向を“DOWN”方向に変えることができます。

- SSB/CWモードのときには、信号が入感するとスキャンのスピードが遅くなります(スキャンは一時停止しません)。
- メニューモード“**No-078 SCAN RESUME**”の設定により、一時停止したスキャンが再スタートするまでの時間を変更することができます。
※“**No-001 EXT MENU**”を“ON”にしないと“**No-078 SCAN RESUME**”を呼び出すことはできません(p46参照)。

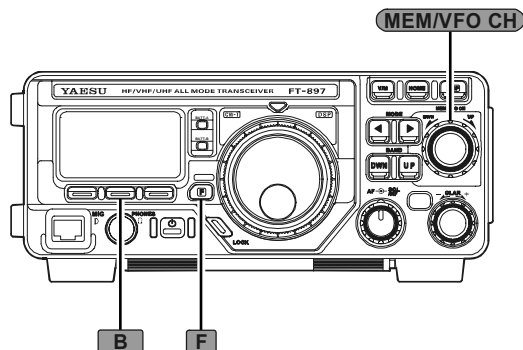
スマートサーチ

信号が入感している周波数を自動的に探し出し、通常のメモリーチャンネルとは異なる専用のメモリーチャンネル(スマートメモリー: 50チャンネル)に記憶します。

スマートサーチは、周波数が高くなる方向にサーチを開始し、50チャンネルメモリーされるか、バンドエッジに達すると動作を終了します。

なお、スマートサーチは“FM”、“WFM”モードと“AM”モード時のみ動作します。

1. **[SQL/RF]** ツマミでスケルチを調整します。
無信号時に“ザー”という雑音が聞こえなくなり、信号が入感したときにスケルチが開くように調整します。
2. **[F]** を押します。
3. **[MEM/VFO CH]** ツマミをまわして“MFf(ARTS SRCH PMS)”を呼び出します。
4. **[B]** (SRCH) を押すと、スマートサーチが動作します。
5. スマートサーチが終了後、**[MEM/VFO CH]** ツマミをまわすと、スマートメモリーが呼び出されます。
6. もう一度**[B]** (SRCH) を押すと、スマートサーチ機能が解除されます。



- スマートサーチが終了するとサーチを開始した周波数に戻ります。
- スマートメモリーは、再びスマートサーチを行うと新しい周波数に書き換えられてしまいます。

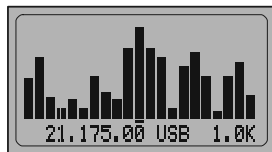
- スマートメモリーの周波数は、メモリーチャンネルに書き込むことができます。

近接した周波数の使用状況をチェックする

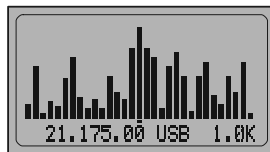
スペクトラムスコープ

現在受信中の周波数を中心に、上下 10, 15, 63 チャンネルの使用状況を、信号の強弱グラフで表示します。

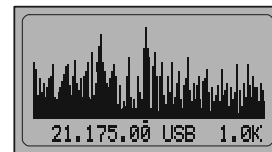
なお、メモリーモード時は、現在受信中のチャンネルを中心に、上下 20 チャンネルの使用状況を、信号の強弱グラフで表示します。



± 10 チャンネル



± 15 チャンネル



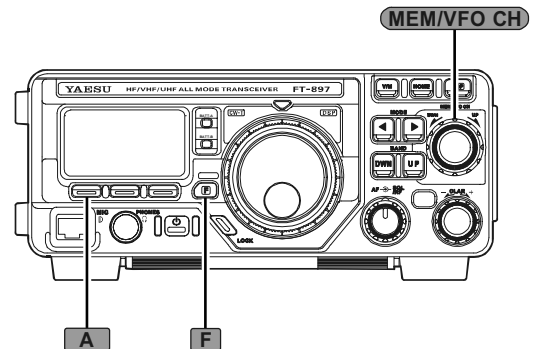
± 63 チャンネル

1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “MFh(SCOP WID STEP)” を呼び出します。
3. **A** (SCOP) を押すと、スペクトラムスコープ機能が動作します。
4. もう一度 **A** (SCOP) を押すと、スペクトラムスコープ機能が解除されます。

- **B** を押すことにより、使用状況を表示させるチャンネルを ± 10, ± 15, ± 63 チャンネルの中から選択することができます。
- **C** を押すと、チェックする周波数間隔(ステップ幅)を変更することができます(下表参照)。

電波型式	設定できるステップ(kHz)
CW, SSB, DIG	1.0 / 2.5 / 5.0
AM	2.5 / 5.0 / 9.0 / 10.0 / 12.5 / 25.0
FM, PKT	5.0 / 6.25 / 10.0 / 12.5 / 15.0 / 20.0 / 25.0 / 50.0

- **A** を長押しすると、スコープ機能を再スタートさせることができます。
- **B** を長押しすると、受信状況のチェック動作(シングルサーチまたはコンティニュアスサーチ)を切り換えることができます。
 シングルサーチ \Rightarrow 受信状況のチェックを一度だけ行い、その後停止します。
 コンティニュアスサーチ \Rightarrow 繰り返しチェックを行います。
- **C** を長押しすると、“ピークホールド機能” が動作し、信号強度の最大値を保持することができます。
- スペクトラムスコープ機能が動作しているときには、受信音を聞くことはできません。
- **MEM/VFO CH** ツマミで、中心周波数を変更することができます。

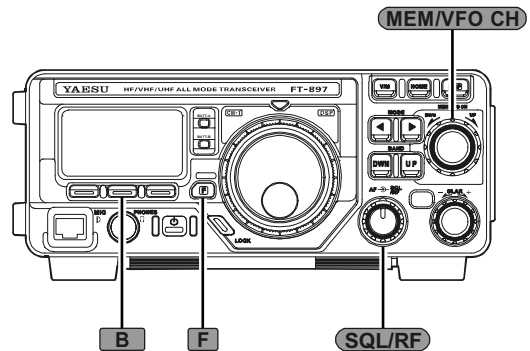


指定した周波数を定期的に受信する

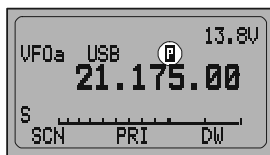
プライオリティスキャン

メモリーチャンネル“M-001”にメモリーした周波数を定期的に受信することができます。

1. **SQL/RF** ツマミでスケルチを調整します。
無信号時に“ザー”という雑音が聞こえなくなり、信号が入感したときにスケルチが開くように設定します。
2. **F** を押し、**MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFg(SCN PRI DW)”を呼び出します。
3. **B** (PRI) を押し、プライオリティスキャンを開始します。
メモリーチャンネル“M-001”にメモリーした周波数を定期的(5秒毎)に受信し、信号が入感するとプライオリティスキャンが一時停止します。
4. もう一度 **B** (PRI) を押し、プライオリティスキャンは解除されます。



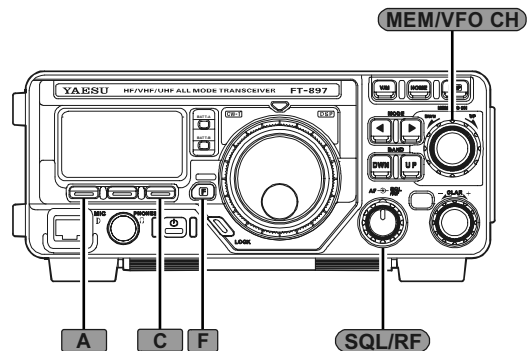
- ・プライオリティスキャンが動作しているときには、ディスプレイに“P”の表示が点灯します。



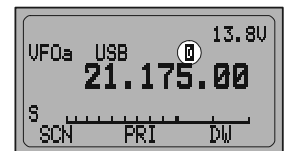
デュアルレシーブスキャン

VFO-Aの周波数を受信しながら、VFO-Bの周波数を定期的に受信することができます。

1. **F** を押し、
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFa(A/B A=B SPL)”を呼び出します。
3. **A** (A/B) を押し、 “VFO-B” を呼び出します。
4. 定期的に受信する周波数を設定します。
5. **SQL/RF** ツマミでスケルチを調整します。
無信号時に“ザー”という雑音が聞こえなくなり、信号が入感したときにスケルチが開くように設定します。
6. **A** (A/B) を押し、 “VFO-A” を呼び出します。
7. 常時受信する周波数を設定します。
8. **F** を押し、
9. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “MFg(SCN PRI DW)” を呼び出します。
10. **C** (DW) を押し、デュアルレシーブスキャンを開始します。
VFO-Bの周波数を定期的(約5秒毎)に受信し、信号が入感するとデュアルレシーブスキャンが一時停止します。
11. もう一度 **C** (DW) を押し、デュアルレシーブスキャンは解除されます。



- ・常時受信する周波数と定期的に受信する周波数との間には、バンドや運用モード(電波型式)の組み合わせに制限はありません。
- ・デュアルレシーブスキャンが動作しているときには、ディスプレイに“D”の表示が点灯します。

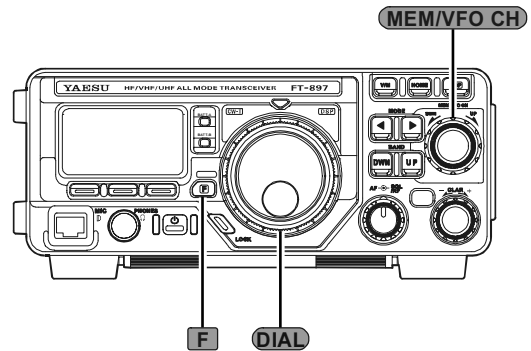


- ・常時受信する周波数を“VFO-B”に、定期的に受信する周波数を“VFO-A”に設定してデュアルレシーブスキャンを行うこともできます。
- ・メモリーチャンネルとVFOの間でデュアルレシーブスキャンを行うこともできます。この場合は、メモリーチャンネルの周波数を受信しながら、メモリーモードに移る前に使用していたVFOではないほうのVFO周波数を定期的に受信します(メモリーモードに移る前に使用していたVFOがVFO-Aの場合は、VFO-Bの周波数を定期的に受信します)。

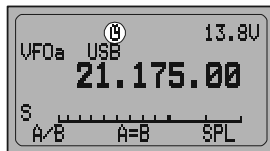
オートマチックパワーオフ(APO)

一定の時間、何の操作も行わないでいると、自動的に電源がオフになるようにすることができます。電源スイッチの切り忘れによる、電池の消耗を防ぐことができます。

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-007 APO TIME” を呼び出します。
“No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-007 APO TIME” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわして、電源がオフになるまでの時間を選びます。
4. もう一度 **F** を長押しすると、オートマチックパワーオフ機能が設定されます。



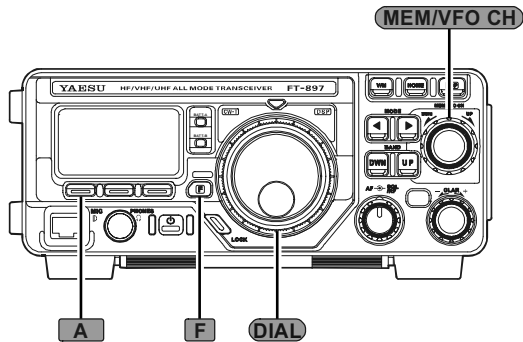
- 選択できる時間は、1時間間隔で “1時間(1h)” から “6時間(6h)” までです。
- オートマチックパワーオフ機能が動作しているときには、ディスプレイに “**Ⓜ**” の表示が点灯します。



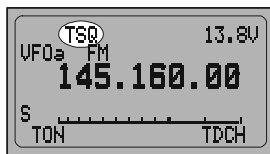
- ARTS機能または、ビーコンが動作しているときは、オートマチックパワーオフ機能は動作しません。
- オートマチックパワーオフ機能を解除するには、上記の操作を繰り返し、操作3. で設定を “OFF” にあわせませす。

トーンスケルチ(CTCSS)

設定したトーン周波数と同じトーン周波数を含んだ信号を受信したときにのみ、音声を出力させる機能です。『トーン周波数を含まない信号』や『異なるトーン周波数を含んだ信号』では音声が出力されませんので、あらかじめ相手局とトーン周波数をあわせておくことにより、静かな待ち受けを行うことができます。なお、トーンスケルチ機能は、“FM”モード時のみ動作します。



1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFe (TON TDCH)” を呼び出します。
3. **A** (TON) を長押しします。
メニューモード “No-083 TONE FREQ” が呼び出されます。
4. **DIAL** ツマミをまわして、希望のトーン周波数(下表参照) を選びます。
5. **F** を長押しします。
6. **A** (TON) を数回押してディスプレイに“TSQ” の表示を呼び出すと、トーンスケルチ機能が動作します。

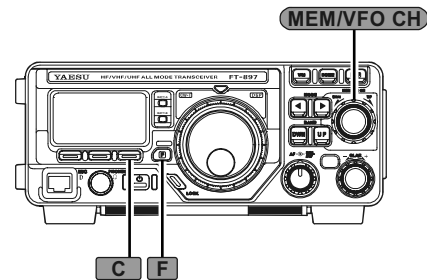


- トーンスケルチ機能を解除するには、**A** (TON) を数回押して、ディスプレイの“TSQ”表示を消します。
- トーン周波数は工場出荷時“88.5Hz”に設定されています。
- 送信時と受信時で、異なるトーン周波数を設定することができます(メニューモード “No-079 SPLIT TONE”).
※ “No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-079 SPLIT TONE” を呼び出すことはできません (p46 参照)。

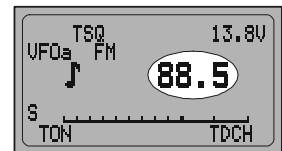
設定できるトーン周波数(Hz)							
67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7	82.5	85.4
88.5	91.5	94.8	97.4	100.0	103.5	107.2	110.9
114.8	118.8	123.0	127.3	131.8	136.5	141.3	146.2
151.4	156.7	159.8	162.2	165.5	167.9	171.3	173.8
177.3	179.9	183.5	186.2	189.9	192.8	196.6	199.5
203.5	206.5	210.7	218.1	225.7	229.1	233.6	241.8
250.3	254.1	—	—	—	—	—	—

トーンサーチ

相手局が使用しているトーン周波数が解らないときには、探して表示することができます。

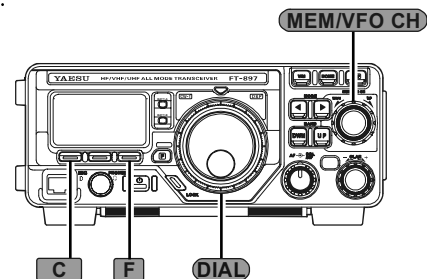


1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして、“MFe (TON TDCH)” を呼び出します。
3. **C** (TDCH) を押します。
自動的にトーンスケルチ機能が動作 (“TSQ” が点灯) し、トーン周波数をサーチして表示します。
4. **C** (TDCH) を押すと、サーチしたトーン周波数が設定され、トーンサーチが終了します。



スプリットトーン

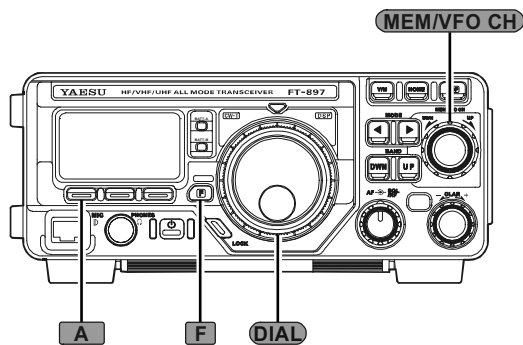
送信と受信で、別々のトーン周波数を設定することができます。



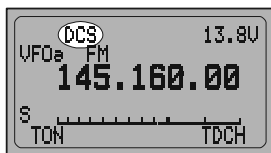
1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-079 SPLIT TONE” を呼び出します。
※ “No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-079 SPLIT TONE” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわして “ON” にします。
4. **F** を長押しします。
5. **F** を押します。
6. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして、“MFe (TON TDCH)” を呼び出します。
7. **A** (TON) を長押しします。
メニューモード “No-083 TONE FREQ” が呼び出されます。
8. **MEM/VFO CH** ツマミを押します。
9. **DIAL** ツマミをまわして、送信時のトーン周波数を設定するときは“T”を、受信時のトーン周波数を設定するときは“R”を選びます。
10. **MEM/VFO CH** ツマミを押します。
11. **DIAL** ツマミをまわして、希望のトーン周波数を選びます。
12. **F** を長押しすると、設定は終了です。

デジタルコードスケルチ(DCS)

設定したDCSコードと同じDCSコードを含んだ信号を受信したときのみ、音声を出力させる機能です。『DCSコードを含まない信号』や『異なるDCSコードを含んだ信号』では音声が出力されませんので、あらかじめ相手局とDCSコードをあわせておくことにより、静かな待ち受けを行うことができます。なお、DCS機能は、“FM”モード時にのみ動作します。



1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-033 DCS CODE” を呼び出します。
“No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-033 DCS CODE” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわして、希望の DCS コード (下表参照) を選びます。
4. **F** を長押しします。
5. **F** を押しします。
6. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “MFe (TON - TDCH)” を呼び出します。
7. **A** (TON) を数回押してディスプレイに “DCS” の表示を呼び出すと、DCS 機能が動作します。

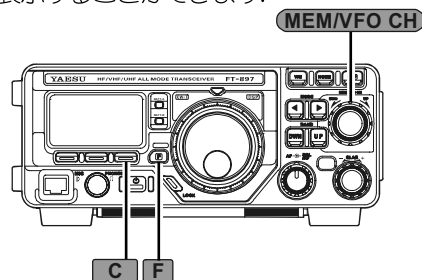


- DCS 機能を解除するには、**A** (TON) を数回押して、ディスプレイの “DCS” 表示を消します。
- DCS コードは工場出荷時 “023” に設定されています。
- 送信時と受信時で、異なる DCS コードを設定することができます (メニューモード “No-079 SPLIT TONE”)。
※ “No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-079 SPLIT TONE” を呼び出すことはできません (p46 参照)。

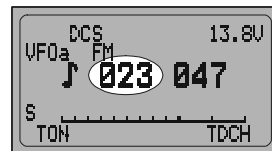
設定できる DCS コード									
023	025	026	031	032	036	043	047	051	053
054	065	071	072	073	074	114	115	116	122
125	131	132	134	143	145	152	155	156	162
165	172	174	205	212	223	225	226	243	244
245	246	251	252	255	261	263	265	266	271
274	306	311	315	325	331	332	343	346	351
356	364	365	371	411	412	413	423	431	432
445	446	452	454	455	462	464	465	466	503
506	516	523	526	532	546	565	606	612	624
627	631	632	654	662	664	703	712	723	731
732	734	743	754	—	—	—	—	—	—

DCS サーチ

相手局が使用している DCS コードが解らないときには、探して表示することができます。



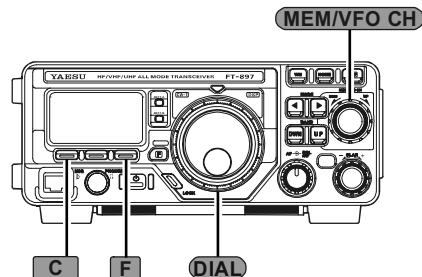
1. **F** を押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして、 “MFe (“TON TDCH”) ” を呼び出します。
3. **A** (TON) を数回押して、ディスプレイに “DCS” の表示を呼び出します。
4. **C** (TDCH) を押しします。
自動的に DCS 機能が動作 (“DCS” が点灯) し、DCS コードをサーチして表示します。



5. **C** (TDCH) を押すと、サーチした DCS コードが設定されて DCS サーチが終了します。

スプリットトーン

送信と受信で、別々の DCS コードを設定することができます。



1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-079 SPLIT TONE” を呼び出します。
※ “No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-079 SPLIT TONE” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわして “ON” にします。
4. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-033 DCS CODE” を呼び出します。
※ “No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-033 DCS CODE” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
5. **MEM/VFO CH** ツマミを押しします。
6. **DIAL** ツマミをまわして、送信時の DCS コードを設定するときは “T” を、受信時の DCS コードを設定するときは “R” を選びます。
7. **MEM/VFO CH** ツマミを押しします。
8. **DIAL** ツマミをまわして、希望の DCS コードを選びます。
9. **F** を長押しすると、設定は終了です。

相手局と交信できる範囲にいるかを確認する

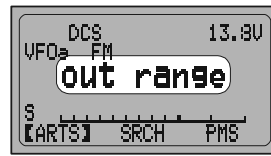
ARTS 機能

ARTS(アーツ)機能を搭載した相手と、交信できる状態かどうかを自動的に調べ、『交信可能』『交信不可能』をディスプレイの表示とビープ音で知らせます。

なお、ARTS 機能は、“FM” モード時にのみ動作します。

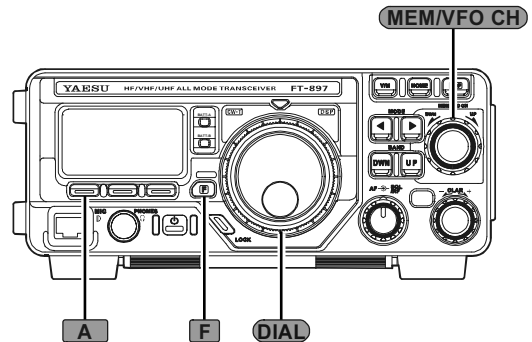


交信可能な状態
(交信圏内)



交信不可能な状態
(交信圏外)

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして、メニューモード “No-033 DCS CODE” を呼び出します。
“No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-033 DCS CODE” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわして、相手局と同じ DCS コードを選びます。
4. **F** を長押しして、DCS コードを設定します。
5. **F** を押します。
6. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “Mf (ARTS SRCH PMS)” を呼び出します。
7. **A** (ART) を押します。ARTS 機能が動作します。
8. もう一度 **A** (ART) を押すと、ARTS 機能が解除されます。

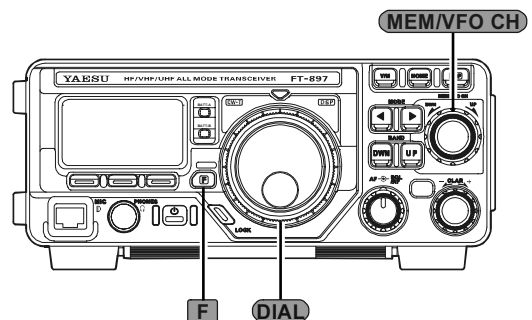


- ARTS機能が動作中でも、マイクロホンのPTTを押すことにより、相手局と交信することができます。
- ARTS機能が動作中は、周波数を変えることはできません。
- 30秒間隔で自動的にARTS信号(DCSコード)を送出し、相手局と交信が『可能』か『不可能』を確認します。
- 相手局からのARTS信号の受信を知らせるビープ音の鳴るタイミングを変更することができます(メニューモード “No-008 ARTS BEEP”)。
※ “No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-008 ARTS BEEP” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
- DCSコードは工場出荷時 “023” に設定されています。

CW ID の設定

あらかじめ、自分のコールサイン(10文字まで)を登録しておく、ARTS運用時に自動的にモールス符号で送出することができます。

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-010 ARTS IDW” を呼び出します。
“No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-010 ARTS IDW” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
3. **MEM/VFO CH** ツマミを押します。
4. **DIAL** ツマミをまわして、コールサインの先頭文字を選びます。
5. **MEM/VFO CH** ツマミを右方向に1クリックまわして、次の桁に移ります。
6. 操作4. と5. を繰り返して、自分のコールサインを最後まで入力します。
7. **MEM/VFO CH** ツマミを押します。
8. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-009 ARTS ID” を呼び出します。
“No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-009 ARTS ID” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
9. **DIAL** ツマミをまわして “ON” にします。
10. もう一度 **F** を長押しすると、CW ID機能が動作します。



- CW ID を送出するためには、第三級アマチュア無線技士の資格と “F2A” の免許が必要です。第四級アマチュア無線技士のかたは、“OFF” のままご使用ください。
- CW ID 送出時には、設定したCW IDの前後に “DE” と “K” が自動的に追加されます。

DE JA1※※※ K
└─── 登録したコールサイン

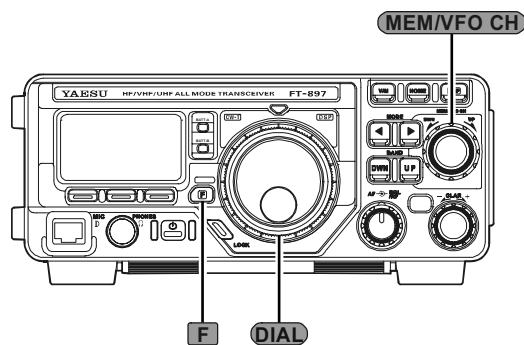
- CW ID 機能を解除するには、メニューモード “No-009 ARTS ID” を呼び出し、設定を “OFF” にします。

ディスプレイの状態を変更する

ディスプレイの明るさ変更

ディスプレイの明るさを3段階に切り換えることができます。

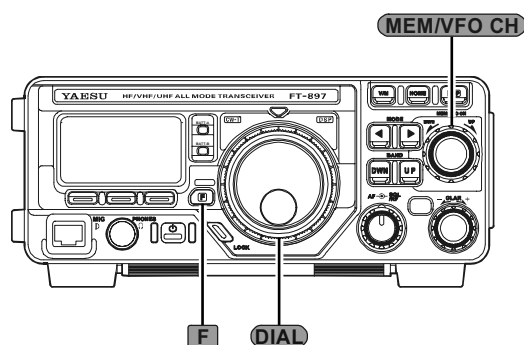
1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** をまわして “No-043 DISP INTENSITY” を呼び出します。
3. **DIAL** ツマミをまわして、希望の明るさを選択します。
0(消灯) ↔ 1(暗い) ↔ 2(標準) ↔ 3(明るい)
4. 再度 **F** を長押しすると、ディスプレイの明るさが変更されます。



コントラスト調整

ディスプレイのコントラストを、周囲の状況に応じて変更することができます。

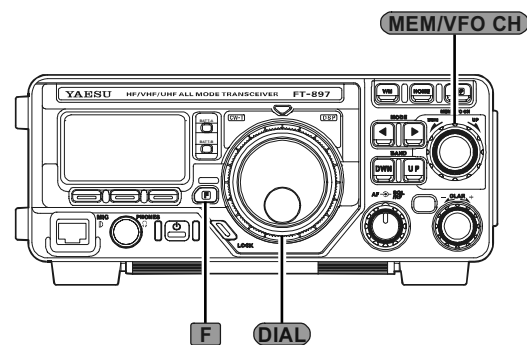
1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** をまわして “No-042 DISP CONTRAST” を呼び出します。
“No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-042 DISP CONTRAST” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわして、見やすいコントラスト (1 ~ 13) に設定します。
4. 再度 **F** を長押しすると、コントラストが変更されます。



バックライトの動作変更

ディスプレイのバックライトが点灯する条件を変更することができます。

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** をまわして “No-044 DISP MODE” を呼び出します。
“No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-044 DISP MODE” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわして、点灯条件を選択します。
OFF : 電池パック / 外部電源運用に関わらず、バックライトは点灯しません。
AUTO1 : 電池パック / 外部電源での運用に関わらず、ツマミやスイッチを操作したときのみバックライトが点灯し、約3秒後に自動的に消灯します。
AUTO2 : 電池パックで運用しているときには、ツマミやスイッチを操作したときのみバックライトが点灯し、約3秒後に自動的に消灯します。なお、外部電源で運用時には、常時バックライトが点灯します。
ON : 電池パック / 外部電源での運用に関わらず、常時バックライトが点灯します。
4. もう一度 **F** を長押しすると、バックライトの点灯条件が設定されます。



設定した間隔で繰り返し CW 符号を送出する

ビーコン

あらかじめ設定した文字(最大 118 文字)を、設定した間隔で自動的に(手動も可)モールス符号で送ります。

■送出する文字の書き込み

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-011 BEACON TEXT 1” を呼び出します。
“No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-011 BEACON TEXT” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
3. **MEM/VFO CH** ツマミを押します。
4. **DIAL** ツマミをまわして文字を選択します。
5. **MEM/VFO CH** ツマミを右方向に 1 クリックまわして、次の桁に移ります。
6. 操作 4. と 5. を繰り返して、希望の文字を入力(最大 40 文字)し、最後に **MEM/VFO CH** ツマミを押します。

- 40 文字以内の場合は最後の桁に “**⏏**” を設定してください。
- 40 文字以上の文字を送出したい場合は 40 桁目に “**⏏**” を設定し、**MEM/VFO CH** ツマミを押した後、**DIAL** ツマミをまわして “BEACON TEXT 2” を呼び出し、操作 3. からの操作を行ってください(最大 “BEACON TEXT 3” まで設定することができます)。

7. **F** を長押しすると、ビーコンテキストが書き込まれます。

- 文字入力中に **C** (DEL) を押すと、カーソル位置の文字を消すことができます。
- 使用できる文字は、英数字(0~9, A~Z, /, スペース)です。

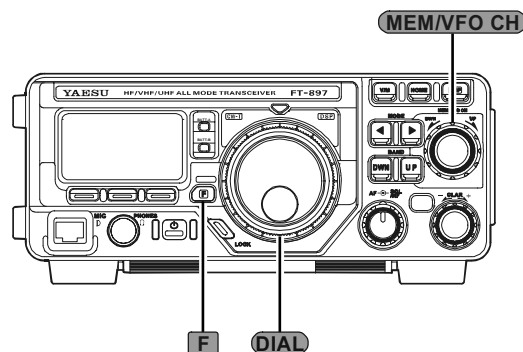
■ビーコン送出間隔の設定

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “No-012 BEACON TIME” を呼び出します。
“No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-012 BEACON TIME” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわしてビーコンテキストを送出する間隔(OFF, 1~255 秒)を設定します。
4. **F** を長押しすると、送出間隔の時間が設定されます。

■ビーコンの送出

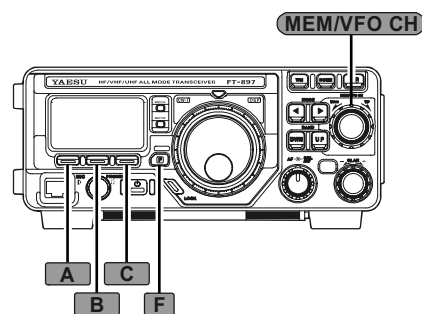
1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “MFO (PLY1 PLY2 PLY3)” を呼び出します。
3. **A** (PLY1) を押します。
ビーコンテキストが送出され、送出終了後、設定した時間が経過すると、再び “No-011 BEACON TEXT 1” に登録された文字を送出します。

- ビーコンの送出を行う場合は、誤動作を防ぐため、VOX 機能 (p19) を “オフ” にしてください。
- **B** (PLY2) または **C** (PLY3) を押した場合は、それぞれに登録されたビーコンテキストを一度だけ送出し、設定された時間が経過しても、繰り返し送られません。
- 電波型式が CW/SSB モードのときは “A1A”, FM モードのときは “F2A” でビーコンを送出します。



ビーコン手動送出

設定した時間に関係なく、手動でビーコンを送出することができます。



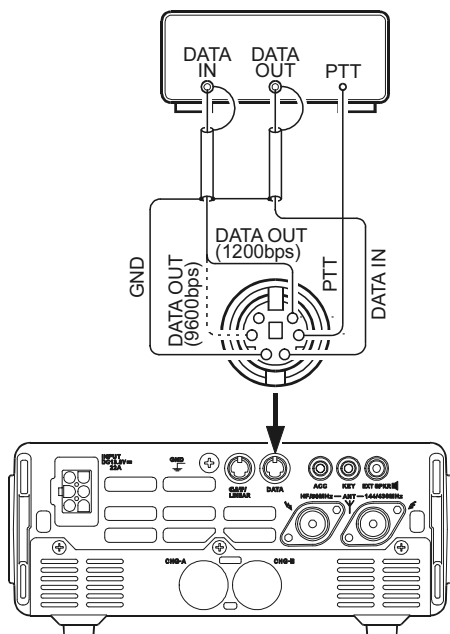
1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして “MFO (PLY1 PLY2 PLY3)” を呼び出します。
3. **A**, **B**, **C** を押すと、それぞれに登録された文字が送出されます。

- A** (PLY1) ➡ “BEACON TEXT 1” の文字を送出
- B** (PLY2) ➡ “BEACON TEXT 2” の文字を送出
- C** (PLY3) ➡ “BEACON TEXT 3” の文字を送出

- FM モードでビーコンを送出する場合、メニューモード “No-022 CW AUTO MODE” を “ON” にしてください。
- 送出されるモールス符号のスピードは、メニューモード “No-030 CW SPEED” で変更することができます。
- ビーコンを送出するためには、第三級アマチュア無線技士の資格と “A1A” の免許、また、FM モードでビーコンを送出する場合は “F2A”, の免許が必要です。第四級アマチュア無線技士の方は、“OFF” のままでご使用ください。

パケット

本体背面の DATA コネクターにパケット通信用 TNC (ターミナル・ノード・コントローラー) を接続することにより、FM モードのパケット通信 (ボーレート: 1200bps または 9600bps) を行うことができます。



1. お手持ちのパケット通信用 TNC を、本体背面の DATA コネクターに接続します。
2. メニューモードの “No-073 PKT RATE” を呼び出し、通信速度 (ボーレート) をあわせます。
“No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-073 PKT RATE” を呼び出すことはできません (p46 参照)。
3. **MODE** / **MODE** を押して、運用モード (電波型式) を “PKT” に設定します。
4. TNC よりコマンドを送ると自動的に送信状態になり、データを送ることができます。

- ・パケット通信時には、マイクロホン回路は自動的にオフになります。
- ・入力レベルの調整は、下表に示すように、メニューモードで行うことができます。

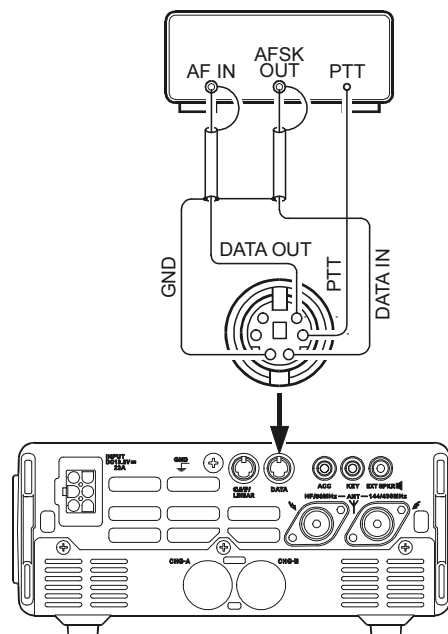
入力レベルの調整		
ボーレート	メニューモード	設定値
1200 bps	No-071 PKT 1200	0 ~ 100
9600 bps	No-072 PKT 9600	

- ・ツマミの位置に関わらず、本体からの出力レベルは一定ですので、TNC への入力レベル調整は TNC 側で行ってください。

ボーレート	出力レベル
1200 bps	300 mV p-p @ 10 k-ohm
9600 bps	500 mV p-p @ 10 k-ohm

RTTY

本体背面の DATA コネクターに TU (ターミナル・ユニット) を接続することにより、AFSK にて RTTY 通信を行うことができます。



1. お手持ちの TU を、本体背面の DATA コネクターに接続します。
2. **MODE** / **MODE** を押して、運用モード (電波型式) を “DIG” に設定します。
3. TU のボードを操作すると自動的に送信状態になり、符号を送ることができます。

- ・入力レベルの調整は、メニューモード “No-037 DIG GAIN” で行うことができます。
- ・ツマミの位置に関わらず、本体からの出力レベルは “300 mVp-p @ 10 k-ohm” 一定ですので、TU への入力レベル調整は TU 側で行ってください。
- ・メニューモード “No-038 DIG MODE” の設定により、“PSK-31” や HF 帯などの “SSB モードによるパケット通信” を行うこともできます。

※これらのメニューモードは “No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと呼び出すことはできません (p46 参照)。

SSTV について

SSTV の接続は、MIC 端子と EXT SPKR 端子を使用しますが、運用方法などの詳細は、WDXC にお問い合わせください。

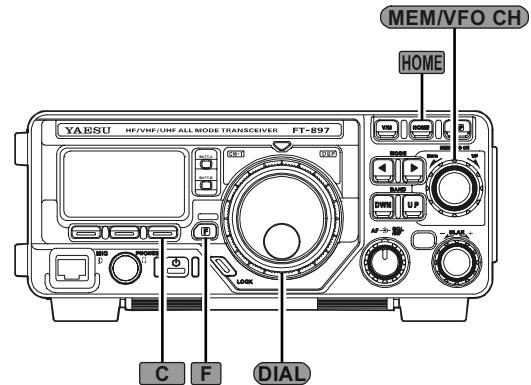
WDXC フリーダイヤル ☎0120-86-4901

メニューモード(1)

メニューモードとは、一度設定してしまえばその後変更する機会の少ない“機能”や“動作”などの変更を行う状態をいい、メニューナンバー“001”～“091”の91種類の“機能”または“動作”の変更を行うことができます。

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして、メニューを選びます。
3. **DIAL** ツマミをまわして、設定を変えます。
4. もう一度 **F** を長押しして、設定完了です。

- **F** を長押しする代わりに **C** を長押しすると、メニューの内容を変更せずにメニュー操作を終了することができます(メニューキャンセル)。
- **HOME** を押すと、現在呼び出しているメニューの設定値を工場出荷時の値に戻すことができます。



工場出荷時は、メニュー番号表示部が“No-XXX”になっている項目しか呼び出すことができません。メニューモード“No-001 EXT MENU”を“ON”にすると、全ての項目を呼び出すことができるようになります。

“.”のメニューは呼び出せません



- メニューを表示しているときに **A** を押すと“.”と“-”を切り換えることができます。
- “-”にすると、メニューモード“No-001 EXT MENU”の設定に関わらず、呼び出すことができます。

メニューモードのリセット

メニューモードの設定値を、一度に工場出荷時の値に戻すことができます。

1. 一度電源をオフにします。
2. **F** を押しながら電源をオンにします。

- メモリーした内容やVFOなどに設定した値はリセットされません。
- メニューモード“No-006 AM STEP”、“No-033 DCS CODE”、“No-052 FM STEP”、“No-056 MEM TAG”、“No-076 RPT SHIFT”、“No-082 SSB STEP”および“No-083 TONE FREQ”の内容はリセットされません。

No	表示	説明	選択できる項目
001	EXT MENU	メニュー拡張	ON / OFF
002	144MHz ARS	144MHz帯でのオートマチックレピーターシフト(ARS)の設定	ON / OFF
003	430MHz ARS	430MHz帯でのオートマチックレピーターシフト(ARS)の設定	ON / OFF
004	AM&FM DIAL	AM/FMモード時のDIALツマミの動作選択	DISABLE / ENABLE
005	AM MIC GAIN	AMモード時のマイクゲインの設定	0~100(50)
006	AM STEP	AMモード時のMEM/VFO CHツマミの周波数ステップ設定	2.5 / 5.0 / 9 / 10.0 / 12.5 / 25.0 kHz
007	APO TIME	オートマチックパワーオフ(APO)時間の設定	OFF / 1~6(時間)
008	ARTS BEEP	アーツ(ARTS)動作時の動作確認音の選択	OFF / RANGE / ALL
009	ARTS ID	アーツID(ARTS ID)機能の設定	ON / OFF
010	ARTS IDW	アーツID(ARTS ID)の書き込み	英数字(YAESU)
011	BEACON TEXT 1	ビーコンテキストの書き込み	英数字, /, スペース
012	BEACON TIME	ビーコン送出時間の設定	OFF / 1~255(分)
013	BEEP TONE	ビーブ音の音程(トーン)選択	440 / 880 / 1760 Hz
014	BEEP VOL	ビーブ音の音量調節	0~100(50)
015	CAR LSB R	受信キャリアポイントの調整(LSBモード)	-300~+300 Hz(0Hz)
016	CAR LSB T	送信キャリアポイントの調整(LSBモード)	
017	CAR USB R	受信キャリアポイントの調整(USBモード)	
018	CAR USB T	送信キャリアポイントの調整(USBモード)	
019	CAT RATE	CAT 運用時の通信速度(ボーレート)の設定	4800 / 9600 / 38400 bps
020	CAT/LIN/TUN	CAT /LINEAR端子のモード選択	CAT / LINEAR / TUNER
021	CLAR DIAL SEL	クラリファイア機能の動作ツマミの選択	MAIN / M/V / CLAR
022	CW AUTO MODE	CW運用モードの選択	OFF / ON
023	CW BFO	CWモード時のBFOの位置設定	USB / LSB / AUTO
024	CW DELAY	CWディレイタイム(送信保持時間)の設定	FULL / 30~3000 ms(250ms)
025	CW KEY REV	CWパドルの極性切り換え	NORMAL / REVERSE
026	CW PADDLE	CWパドルの選択	ELEKEY / MICKY
027	CW PITCH	CWピッチ周波数の設定	400~800 Hz(700Hz)
028	CW QSK	キーヤー信号送出ディレイタイムの設定	10~30 ms(10ms)

メニューモード(2)

No	表示	説明	選択できる項目
029	CW SIDE TONE	CW サイドトーンの音量設定	0~100(50)
030	CW SPEED	キーイングスピードの設定	4~60 wpm(12wpm)
031	CW TRAINING	CW トレーニング機能の設定	N / A / NA
032	CW WEIGHT	CW 符号のウエイト調整	1:2.5~1:4.5(1:3.0)
033	DCS CODE	DCS コードの設定	023~754
034	DCS INV	DCS コードの極性選択	Tn-Rn / Tn-Riv / Tiv-Rn / Tiv-Riv
035	DIAL STEP	DIAL ツマミのステップ幅設定	FINE / COARSE
036	DIG DISP	DIG モード(USER-L/U)時の周波数表示オフセットの設定	±3000Hz(0Hz)
037	DIG GAIN	DIG モード時のデータ入力レベル(MIC GAIN)の設定	0~100(50)
038	DIG MODE	DIG モード時の運用モードの選択	RTTY-L / RTTY-U / PSK-31-L / PSK-31U / USER-L / USER-U
039	DIG SHIFT	DIG モード(USER-L/U)時のキャリアポイントの調整	±3000Hz(0Hz)
040	DIG VOX	DIG モード時のVOX ゲインの設定	0~100(50)
041	DISP COLOR	ディスプレイの色設定	1~32
042	DISP CONTRAST	ディスプレイのコントラスト調整	1~13(5)
043	DISP INTENSITY	ディスプレイの明るさ設定	0 / 1 / 2 / 3
044	DISP MODE	バックライトの点灯条件設定	OFF / AUTO1 / AUTO2 / ON
045	DSP BPF WIDTH	DSP BPF 帯域幅の設定	60 / 120 / 240
046	DSP HPF CUTOFF	DSP HPF 帯カットオフ周波数の設定	100~1000 Hz
047	DSP LPF CUTOFF	DSP LPF 帯カットオフ周波数の設定	1000~6000 Hz
048	DSP MIC EQ	DSP マイクイコライザーの設定	OFF / LPF / HPF / BOTH
049	DSP NR LEVEL	DSP NR レベルの設定	1~16(8)
050	EMERGENCY	非常連絡設定周波数専用メモリーチャンネルの“ON/OFF”	ON / OFF
051	FM MIC GAIN	FM モード時のMIC GAINの設定	0~100(50)
052	FM STEP	FM モード時のMEM/VFO CHツマミのステップ幅設定	5 / 6.25 / 10 / 12.5 / 15 / 20 / 25 / 50 kHz
053	HOME→VFO	HOME→VFO 転送機能の“ON/OFF”	ON / OFF
054	LOCK MODE	LOCK スイッチのロック範囲の選択	DIAL / FREQ / PANEL / ALL
055	MEM GROUP	メモリーグループの設定	ON / OFF
056	MEM TAG	メモリーチャンネルへの名前の登録	英数字・記号
057	MEM/VFO DIAL MODE	MEM/VFO CHツマミを押したときの動作選択	CW SIDETONE / CW SPEED / MHz/MEM_GRP / MIC GAIN / NB LEVEL / RF POWER / STEP
058	MIC SCAN	マイクノイズキャン機能の“ON/OFF”	ON / OFF
059	MIC SEL	MIC 端子に接続する機器の設定	NOR / RMT / CAT
060	MTR ARX SEL	受信時にアナログメーターに表示する内容の設定	SIG, CTR, VLT, N/A, FS, OFF
061	MTR ATX SEL	送信時にアナログメーターに表示する内容の設定	PWR, ALC, MOD, SWR, VLT, N/A, OFF
062	MTR PEAK HOLD	メーターのピークホールド設定	ON / OFF
063	NB LEVEL	ノイズブランカー(NB)レベルの設定	0~100(50)
064	OP FILTER 1	設定を変えても何の動作も行いません。	英数字・記号
065	PG A	マルチファンクション“ A ”の動作変更	USER / ATC / TCALL / Q.SPL / MONI / マルチファンクションメニュー / メニューモード (“No-065/-066/-067/-068/-069/-070”を除く)
066	PG B	マルチファンクション“ B ”の動作変更	
067	PG C	マルチファンクション“ C ”の動作変更	
068	PG ACC	マイクノイズ“MH-59 _{ABJ} ”の“ ACC ”キーの動作変更	
069	PG P1	マイクノイズ“MH-59 _{ABJ} ”の“ P1 ”キーの動作変更	
070	PG P2	マイクノイズ“MH-59 _{ABJ} ”の“ P2 ”キーの動作変更	
071	PKT 1200	1200bps/パケット運用時のデータ入力レベルの設定	
072	PKT 9600	9600bps/パケット運用時のデータ入力レベルの設定	0~100(50)
073	PKT RATE	パケット運用時のボーレート(通信速度)の設定	1200 / 9600 bps
074	PROC LEVEL	スピーチプロセッサのレベル設定	0~100(50)
075	RF POWER SET	送信出力の設定	5~10(100)
076	RPT SHIFT	レピーターシフトの設定	0.00~99.99 MHz
077	SCAN MODE	スキャンストップモードの変更	TIME / BUSY / STOP
078	SCAN RESUME	スキャンポーズタイムの選択	1~10(秒)(5)
079	SPLIT TONE	トーンスプリット機能の“ON/OFF”	ON / OFF
080	SQL/RF GAIN	SQL/RF ツマミの動作選択	SQL / RF-GAIN
081	SSB MIC GAIN	SSB モード時のMIC GAINの設定	0~100(50)
082	SSB STEP	SSB モード時のMEM/VFO CHツマミのステップ幅設定	1kHz / 2.5kHz / 5kHz
083	STONE FREQ	トーン周波数の選択	67.0~254.1Hz(88.5Hz)
084	TOT TIME	タイムアウトタイマー(TOT)時間の設定	OFF / 1~20(分)
085	TUNER/ATAS	オートアンテナチューナー / アンテナチューナーの設定	OFF / ATAS(HF) / ATAS(HF&50) / ATAS(ALL) TUNER
086	TX IF FILTER	送信時のIFフィルター選択	CERF / FIL1 / FIL2
087	VOX DELAY	VOX デレイタイムの設定	100~3000 ms(500ms)
088	VOX GAIN	VOX ゲインの設定	1~100(50)
089	XVTR A FREQ	トランスバーター(X VTR A)表示の設定	0~9999,999 kHz(現在設定してあるVFOの周波数)
090	XVTR B FREQ	トランスバーター(X VTR B)表示の設定	0~9999,999 kHz(現在設定してあるVFOの周波数)
091	XVTR SEL	トランスバーター運用設定	OFF / X VTR A / X VTR B

メニューモード(3)

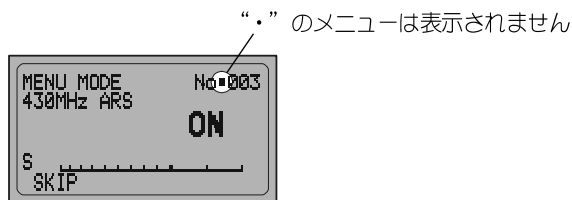
No-001 EXT MENU

メニュー拡張

設定できる項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：“OFF”の状態では、メニュー番号表示部が“No・XXX”になっている項目を呼び出すことはできません。



“ON”にすると全てのメニューモードを呼び出すことができるようになります。

No・002 144MHz ARS

ARS機能の選択(144MHz帯)

設定できる項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：設定値を変更しても、動作に変化はありません。

No・003 430MHz ARS

ARS機能の選択(430MHz帯)

設定できる項目：ON/OFF

工場出荷時：ON

解説：430MHz帯のARS機能の動作を“ON/OFF”することができます。

No・004 AM&FM DIAL

AM/FMモード時のツマミの動作選択

設定できる項目：ENABLE/DISABLE

工場出荷時：DISABLE

解説：AM/FM/PKTモード時の**DIAL**ツマミの動作を設定します。

ENABLE：AM/FM/PKTモード時でも**DIAL**ツマミで周波数の設定を行うことができます。

DISABLE：AM/FM/PKTモード時は**DIAL**ツマミは動作しません。

No-005 AM MIC GAIN

AMモード時のマイクゲインの設定

設定できる項目：0～100

工場出荷時：50

解説：AMモード時のマイク入力レベル(MIC GAIN)を設定します。数値が大きくなるほどマイク入力レベルも大きくなります。

No・006 AM STEP

AMモード時の**MEM/VFO CH**ツマミのステップ幅

設定できる項目：2.5/5.0/9/10.0/12.5/25.0 kHz

工場出荷時：5.0 kHz

解説：AMモード時の**MEM/VFO CH**ツマミのステップ幅(周波数変化量)を設定します。VFO-A/VFO-BおよびHF帯/50MHz帯/144MHz帯/430MHz帯に対して、個別に設定することができます(メニューモードを呼び出すときに使用していたVFOおよびバンドに対して設定できます)。

No・007 APO TIME

APO時間の設定

設定できる項目：OFFまたは1～6時間

工場出荷時：OFF

解説：何も操作を行わずに設定した時間が経過すると、自動的に電源がオフになります。

No・008 ARTS BEEP

ARTS機能動作時の動作確認音の設定

設定できる項目：OFF/RANGE/ALL

工場出荷時：RANGE

解説：相手局から送られてくるARTS信号の確認音を選択します。

OFF：交信圏内/圏外に関わらず、確認音は鳴りません。

RANGE：交信圏内になったとき、1回だけ「ピピッ」と確認音が鳴ります(以後、交信圏外に出ない限り確認音は鳴りません)。また、交信圏外に出たとき、1回だけ「ププッ」と確認音が鳴ります(以後、再び交信圏内に入らない限り確認音は鳴りません)。

ALL：交信圏内にいるときは、ARTS信号を受信するたびに「ピピッ」と確認音が鳴ります。なお、交信圏外に出たとき、1回だけ「ププッ」と確認音が鳴ります。

No・009 ARTS ID

ARTS ID機能の設定(ARTS動作時)

設定できる項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：ARTS(アーツ)運用時に送出するARTS ID機能の動作を選択します。

OFF：ARTS IDの送出は行いません。

ON：ARTS動作中は、約10分毎に自動的にARTS IDを送出します。送出するARTS IDの設定はメニューモード“No-010 ARTS IDW”で行います。

No・010 ARTS IDW

ARTS IDの書き込み

設定できる項目：任意の英数字(10文字まで)

工場出荷時：YAESU

解説：ARTS運用時、約10分毎に送出されるARTS IDの登録(p40)を行います。

No・011 BEACON TEXT 1

ビーコンテキスト 1～3への書き込み

設定できる項目：英数字、/, スペース

工場出荷時：1 / 2 / 3

解説：設定した間隔で自動的に送出されるビーコンの内容登録(p42)を行います。

No・012 BEACON TIME

ビーコンテキストを送出する時間の設定

設定できる項目：OFF または 1～255 (秒)

工場出荷時：OFF

解説：BEACON TEXT を送出する間隔を設定します。

No・013 BEEP TONE

ビープ音の(音程)設定

設定できる項目：440Hz/880Hz/1760Hz

工場出荷時：880Hz

解説：ビープ音の音程(トーン)を選択します。数値が大きくなるほど音程が高くなります。

No-014 BEEP VOL

ビープ音の音量調節

設定できる項目：0～100

工場出荷時：50

解説：キー操作などを行ったときに鳴る“ビープ音”の音量を調節します。数値が大きくなるほどビープ音量も大きくなります。なお、**[B]**を押すと、設定された音量でビープ音が鳴ります。

No・015 CAR LSB R

受信LSBキャリアポイントの調整

設定できる項目：-300～+300 (Hz)

工場出荷時：0Hz

解説：LSBモード時の受信キャリアポイントを10Hzステップでオフセットすることができます。設定値をプラス方向に設定するとキャリアポイントがフィルターに近づき(低域が強調される)、マイナス方向に設定すると離れます(高域が強調される)。

No・016 CAR LSB T

送信LSBキャリアポイントの調整

設定できる項目：-300～+300 (Hz)

工場出荷時：0Hz

解説：LSBモード時の送信キャリアポイントを10Hzステップでオフセットすることができます。設定値をプラス方向に設定するとキャリアポイントがフィルターに近づき(低域が強調される)、マイナス方向に設定すると離れます(高域が強調される)。

No・017 CAR USB R

受信USBキャリアポイントの調整

設定できる項目：-300～+300 (Hz)

工場出荷時：0Hz

解説：USBモード時の受信キャリアポイントを10Hzステップでオフセットすることができます。設定値をプラス方向に設定するとキャリアポイントがフィルターから離れて行き(高域が強調される)、マイナス方向に設定すると近づきます(低域が強調される)。

No・018 CAR USB T

送信USBキャリアポイントの調整

設定できる項目：-300～+300 (Hz)

工場出荷時：0Hz

解説：USBモード時の送信キャリアポイントを10Hzステップでオフセットすることができます。設定値をプラス方向に設定するとキャリアポイントがフィルターから離れて行き(高域が強調される)、マイナス方向に設定すると近づきます(低域が強調される)。

No・019 CAT RATE

CAT運用時のボーレート(通信速度)の選択

設定できる項目：4800/9600/38400 bps

工場出荷時：4800 bps

解説：CAT運用時のボーレート(通信速度)を選択します。

No・020 CAT/LIN/TUN

CAT/LINEAR端子のモード選択

設定できる項目：CAT/LINEAR/TUNER

工場出荷時：CAT

解説：背面にある**CAT**/LINEAR端子に接続する機器を設定します。

CAT： **CAT** コントロールをする場合に選択します。

LINEAR：リニアアンプを接続する時に選択します。

TUNER：FC-30を接続する時に選択します。

No・021 CLAR DIAL SEL

クラリファイア・IFシフト機能の動作ツマミの選択

設定できる項目：MAIN, M/V, CLAR

工場出荷時：CLAR

解説：クラリファイア・IFシフトツマミとして動作させるツマミを選択します。

MAIN： **DIAL** ツマミがクラリファイア・IFシフト調整ツマミとして動作します。

M/V： **MEM/VFO CH** ツマミがクラリファイア・IFシフト調整ツマミとして動作します。

CLAR： **CLAR** ツマミがクラリファイア・IFシフト調整ツマミとして動作します。

メニューモード(5)

No-022 CW AUTO MODE

CW運用モードの設定

設定できる項目：OFF/ON

工場出荷時：OFF

解説：キーイングを行ったときの各モードでの動作設定

OFF：CWモード時のみキーイング操作が有効

ON：LSB、USB、FMモード時もキーイング操作が有効で、FMモード時はF2Aの電波型式で、LSB、USBモード時はCWモードとして送信します。

No・023 CW BFO

CWモード時のBFOの位置設定

設定できる項目：USB/LSB/AUTO

工場出荷時：USB

解説：CWモードで受信時にBFOの位置を切り換えることができます。

USB：BFOの位置がUSB側になります

LSB：BFOの位置がLSB側になります

AUTO：受信周波数が10MHz以下の場合はBFOの位置がLSB側に、受信周波数が10MHz以上の場合はBFOの位置がUSB側になります。

No-024 CW DELAY

CWディレイタイム(送信保持時間)の設定

設定できる項目：FULL または 30～3000ms

工場出荷時：250ms

解説：キーイング操作が終了後、受信状態に戻るまでの送信保持時間(ディレイタイム)を10msステップで設定することができます。

FULLに設定した場合は、メニューモード“**No-028 CW QSK**”の設定と同じ時間になります。

No・025 CW KEY REV

CWパドルの極性切り換え

設定できる項目：NORMAL/REVERSE

工場出荷時：NORMAL

解説：CWパドルの極性を切り換えます

NORMAL：パドルのDOT側を操作するとDOT信号を出力し、DASH側を操作するとDASH信号を出力します。

REVERSE：パドルのDOT側を操作するとDASH信号を出力し、DASH側を操作するとDOT信号を出力します。

No・026 CW PADDLE

CWパドルの選択

設定できる項目：ELEKEY/MICKEY

工場出荷時：ELEKEY

解説：

ELEKEY：通常のエレクトロニックキーヤーを使用します。

MICKEY：マイクロホンの[UP]/[DWN]スイッチでCW信号が送出できるようになります。[UP]スイッチを押すと“DOT”信号が[DWN]スイッチを押すと“DASH”信号が送出されます。

・“MICKEY”に設定すると、マイクロホンの[UP][DWN]では、周波数の変更やスキャン操作などができなくなります。

No-027 CW PITCH

CWピッチ周波数の設定

設定できる項目：400～800Hz

工場出荷時：700Hz

解説：CW受信時のピッチ周波数およびCW受信時のサイドトーン周波数を100Hzステップで設定することができます。

No・028 CW QSK

キーヤー信号送出ディレイタイムの設定

設定できる項目：10～30ms

工場出荷時：10ms

解説：送信操作を行ってから、実際に電波が送信されるまでの時間を5msステップで設定することができます。

設定を25msまたは30msにした場合は、メニュー“**No-030 CW SPEED**”の設定は下記の値を超えないようにしてください。

25ms ➡ 50wpm(250cpm)以上に設定しないでください

30ms ➡ 42wpm(210cpm)以上に設定しないでください

No-029 CW SIDE TONE

CWサイドトーンの音量設定

設定できる項目：0～100

工場出荷時：50

解説：CWサイドトーンの音量を設定することができます。数値が大きくなるほど音量も大きくなります。

No-030 CW SPEED

キーイングスピードの設定

設定できる項目：4～60wpm(20～300cpm)

工場出荷時：12wpm(60cpm)

解説：内蔵エレクトリックキーヤーのキーイングスピードを設定します。キーイングスピードの目安を(wpm：1分間あたりの単語数)または(cpm：1分間あたりの文字数)で設定することができます。

wpmとcpmは **MEM/VFO CH** ツマミを押すことにより切り換えることができます。

“**No-028 CW QSK**”の設定を25msまたは30msにした場合は、CW SPEEDの設定は下記の値を超えないようにしてください。

25ms ➡ 50wpm(250cpm)以上に設定しないでください

30ms ➡ 42wpm(210cpm)以上に設定しないでください

No・031 CW TRAINING

CWトレーニング機能の設定

設定できる項目：N/A/AN

工場出荷時：N

解説：ランダムな5文字のモールス符号を送出し、その後、送出したモールス符号をディスプレイに表示します。マルチファンクションの **B** を押すとモールス符号を発生します。

N：数字だけの符号を送出します

A：英字だけの符号を送出します

AN：英数字混在の符号を送出します

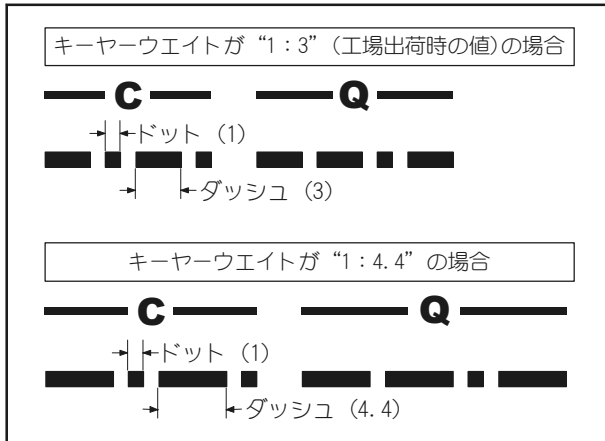
No-032 CW WEIGHT

CW符号のウエイト調整

設定できる項目：1:2.5 ~ 1:4.5

工場出荷時：1:3.0

解説：内蔵エレクトリックキーヤーの、短点(ドット)と長点(ダッシュ)の比率(ウエイト)を設定します。



No • 033 DCS CODE

DCSコードの設定

設定できる項目：023 ~ 754

工場出荷時：023

解説：DCSコードの選択を行います(p39)。VFO-A/VFO-BおよびHF帯/50MHz帯/144MHz帯/430MHz帯に対して、個別に設定することができます(メニューモードを呼び出すときに使用していたVFOおよびバンドに対して設定されます)。

No • 034 DCS INV

DCSコードの極性選択

設定できる項目：Tn-Rn/Tn-Riv/Tiv-Rn/Tiv-Riv

工場出荷時：Tn-Rn

解説：常に“Tn-Rn”の状態で使用してください。

No-035 DIALSTEP

DIAL ツマミのステップ幅設定

設定できる項目：FINE/COARSE

工場出荷時：FINE

解説：**DIAL** ツマミのステップ幅(周波数変化量)を設定します。

FINE：SSB/CW時は10Hz、AM/FM時は100Hz

COARSE：SSB/CW時は20Hz、AM/FM時は200Hz

No-036 DIG DISP

DIGモード(USER-L/U)時の周波数表示オフセットの設定

設定できる項目：±3000Hz

工場出荷時：0Hz

解説：DIGモード(USER-L/U)運用時の周波数表示オフセットを10Hzステップで設定することができます。DIGモード(USER-L/USER-U)運用時の表示周波数が、LSB/USBモード時の表示周波数に対して、設定した値だけシフトします。

No • 037 DIG GAIN

DIGモード時のデータ入力レベル(MC GAIN)の設定

設定できる項目：0 ~ 100

工場出荷時：50

解説：DIGモード運用時のデータ入力レベルを設定します。数値が大きくなるほど入力レベルも大きくなります。

No • 038 DIG MODE

DIGモード時の運用モードの選択

設定できる項目：RTTY-L/RTTY-U/PSK-31L/PSK-31U
USER-L/USER-U

工場出荷時：RTTY-L

解説：DIGモード運用時のサイドバンドの位置を選択します。設定したモード(LSBまたはUSB)で送受信を行います。

No • 039 DIG SHIFT

DIGモード(USER-L/U)時のキャリアポイントの調整

設定できる項目：±3000Hz

工場出荷時：0Hz

解説：DIGモード(USER-L/U)運用時のキャリアポイントの調整を10Hzステップで設定することができます。DIGモード(USER-L/USER-U)運用時のキャリアポイントが、LSB/USBモード時のキャリアポイントに対して、設定した値だけシフトします。

No • 040 DIG VOX

DIGモード時のVOXゲインの設定

設定できる項目：1 ~ 100

工場出荷時：1

解説：DIGモード(USER-L/U)運用時の、VOX回路の動作感度を設定します。“1”が感度最小で“100”が感度最大です。

No-041 DISP COLOR

ディスプレイの色設定

設定できる項目：1 ~ 32

工場出荷時：FIX:1

解説：ディスプレイの色を32色の中から選択することができます。また、運用状況に応じて、色が変化するようにすることもできます(p11)。

No • 042 DISP CONTRAST

ディスプレイのコントラスト調整

設定できる項目：1 ~ 13

工場出荷時：5

解説：ディスプレイのコントラストを調整します。見やすい値に設定します。

No-043 DISP INTENSITY

ディスプレイの明るさ設定

設定できる項目：0 ~ 3

工場出荷時：3

解説：ディスプレイの明るさを設定します。数値が大きくなるほど明るくなります。

メニューモード(7)

No・044 DISP MODE

バックライトの点灯条件設定

設定できる項目：OFF/AUTO 1/AUTO 2/ON

工場出荷時：OFF

解説：ディスプレイのバックライトが点灯する条件を設定します。

OFF： 電池パック/外部電源運用に関わらず、バックライトは点灯しません。

AUTO1：ツマミやスイッチを操作したときのみバックライトが点灯し、約3秒後に自動的に消灯します。

AUTO2：電池パック“FNB-78”で運用しているときには、ツマミやスイッチを操作したときのみバックライトが点灯し、約3秒後に自動的に消灯します。なお、外部電源で運用時には、常時バックライトが点灯します。

ON： 電池パック/外部電源での運用に関わらず、常時バックライトが点灯します。

No-045 DSP BPF WIDTH

DSP BPF 帯域幅の設定

設定できる項目：60/120/240

工場出荷時：240

解説：CWモード運用時の、BPFの帯域幅を設定します。
数値が小さくなるほど、帯域幅が狭くなり、混信の影響を受けにくくなります。

No-046 DSP HPF CUTOFF

DSP HPF カットオフ周波数の設定

設定できる項目：100～1000Hz

工場出荷時：100Hz

解説：CW以外のモード(電波型式)で受信時の、DSP HPFのカットオフ周波数を選択します。

No-047 DSP LPF CUTOFF

DSP LPF カットオフ周波数の設定

設定できる項目：1000～6000Hz

工場出荷時：6000Hz

解説：CW以外のモード(電波型式)で受信時の、DSP LPFのカットオフ周波数を選択します。

No-048 DSP MIC EQ

DSP マイクイコライザーの設定

設定できる項目：OFF/LPF/HPF/BOTH

工場出荷時：OFF

解説：DSP マイクイコライジングを設定します。

OFF： イコライザー機能はオフになります

LPF： 低域が強調されます(ハイカット)

HPF： 高域が強調されます(ローカット)

BOTH： 中域が強調されます(ハイカット&ローカット)

No-049 DSP NR LEVEL

DSP NRレベルの設定

設定できる項目：1～16

工場出荷時：8

解説：DSP ノイズリダクション回路の動作レベルを設定します。数値が大きくなるほど、激しいノイズに効果を発揮します。

No・050 EMERGENCY

非常連絡設定周波数専用メモリーチャンネルの“ON/OFF”

設定できる項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：非常通信設定周波数専用メモリーチャンネルを“ON/OFF”します。“ON”にすると非常通信設定周波数専用メモリーチャンネル“MEMG”がメモリーチャンネルの一番最後に追加されます。

No・051 FM MIC GAIN

FMモード時のMC GAINの設定

設定できる項目：0～100

工場出荷時：50

解説：FMモード時のマイク入力レベル(MIC GAIN)を設定します。数値が大きくなるほどマイク入力レベルも大きくなります。

No・052 FM STEP

FMモード時の(MEM/VFO CH) ツマミのステップ幅設定

設定できる項目：5/6.25/10/12.5/15/20/25/50 (kHz)

工場出荷時：5kHz(HF/50MHz帯)、20kHz(144/430MHz帯)

解説：FMモード時の(MEM/VFO CH) ツマミのステップ幅(周波数変化量)を設定します。VFO-A/VFO-B/およびHF帯/50MHz帯/144MHz帯/430MHz帯に対して、個別に設定することができます(メニューモードを呼び出すときに使用していたVFOおよびバンドに対して設定されます)。なお、WFMモード時のステップ幅は“50kHz”以外に設定することはできません。

No・053 HOME→VFO

HOME→VFO 転送機能の“ON/OFF”操作

設定できる項目：ON/OFF

工場出荷時：ON

解説：DIAL または (MEM/VFO CH) ツマミが有効になっている時、HOMEチャンネルを呼び出し中に、DIAL または (MEM/VFO CH) ツマミを操作すると、HOMEチャンネルの内容がHOMEチャンネルを呼び出す前に使用していたVFOに転送され、以後VFOモードとして動作します。

“OFF”に設定すると、これらの機能が動作しなくなります。

なお、セミデュプレックスメモリーの状態は転送されず、送受信周波数が同じになります。

No・054 LOCK MODE

LOCK スイッチのロック範囲選択

設定できる項目：DIAL/FREQ/PANEL/ALL

工場出荷時：DIAL

解説： **LOCK** スイッチでロックすることができる範囲を設定します。

DIAL： **DIAL** ツマミだけがロックします。

FREQ： 周波数変更に関係するツマミとスイッチ類がロックします。

PANEL： 電源および **LOCK** スイッチ, **SQL/RF** および **AF** ツマミ以外のスイッチとツマミ類をロックします。

ALL： PANEL の設定に加え、マイクのキー(一部のキーを除く)入力もロックします。

No・055 MEM GROUP

メモリーグループの設定

設定できる項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：この設定を“ON”にすると、メモリーチャンネルを11のグループに分けることができます(p30)。

No・056 MEM TAG

メモリーチャンネルへの名前の登録

設定できる項目：任意の英数字・記号

工場出荷時：CH-XXX(通常のメモリーチャンネル), HOME(ホームチャンネル), EMG(非常連絡設定周波数専用メモリーチャンネル)

解説：メモリーチャンネルに最大8文字の名前を付けることができます(p30)。

No・057 MEM/VFO DIAL MODE

MEM/VFO CH ツマミを押したときの動作選択

設定できる項目：CW SIDE TONE, CW SPEED, MHz/MEM GRP, MIC GAIN, NB LEVEL, RF POWER, STEP

工場出荷時：MHz/MEM GRP

解説：**MEM/VFO CH** ツマミを0.5秒以内で押した後の **MEM/VFO CH** ツマミの動作を設定します。

CW SIDE TONE：キーイング操作時に発するサイドトーンの音量を設定します。

CW SPEED：内蔵エレクトロニックキーヤーのキーイングスピードを設定します。

MHz/MEM GRP：VFOモードの時は1MHzステップで周波数を変更することができます。メモリーモードの時は“**No-054 MEM GROUP**”が“OFF”の時はメモリーチャンネルを1チャンネル単位で呼び出し“ON”の時はメモリーバンクを1グループ単位で呼び出します。

MIC GAIN：マイクロホンの感度を設定します。

NB LEVEL：ノイズブランカーの動作レベルを設定します。

RF POWER：送信出力を設定します。

STEP：周波数変化量を設定します。

No・058 MIC SCAN

マイクロホン・スキャン機能の“ON/OFF”

設定できる項目：ON/OFF

工場出荷時：ON

解説：マイクロホンの[UP]/[DWN]スイッチの動作を選択します。

OFF：[UP]/[DWN]スイッチを押している間だけ周波数またはメモリーチャンネルをスキャンします。離すとスキャンは停止します。

ON：[UP]/[DWN]スイッチを0.5秒以上押し続けると、スイッチを離してもスキャンを続けます。

No・059 MIC SEL

MIC 端子に接続する機器の設定

設定できる項目：NOR/RMT/CAT

工場出荷時：NOR

解説：MIC端子の動作を選択します。

NOR：通常のマイクロホンを使用するときに選択します。

RMT：オプションのリモートコントロールマイクロホン“MH59A&J”を使用するときに選択します。

CAT：アンテナチューナー接続時に**CAT**運用を行うときに選択します。

No・060 MTR ARX SEL

受信時にアナログメーター端子に出力させる内容の設定

設定できる項目：SIG, CTR, VLT, N/A, FS, OFF

工場出荷時：SIG

解説：

SIG：Sメーターの信号を出力します。

CTR：WFMを除くFMモードの時のみ有効で、相手局との周波数が合っているかを表示します。

VLT：電源電圧を出力します。

N/A：通常は選択しないでください。

FS：メーターのフルスケール調整に使用します。

OFF：アナログメーター端子への信号出力がオフになります。

No・061 MTR ATX SEL

送信時にアナログメーター端子に出力させる内容の設定

設定できる項目：PWR, ALC, MOD, SWR, VLT, N/A, OFF

工場出荷時：PWR

解説：

PWR：POメーターの信号を出力します。

ALC：ALCメーターの信号を出力します。

MOD：変調メーターの信号を出力します。

SWR：SWRメーターの信号を出力します。

VLT：電源電圧を出力します。

N/A：通常は選択しないでください。

OFF：アナログメーター端子への信号出力がオフになります。

No-062 MTR PEAK HOLD

メーターのピークホールド設定

設定できる項目：ON/OFF

工場出荷時：ON

解説：Sメーターの最大値を読みやすくするため、最大値を0.5秒間保持することができます。

メニューモード(9)

No-063 NB LEVEL

NB(ノイズブランカー)レベルの設定

設定できる項目：0～100

工場出荷時：50

解説：ノイズブランカーの動作レベルを設定することができます。数値が大きくなるほど、激しいノイズに効果を発揮します。

No・064 OP FILTER 1

現在は、設定を変えても何の動作も行いません。

No・065 PG A

マルチファンクション **A** の動作変更

設定できる項目：USER/ATC/TCALL/Q.SPL/MONI/ マルチファンクションメニュー/メニューモード(“No-065 PG A” “No-066 PG B” “No-067 PG C” “No-068 PG ACC” “No-069 PG P1” “No-070 PG P2” を除く)

工場出荷時：MONI

解説：マルチファンクション機能“MFq”で使用する **A** の動作を変更することができます。

MONI： 押している間スケルチを OFF にします。

Q.SPL： マルチファンクションメニュー“A-B”の動作を行い、VFO-Aをディスプレイに表示し、VFO-Bの周波数はVFO-Aより5kHz高い周波数に設定され、VFO-Aで受信VFO-Bで送信を行います。

T.CALL： 通常は選択しないでください。

ATC： 通常は選択しないでください。

USER： 通常は選択しないでください。

・メニューモードを登録した時の表示は、メニュー番号が表示されます。

No・066 PG B

マルチファンクション **B** の動作変更

設定できる項目：USER/ATC/TCALL/Q.SPL/MONI/ マルチファンクションメニュー/メニューモード(“No-065 PG A” “No-066 PG B” “No-067 PG C” “No-068 PG ACC” “No-069 PG P1” “No-070 PG P2” を除く)

工場出荷時：Q.SPL

解説：メニューモード“No-063 PG A”と同じ機能です。マルチファンクション機能“MFq”で使用する **B** の動作を変更することができます。

No・067 PG C

マルチファンクション **C** の動作変更

設定できる項目：USER/ATC/TCALL/Q.SPL/MONI/ マルチファンクションメニュー/メニューモード(“No-065 PG A” “No-066 PG B” “No-067 PG C” “No-068 PG ACC” “No-069 PG P1” “No-070 PG P2” を除く)

工場出荷時：ATC

解説：メニューモード“No-063 PG A”と同じ機能です。マルチファンクション機能“MFq”で使用する **C** の動作を変更することができます。

No・068 PG ACC

マイクロホン“MH-59A8J”の“ACC”キーの動作変更

設定できる項目：USER/ATC/TCALL/Q.SPL/MONI/ マルチファンクションメニュー/メニューモード(“No-065 PG A” “No-066 PG B” “No-067 PG C” “No-068 PG ACC” “No-069 PG P1” “No-070 PG P2” を除く)

工場出荷時：MONI

解説：メニューモード“No-063 PG A”と同じ機能です。オプションのリモートコントロールマイクロホン“MH-59A8J”の“ACC”キーの動作を変更することができます。

No・069 PG P1

マイクロホン“MH-59A8J”の“P1”キーの動作変更

設定できる項目：USER/ATC/TCALL/Q.SPL/MONI/ マルチファンクションメニュー/メニューモード(“No-065 PG A” “No-066 PG B” “No-067 PG C” “No-068 PG ACC” “No-069 PG P1” “No-070 PG P2” を除く)

工場出荷時：Q.SPL

解説：メニューモード“No-063 PG A”と同じ機能です。オプションのリモートコントロールマイクロホン“MH-59A8J”の“P1”キーの動作を変更することができます。

No・070 PG P2

マイクロホン“MH-59A8J”の“P2”キーの動作変更

設定できる項目：USER/ATC/TCALL/Q.SPL/MONI/ マルチファンクションメニュー/メニューモード(“No-065 PG A” “No-066 PG B” “No-067 PG C” “No-068 PG ACC” “No-069 PG P1” “No-070 PG P2” を除く)

工場出荷時：TCAL

解説：メニューモード“No-063 PG A”と同じ機能です。オプションのリモートコントロールマイクロホン“MH-59A8J”の“P2”キーの動作を変更することができます。

No・071 PKT 1200

1200bps パケット運用時のデータ入力レベルの設定

設定できる項目：0～100

工場出荷時：50

解説：1200bps パケット運用時の、データ入力レベルを設定します。数値が大きくなるほど入力レベルも大きくなります。

No・072 PKT 9600

9600bps パケット運用時のデータ入力レベルの設定

設定できる項目：0～100

工場出荷時：50

解説：9600bps パケット運用時の、データ入力レベルを設定します。数値が大きくなるほど入力レベルも大きくなります。

No・073 PKT RATE

パケット運用時のポーレート(通信速度)の設定

設定できる項目：1200/9600bps

工場出荷時：1200bps

解説：パケット運用時のポーレート(通信速度)を選択します。

No-074 PROC LEVEL

スピーチプロセッサのレベル設定

設定できる項目：0～100

工場出荷時：50

解説：SSB/AMモードで運用時の、スピーチプロセッサの動作レベルを設定します。

No-075 RF POWER SET

送信出力の設定

設定できる項目：仕様と周波数帯により異なります

工場出荷時：仕様と周波数帯により異なります

解説：送信出力を設定します。

設定できる値は、**FT-897D**の仕様および運用周波数帯により異なります(下表参照)。

	HF帯	50MHz帯	144MHz帯	430MHz帯
FT-897D	5～100	5～100	5～50	2～20
FT-897DM	5～50	5～50	5～50	2～20
FT-897DS	5～10	5～20	5～20	2～20

・電池パックで運用時は、設定値に関わらず、最大出力は20W(430MHz帯は10W)になります(FT-897DSのHF帯は10W)。

・トランスパーターモードになった時は“**No-075 RF POWER SET**”の設定に関わらず、送信出力は次のようになります。

HF帯～144MHz ➡ 5W

430MHz帯 ➡ 2W

No・076 RPT SHIFT

レピーターシフトの設定

設定できる項目：0.00～99.99MHz

工場出荷時：0.1MHz(HF帯)、1.0MHz(50MHz帯)、0MHz(144MHz帯)、5MHz(430MHz帯)

解説：VFO-A/VFO-BおよびHF帯/50MHz帯/144MHz帯/430MHz帯に対して、個別に設定することができます(メニューモードを呼び出すときに使用していたVFOおよびバンドに対して設定されます)。

・**MEM/VFO CH** ツマミを押してからまわすと、1MHzステップで設定することができます。

No・077 SCAN MODE

スキャンストップモードの変更

設定できる項目：TIME/BUSY/STOP

工場出荷時：TIME

解説：信号を受信して一時停止したスキャンが、再スタートする条件を選択します。

TIME：メニューモード“**No-076 SCAN RESUME**”で設定した時間だけ信号を受信し、その後スキャンが再スタートします。

BUSY：信号が無くなるまで受信を続け、信号が無くなるとスキャンが再スタートします。

STOP：スキャンは再スタートせずに、スキャン動作を停止します。

No・078 SCAN RESUME

スキャンポーズタイムの選択

設定できる項目：1～10(秒)

工場出荷時：1(秒)

解説：一時停止しているスキャンが、再スタートするまでの時間(ポーズタイム)を選択します。

No・079 SPLIT TONE

トーンスプリット機能の“ON/OFF”操作

設定できる項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：“ON”にすると、送受信で異なるトーン周波数およびDCSコードを設定することができます。

送受信で異なるトーン周波数を設定するとき ➡ p38 参照

送受信で異なるDCSコードを設定するとき ➡ p39 参照

No-080 SQL/RF GAIN

SQL/RF ツマミの動作選択

設定できる項目：SQL/RF-GAIN

工場出荷時：SQL

解説：SQL/RF ツマミの動作を選択します。

SQL：スケルチ感度の調整用ツマミとして動作します。

RF-GAIN：RF GAINの調整用ツマミとして動作します。

No-081 SSB MIC GAIN

SSBモード時のMC GAINの設定

設定できる項目：0～100

工場出荷時：50

解説：SSBモード時のマイク入力レベル(MIC GAIN)を設定します。数値が大きくなるほどマイク入力レベルも大きくなります。

No・082 SSB STEP

SSBモード時のMEM/VFO CH ツマミのステップ幅設定

設定できる項目：1kHz/2.5kHz/5kHz

工場出荷時：2.5kHz

解説：SSB/CWモード時の**MEM/VFO CH** ツマミのステップ幅(周波数変化量)を設定します。VFO-A/VFO-BおよびHF帯/50MHz帯/144MHz帯/430MHz帯に対して、個別に設定することができます(メニューモードを呼び出すときに使用していたVFOおよびバンドに対して設定されます)。

メニューモード(11)

No-083 TONE FREQ

トーン周波数の選択

設定できる項目：67.0 ~ 254.1Hz

工場出荷時：88.5Hz

解説：トーン周波数の選択を行います(p38)。VFO-A/VFO-B およびHF帯/50MHz帯/144MHz帯/430MHz帯に対して、個別に設定することができます(メニューモードを呼び出すときに使用していたVFOおよびバンドに対して設定されます)。

No・084 TOT TIME

TOT(タイムアウトタイマー)時間の設定

設定できる項目：1 ~ 20(分)

工場出荷時：OFF

解説：設定した時間“連続送信”を行うと、強制的に受信状態に戻ります(p18)。

No・085 TUNER/ATAS

オートアンテナ/アンテナチューナーの設定

設定できる項目：OFF/ATAS(HF)/ATAS(HF&50)/
ATAS(ALL)/TUNER

工場出荷時：OFF

解説：オートアンテナまたはアンテナチューナーの使用方法を設定します。

OFF： FC-30, ATAS-100/-120 共に使用しない場合

ATAS(HF)： HF帯でATAS-100/-120を使用する場合

ATAS(HF&50)： HF帯と50MHz帯でATAS-100/-120を使用する場合

ATAS(ALL)： 全ての周波数帯でATAS-100/-120を使用する場合

TUNER： FC-30を使用する場合

No・086 TX IF FILTER

送信時のIFフィルター選択

設定できる項目：CFIL/FIL1/FIL2

工場出荷時：CFIL

解説：送信時に使用するIFフィルターを選択します。SSB/CW/DIGモードごとに設定することができます。

CFIL： セラミックフィルターを使用します

FIL1： FIL-1の位置に装着されたフィルターを使用します

FIL2： FIL-2の位置に装着されたフィルターを使用します

No・087 VOX DELAY

VOXディレイタイムの設定

設定できる項目：100 ~ 3000(ms)

工場出荷時：500(ms)

解説：VOX運用時に、送信状態から受信状態に戻るまでの復帰時間(ディレイタイム)を設定します。

No-088 VOX GAIN

VOXゲインの設定

設定できる項目：1 ~ 100

工場出荷時：50

解説：VOX回路の動作感度を設定します。“1”が感度最小で“100”が感度最大です。

No・089 XVTR A FREQ

トランスバーター(X VTR A)表示の設定

設定できる項目：0 ~ 9999,999(kHz)

工場出荷時：現在設定してあるVFOの周波数

解説：トランスバーターモードとなったとき(メニューモード“No-091 XVTR SEL”の設定を“X VTR A”にした時)表示する周波数を設定します。

1. **MEM/VFO CH** ツマミを押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして、カーソルを移動させます。
3. **DIAL** ツマミで数値を設定します。
4. 操作2. と3. を繰り返して、希望の周波数に設定します。
5. **MEM/VFO CH** ツマミを押すと設定が終了し、メニューモードに戻ります。

No・090 XVTR B FREQ

トランスバーター(X VTR B)表示の設定

設定できる項目：0 ~ 9999,999(kHz)

工場出荷時：現在設定してあるVFOの周波数

解説：トランスバーターモードとなったとき(メニューモード“No-089 TRANSVERTER”の設定を“X VTR B”にした時)表示する周波数を設定します。

・設定方法はメニューモード“No-089 XVTR A FREQ(Hz)”と同じです。

No・091 XVTR SEL

トランスバーター運用設定

設定できる項目：OFF/XVTR A/XVTR B

工場出荷時：OFF

解説：トランスバーターを使用する時の設定。

X VTR A：トランスバーターモードになり“No-089 XVTR A FREQ”で設定した周波数表示になります。

X VTR B：トランスバーターモードになり“No-090 XVTR B FREQ”で設定した周波数表示になります。

OFF： トランスバーターモードはオフになります。

・トランスバーターモードになった時は“No-075 RF POWER SET”の設定に関わらず、送信出力は次のようになります。

HF帯 ~ 144MHz ➡ 5W

430MHz帯 ➡ 2W

メモリーされているデータや各種の設定状態などを、もう1台の**FT-897D**にコピーすることができます。

- 2台の**FT-897D**の電源をオフにし、下図に示す接続ケーブルで**CAT**/LINEAR端子同士を接続します。
- 2台の**FT-897D**を**MODE**(◀)/**MODE**(▶)を押しながら電源をオンにします。
ディスプレイに“CLONE MODE”が点灯して、クローンモードになります。



- 接続ケーブルは下図を参考に、市販のミニDINプラグ(8ピン)を使用して結線してください。
- コピー中に受け側の**FT-897D**に“Error”の表示が点灯したときには、接続ケーブルの配線を確認し、もう一度操作をやり直してください。



- 受け側の**FT-897D**の**A**を押し、続けて送り側の**C**を押します。



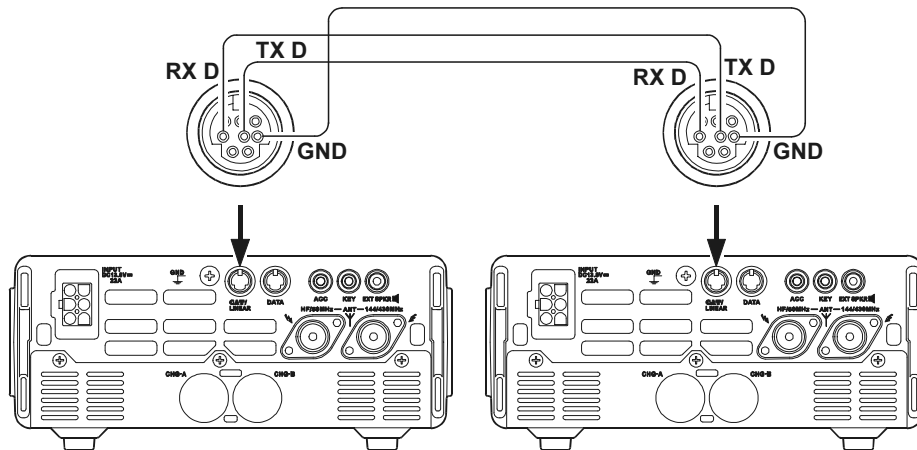
受け側



送り側

データのコピーが開始します。コピーが終了すると、再び“CLONE MODE”表示に戻ります。

- 2台の**FT-897D**の電源をオフにし、接続ケーブルを外します。

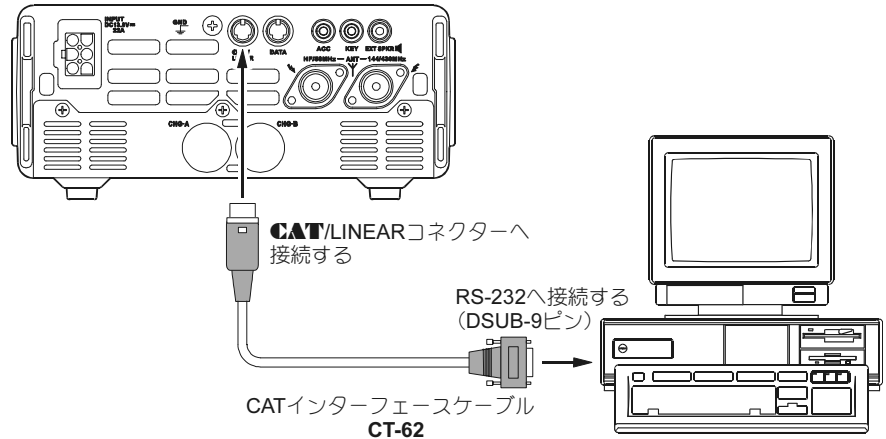


CAT 運用

本機とお手持ちのパーソナル・コンピューターを接続すると、外部より各種のコントロール(CAT 運用)を行うことができます。

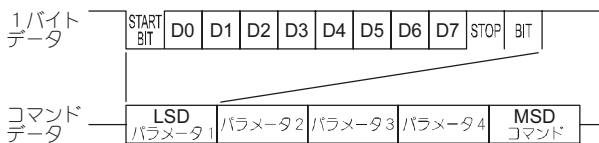
準備

- 右図を参考に、FT-897D とパーソナル・コンピューターを接続します。
- メニューモード “No-020 CAT/LIN/TUN” を “CAT” に設定します。
“No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-020 CAT/LIN/TUN” を呼び出すことはできません(p46 参照)。



通信データの構成

通信データは次ページの “コマンド一覧表” に示すように、1組の通信データを5バイトで構成し、下図に示すタイミングでLSDよりMSDまで順に入力してください。



通信速度：4800/9600/38400 ボー
(メニューモードより切り換え可能)
データ長：8ビット(パリティ無し)
スタートビット：1
ストップビット：2

CAT 運用の一例

外部コンピューターより制御する例として、電波型式を設定する場合と、周波数を設定する場合を記します。

【例1】電波型式を “FM” にする場合

DATA 1	DATA 2	DATA 3	DATA 4	DATA 5
08	00	00	00	07
パラメーター			タミデータ	コマンド

【例2】439.70MHzの周波数を設定する場合

DATA 1	DATA 2	DATA 3	DATA 4	DATA 5
43	97	00	00	01
パラメーター				コマンド

CAT 運用時の注意事項






一般的にパーソナル・コンピューターは雑音を発生する可能性があります。そのため、本機とパーソナル・コンピューターを接続すると、この雑音により受信が妨害されることがあります。

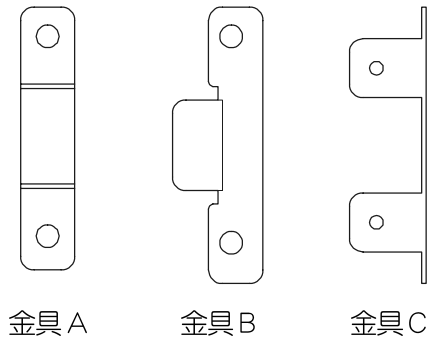
このような場合には、ホットカプラやノイズカプラ等を通して接続してください。

また、アンテナに直接ノイズが混入する場合には、本機とパーソナル・コンピューターをできるだけ離してお使いください。

FC-30 を使用する

使用部品 (FC-30 付属品)

ビス (M3 × 8B) 	2
ビス (M3 × 6B) 	6
取り付け金具 A 	1
取り付け金具 B 	1
取り付け金具 C 	1






金具 A

金具 B

金具 C

取り付け方法

1. 取付金具 A を、付属のビス () を使用して、FC-30 に取り付けます (図 1 参照) .
2. FT-897D 側面にある “ゴム足 (合計 4 個) ” を外します (図 2 参照) .
3. 外したゴム足の箇所、付属のビス () を使用して、取付金具 B と C を取り付けます (図 3 参照) .
4. FT-897D の取付金具 B の凸部を、FC-30 の取付金具 A に差し込むように取り付け、付属のビス () で金具 C と FC-30 を固定します (図 3 参照) .



取り付けの際に使用するビスは、必ず付属のビスを使用してください。
他のビスを使用すると、内部に損傷を与える場合があります。

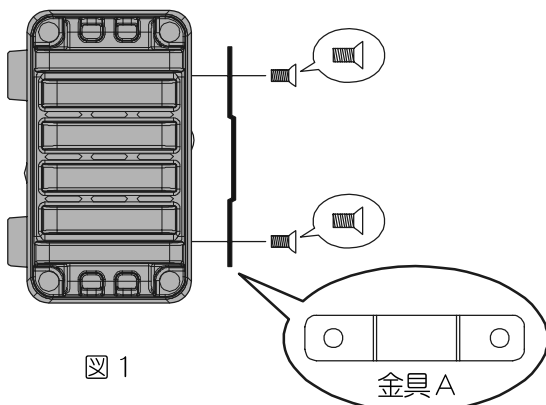


図 1

金具 A

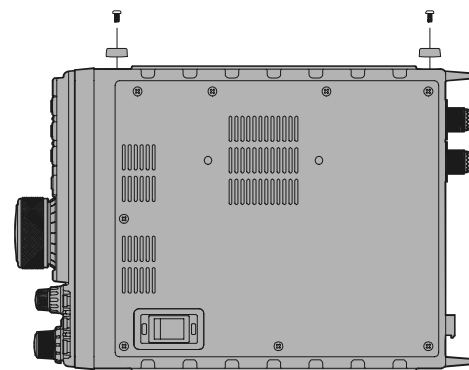


図 2

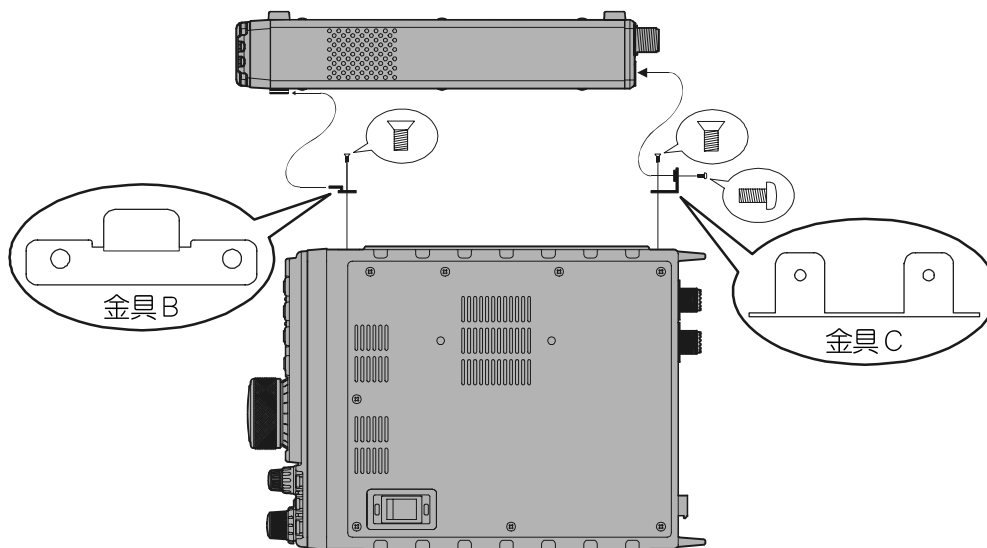


図 3

FC-30 を使用する

FC-30の接続方法

FT-857D に接続する前に、右図を参考に“FC-30”を



接続します。

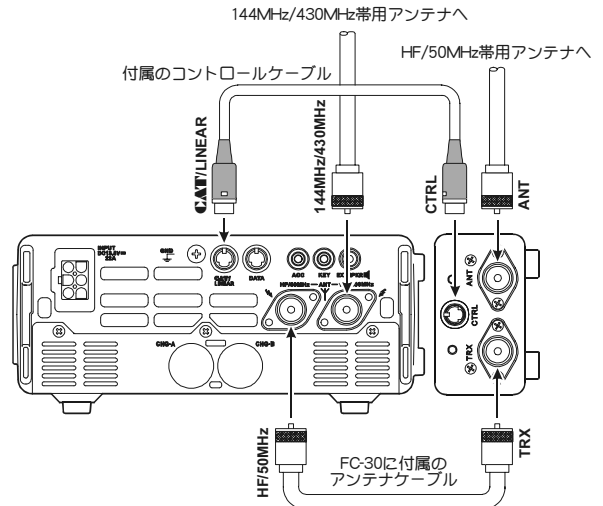
各ケーブルの取り接続は、FT-897D の電源をオフにしてから行ってください。



濡れた手でコントロールケーブルやアンテナケーブルのコネクターを抜き差ししないでください。また、送信中にコネクターを抜き差ししないでください。感電やケガ等の原因になります。

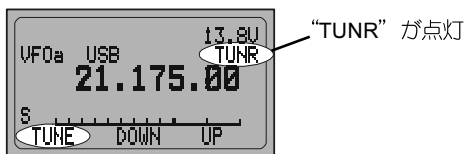


通風口(特に前側面)には通風の妨げとなる物を置いたり塞いだりしないでください。

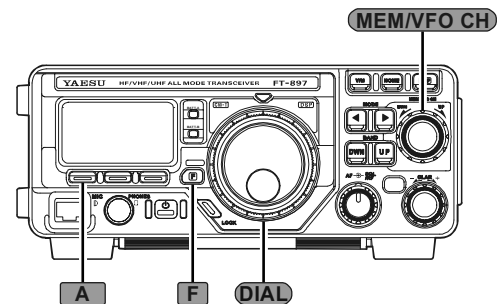


チューニングを行う(144MHz帯と430MHz帯では使用することができません)

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“No-020 CAT/LIN/TUN”を呼び出します。
“No-001 EXT MENU”を“ON”にしないと“No-020 CAT/LIN/TUN”を呼び出すことはできません(p46 参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわして“TUNER”にあわせませす。
4. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“No-085 TUNER/ATAS”を呼び出します。
“No-001 EXT MENU”を“ON”にしないと“No-085 TUNER/ATAS”を呼び出すことはできません(p46 参照)。
5. **DIAL** ツマミをまわして“TUNER”にあわせませす。
6. **F** を長押しします。
7. **F** を押しませす。
8. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFK(TUNE DOWN UP)”を呼び出します。
9. **A** (TUNE) を押しませす。
ディスプレイに“TUNR”が点灯します。
FC-30 を使用できない周波数では、“TUNR”の表示が“tunr”に変わります。



10. **A** (TUNE) を長押しすると、自動的にチューニングを開始します。
“WAIT”の表示が点灯します。



- 途中でチューニングを中止するには、**A** (TUNE) を長押しします。
- チューニング中は電波が発射されますので、すでに行われている交信に妨害を与えないようにご注意ください。
- チューニング中に発射される電波は、現在設定してある電波型式に関わらず、CWモードになります(ただし、ディスプレイの電波形式表示は変わりませす)。
- チューニング中にリレーの動作音が聞こえますが、これはアンテナチューナーが動作する音で、故障ではありません。
- アンテナチューナーが動作しない(“TUNR”が点灯しない)ときは、『アンテナ系統の異常』が考えられます。接続ケーブルの確認やアンテナ系統の点検を行ってください。
- アンテナチューナーは送信部から見た“SWR値”を下げることはできませんが“アンテナそのものの共振周波数”を変えることはできません。従って、アンテナ自体の調整を十分にを行い、できるだけSWRを下げてからアンテナチューナーをご使用ください。
- FC-30で整合できる範囲は、HF帯と50MHz帯ではSWR=3以下(インピーダンスにして16.5Ω~150Ω)で、144MHz帯と430MHz帯では使用することはできません。
- 50Ωの同軸ケーブルで給電できるタイプのアンテナ以外は接続することはできません。

アンテナチューナーの動作について

A (TUNE) を押しませすと、ディスプレイに“TUNE”が点灯して、次のような動作を行います。

- FC-30に搭載してあるコンピューターが、今までに記憶したチューニング状態の中から、現在設定してある運用周波数に最も近い周波数のチューニング状態を呼び出して再現します。
- 今までにチューニングしたことのない周波数では、工場出荷時にあらかじめバンドごとに設定された“チューニング状態”を呼び出します。
- FC-30には100個のメモリーチャンネルがあります。
- 運用周波数の変化に対するチューニング状態の更新は、約10kHzごとに行われます。
- チューニング後のSWRが“1.5”以下のとき、アンテナチューナー内のメモリーチャンネルに、このときのチューニング状態が記憶されます。
- チューニングの結果、SWRが“3”以下にならないときは、ディスプレイに“HISWR”が点灯します。

FP-30 を使用する

本機を固定局として使用するときは、本体に内蔵することができるオプションの“FP-30”を使用することで、最大出力 100W(FT-897D の場合)の運用を行うことができます。

FP-30 の取り付けかた

1. FT-897Dの電源をオフにし、電源ケーブルなどの全てのケーブル類を外します。
2. 図1と2を参考に、本体背面と底面にある3本のビス(合計6本)を外し、底面ケースを外します。
3. 底面ケースを外した場所に、操作2で外したビス6本を使用して、“FP-30”を取り付けます(図3参照)。
4. FP-30の電源コネクタをFT-897D背面にある電源入力コネクタに差し込みます(図4参照)。
5. FP-30の電源スイッチがオフになっていることを確認し、FP-30に付属のACコードを使用して、AC100Vのコンセントと接続します(図4参照)。

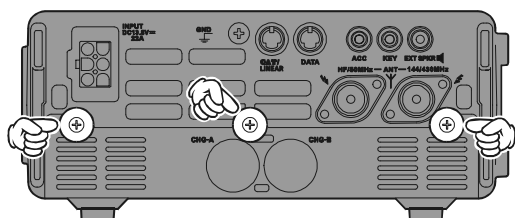


図 1

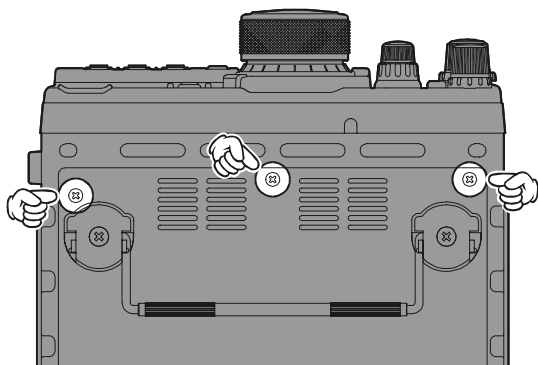



図 2

FP-30 の使いかた

1. まず始めに、FP-30のPOWERスイッチ(図4参照)をオンにします。
2. 次に、FT-897Dの電源スイッチをオンにします。
3. 電源をオフにするときは、はじめにFT-897Dの電源スイッチをオフにし、次にFP-30のPOWERスイッチをオフにします。

 長期間使用しない場合は、コンセントからACコードを外してください。

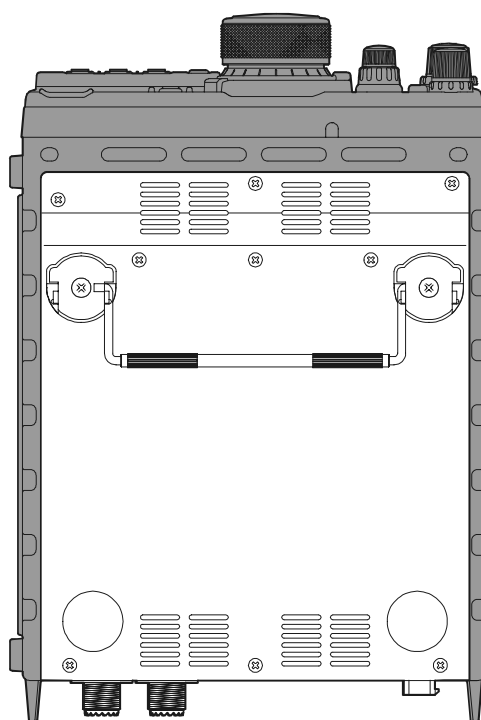
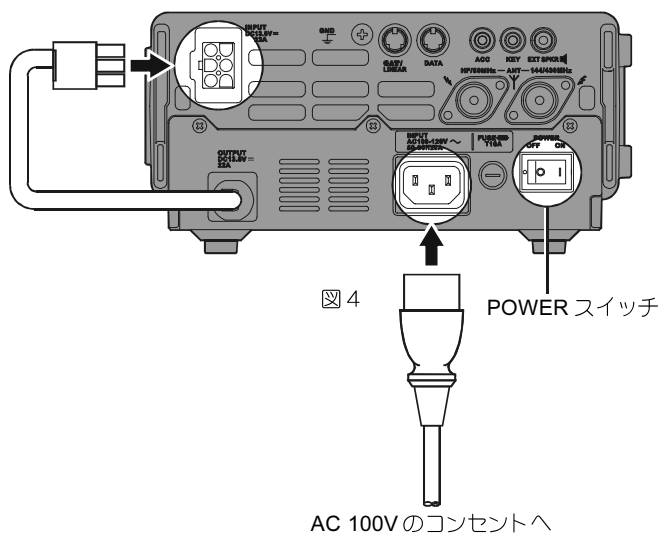


図 3



ATAS-100/-120 を使用する

ATAS-100/-120 の取付方法

下図を参考に“ATAS-100”または“ATAS-120”を接続します。

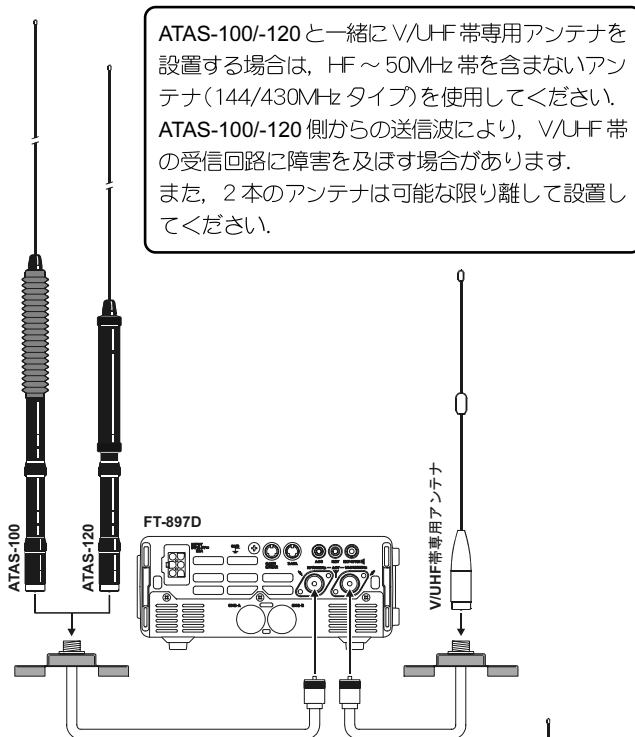


各ケーブルの接続は、FT-897Dの電源をオフにしてから行ってください。



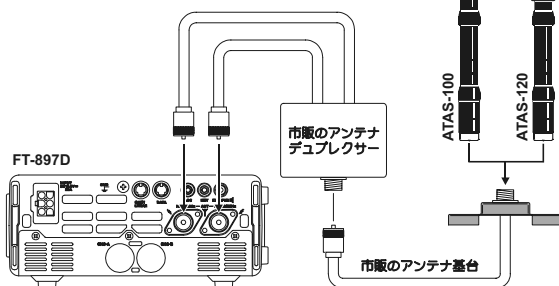
濡れた手でアンテナケーブルのコネクターを抜き差ししないでください。また、送信中にコネクターを抜き差ししないでください。感電やケガ等の原因になります。

・オプションのNi-MHバッテリーパック“FNB-78”でFT-897Dを運用しているとき、電圧が低下してATAS-100/-120が正しく動作しなくなることがあります。



アンテナデプレクサーを使用する場合は、ATAS-100/-120のコントロール電圧を供給するため、ATAS-100/-120のANT端子と本機のHF/50MHz ANT端子は、直流的に接続され、さらにアース間と絶縁されていることが必要です。詳しくはWDXCにお問い合わせください。

WDXCフリーダイヤル ☎0120-86-4901



ATAS-100/-120 の接続例

チューニングを行う前の設定

ATAS-100/-120を使用する周波数帯を設定します。

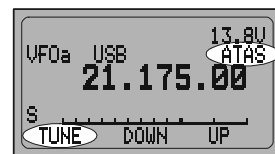
1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“No-085 TUNER/ATAS”を呼び出します。
“No-001 EXT MENU”を“ON”にしないと“No-085 TUNER/ATAS”を呼び出すことはできません(p46参照)。
3. ATAS-100/-120を使用する動作状態を選択します。
ATAS(HF): HF帯でATAS-100/-120を使用するとき
ATAS(HF&50): HF帯と50MHz帯でATAS-100/-120を使用するとき
ATAS(ALL): 全ての周波数帯でATAS-100/-120を使用するとき
4. **F** を長押しすると、設定は終了です。

オートチューニング

ATAS-100/-120のチューニングを自動で行います。

1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFk(TUNE DOWN UP)”を呼び出します。
3. **A** (TUNE)を押します。
ディスプレイに“ATAS”が点灯します。
ATAS-100/-120を使用できない周波数では、“ATAS”の表示が“atas”に変わります。

・初めてチューニングを行う際は、ATAS-100/-120の初期化を行うため、約1分間“INIT”が表示され、その後“ATAS”の表示に変わります。なお、“INIT”が表示されている間は、FT-897Dの操作は行わないでください。



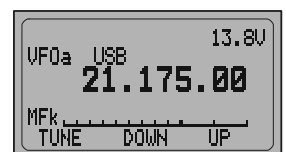
“ATAS”が点灯

4. **A** (TUNE)を長押しすると、自動的にチューニングを開始します。
“WAIT”の表示が点灯します。
- ・途中でチューニングを中止するには、**A** (TUNE)を長押しします。
・“HSWR”が点灯した(チューニングがとれない場合は、アースや取り付け状態の点検を行ってください)。
・チューニング中は電波が発射されますので、すでに行われている交信に妨害を与えないようにご注意ください。

マニュアルチューニング

ATAS-100/-120のチューニングを手動で行います。

1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFk(TUNE DOWN UP)”を呼び出します。
3. 送信状態にしたまま、**B** (DOWN)または**C** (UP)を押し、メーターがなるべく振れないように(SWRが低くなるように)調節します。



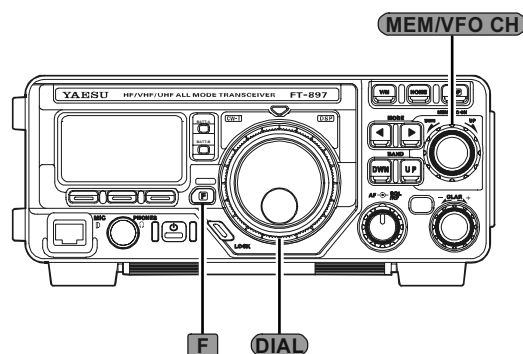
MH-59A8J を使用する

オプションの“MH-59A8J”リモートマイクロホンを使用すると、FT-897Dの操作を“MH-59A8J”で行うことができるようになります。

“MH-59A8J”を使用する前に、下記の設定を行ってください。

1. **F** を長押しします。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“No-059 MIC SEL”を呼び出します。
“No-001 EXT MENU”を“ON”にしないと“No-059 MIC SEL”を呼び出すことはできません (p46 参照)。
3. **DIAL** ツマミをまわして“RMT”にあわせます。
4. **F** を長押しします。

・“MH-59A8J”以外のマイクを使用するときは、上記の設定を“NOR”に戻してください。



MH-59A8J の説明

① LOCK スイッチ

パネル面の DIAL ツマミとスイッチ類をロックさせることができるスイッチです。

② PTT スイッチ

送受信を切り換えるスイッチです。
押して「送信」、離すと「受信」になります。

③ キーパッド

【1(DSP)】キー

マルチファンクションメニュー“Mfp (DNR DNF DBF)”を呼び出すキーです。
送信中にこのキーを押すと、DTMF のコード“1”を送出することができます。

【2(MHz)】キー

このキーを押した後に **MEM/VFO CH** ツマミをまわすと、周波数を 1MHz ステップで変更することができます。
送信中にこのキーを押すと、DTMF のコード“2”を送出することができます。
なお、メニューモード“No-057 M/V/SEL DIAL MODE”の設定により、動作が異なります。

【3(CLAR)】キー

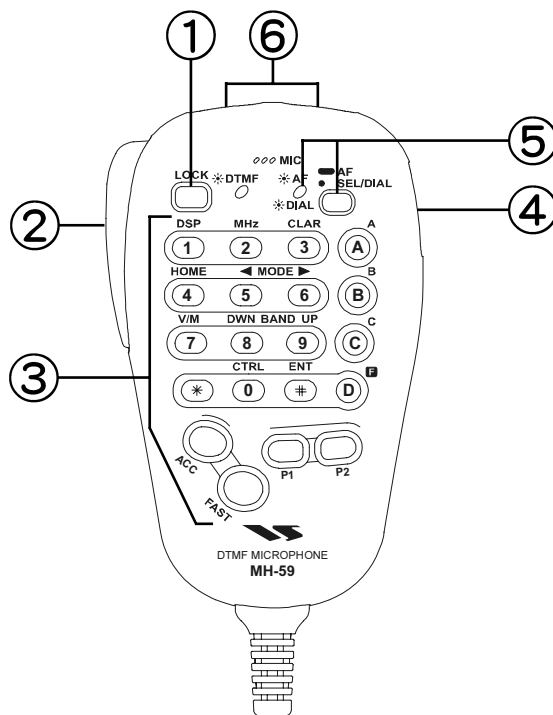
クラリファイア機能を動作させるキーです。
また、0.5 秒以上押すと、IF シフト機能を動作させることができます。
送信中にこのキーを押すと、DTMF のコード“3”を送出することができます。

【4(HOME)】キー

ホームチャンネルを呼び出すキーです。
送信中にこのキーを押すと、DTMF のコード“4”を送出することができます。

【5(◀MODE)】キー

運用モード(電波型式)を、下記の順番で変更することができるキーです。
USB ⇨ LSB ⇨ PKT ⇨ DIG ⇨
FM ⇨ AM ⇨ CWR ⇨ CW ⇨ USB ⇨
送信中にこのキーを押すと、DTMF のコード“5”を送出することができます。



【6(MODE▶)】キー

運用モード(電波型式)を、下記の順番で変更することができるキーです。
USB ⇨ CW ⇨ CWR ⇨ AM ⇨
FM ⇨ DIG ⇨ PKT ⇨ LSB ⇨ USB ⇨
送信中にこのキーを押すと、DTMF のコード“6”を送出することができます。

【7(V/M)】キー

VFOモードとメモリーモードとを切り換えるキーです。
送信中にこのキーを押すと、DTMF のコード“7”を送出することができます。

【8(BAND DWN)】キー

運用バンド(周波数帯)を、下記の順番で変更することができるキーです。

1.8MHz ➡ 430MHz ➡ 144MHz ➡ 88MHz ➡
➡ 50MHz ➡ 28MHz ➡ 24MHz ➡ 21MHz ➡
➡ 18MHz ➡ 15MHz ➡ 14MHz ➡ 10MHz ➡
➡ 7MHz ➡ 3.5MHz ➡ 1.8MHz ➡

送信中にこのキーを押すと、DTMFのコード“8”を送出することができます。

【9(BAND UP)】キー

運用バンド(周波数帯)を、下記の順番で変更することができるキーです。

1.8MHz ➡ 3.5MHz ➡ 7MHz ➡ 10MHz ➡
➡ 14MHz ➡ 15MHz ➡ 18MHz ➡ 21MHz ➡
➡ 24MHz ➡ 28MHz ➡ 50MHz ➡ 88MHz ➡
➡ 144MHz ➡ 430MHz ➡ 1.8MHz ➡

送信中にこのキーを押すと、DTMFのコード“9”を送出することができます。

【*】キー

メモリーチャンネルをダイレクトに呼び出すことができます。

例：メモリーチャンネル M-025 を呼び出すとき

[#] ➡ [2] ➡ [5] ➡ [*]

送信中にこのキーを押すと、DTMFのコード“*”を送出することができます。

【0】キー

送信中にこのキーを押すと、DTMFのコード“0”を送出することができます。

【#(ENT)】キー

ダイレクト周波数入力を行う際に使用するキーです。

例：14.25000MHz に設定するとき

[ENT] ➡ [1] ➡ [4] ➡ [D(小数点)] ➡ [2] ➡ [5] ➡ [ENT]

例：0.95000MHz に設定するとき

[ENT] ➡ [D(小数点)] ➡ [9] ➡ [5] ➡ [ENT]

送信中にこのキーを押すと、DTMFのコード“#”を送出することができます。

【A】キー

無線機本体のマルチファンクションキー“A”に割り当てられた動作を行います。

送信中にこのキーを押すと、DTMFのコード“A”を送出することができます。

【B】キー

無線機本体のマルチファンクションキー“B”に割り当てられた動作を行います。

送信中にこのキーを押すと、DTMFのコード“B”を送出することができます。

【C】キー

無線機本体のマルチファンクションキー“C”に割り当てられた動作を行います。

送信中にこのキーを押すと、DTMFのコード“C”を送出することができます。

【F(D)】キー

0.5秒以内で押すと、マルチファンクションキーの動作切り換え、0.5秒以上押すとメニューモードに移行します。

送信中にこのキーを押すと、DTMFのコード“D”を送出することができます。

ダイレクト周波数入力を行っているときには“.”(小数点)のキーになります。

【ACC】キー

押し続けている間だけ、スケルチ機能がオフになります。

このキーを押したときの動作は、メニューモード“No-068 PG ACC”で変更することができます。

【PWR(FAST)】キー

0.5秒以上押すことにより、電源を“ON/OFF”することができます。

0.5秒以内で押すと、ファーストステップ(p17)が動作します。

【P1】キー

クイックスプリット機能(p52)が動作します。

このキーを押したときの動作は、メニューモード“No-069 PG P1”で変更することができます。

【P2】キー

このキーを押したときの動作は、メニューモード“No-070 PG P2”で変更してから使用してください。

④ SEL ノブ

運用周波数やメモリーチャンネルの変更、または、音量調節ツマミとして動作します(⑤ SEL/DIAL キーで設定します)。

⑤ SEL/DIAL キー(インジケータ)

SEL ノブの動作(下記参照)を選択(表示)するキー(インジケータ)です。

インジケータが“消灯”しているとき

SEL ノブはパネル面の **MEM/WFO CH** ツマミと同じ動作を行います。

インジケータが“オレンジ色”のとき

SEL/DIAL キーを1秒以内で押して、インジケータがオレンジ色に点灯しているときは、SEL ノブはパネル面の **DIAL** ツマミと同じ動作を行います。

もう一度1秒以内で押すと、インジケータは消灯します。

インジケータが“緑色”のとき

SEL/DIAL キーを1秒以上で押して、インジケータが緑色に点灯しているときは、SEL ノブは音量調節ツマミとして動作します。

もう一度1秒以上押すと、インジケータは消灯します。


・一度電源をオフにすると、SEL ノブで調節した音量の設定は無効になり、無線機本体のAF ツマミで調節された音量になります。


⑥ UP/DWN キー

周波数の変更やメモリーチャンネルの選択を行います。

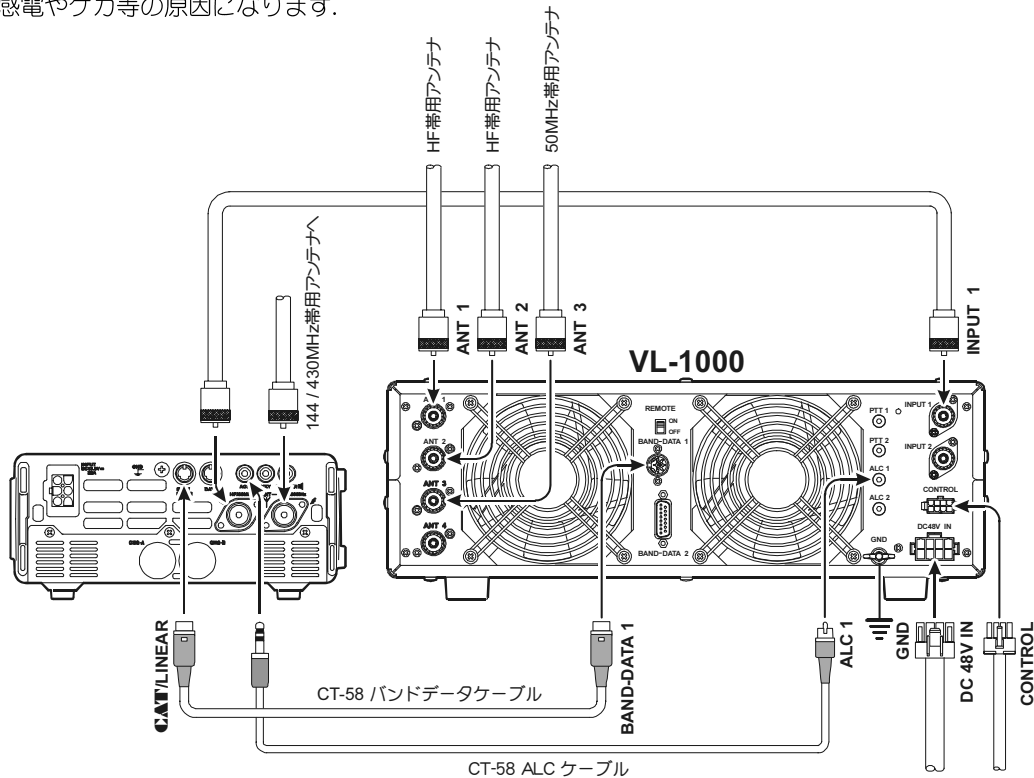
VL-1000 を使用する

1. 下図を参考に“VL-1000”を接続します。
2. メニューモード“No-020 CAT/LIN/TUN”を“LIN”に設定します。
“No-001 EXT MENU”を“ON”にしないと“No-020 CAT/LIN/TUN”を呼び出すことはできません(p46 参照)。

 リニアアンプの操作方法はリニアアンプの取扱説明書をご覧ください。

 各ケーブルの接続は、FT-897Dの電源をオフにしてから行ってください。

濡れた手でアンテナケーブルのコネクタを抜き差ししないでください。また、送信中にコネクタを抜き差ししないでください。感電やケガ等の原因になります。



YF-122C/YF-122CN/YF-122S を使用する

標準で搭載されているフィルターの他に、オプションで用意されている「コリンズSSBフィルター “YF-122S” (受信帯域幅 2.3 kHz)」と「コリンズCWフィルター “YF-122C” (受信帯域幅 500 Hz) または “YF-122CN” (受信帯域幅 300 Hz)」を取り付けることができます。

1. 電源をオフにし、電源ケーブルなどの全てのケーブル類を外します。
2. 本体上面にある8本のビスを外して、上面ケースとスピーカのコネクターを外します(図1参照)。
上面ケースにはスピーカ用のケーブルと、電池/バック切り換えスイッチのケーブルが接続されていますので、線材を切らないように注意してください。
3. 第2図に示す場所が“YF-122S”および“YF-122C”“YF-122CN”の取り付け位置です。
4. 接続端子を曲げないように注意しながら“YF-122S”または“YF-122C”“YF-122CN”を“FIL-1”“FIL-2”のどちらかに差し込みます(図3参照)。
5. スピーカのコネクターを、基板のコネクターに差し込み、上面ケースを元通りに取り付けます。
6. 操作1で外した電源ケーブルなどを再度接続し、電源をオンにします。
7. マルチファンクションキーで、取り付けたフィルターを選択します。

1. **F** を押します。
2. **MEM/VFO CH** ツマミをまわして“MFn(CFIL N/A* N/A*)”を呼び出します。
※取り付けたフィルターにより、表示が異なります。

取り付けるフィルター	表示
YF-122S	2.3
YF-122C	500
YC-122CN	300

※フィルターを1つしか取り付けしていない場合は、取り付けられていない方の表示は“N/A”になります。

3. **FIL-1**に取り付けられたフィルターを選択するときは **B** を、**FIL-2**に取り付けられたフィルターを選択するときは **C** を押します。
4. **F** を押すと、フィルターの選択は終了です。
8. 以上で“YF-122S/YF-122C/YF-122CN”の取り付けは終了です。

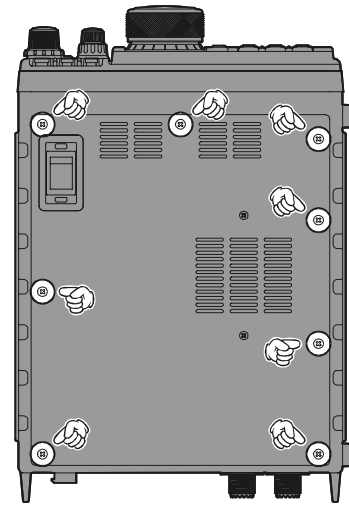


図1

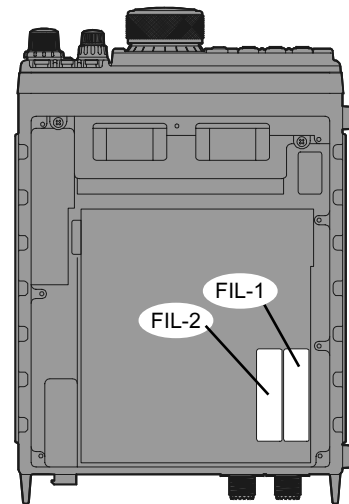


図2

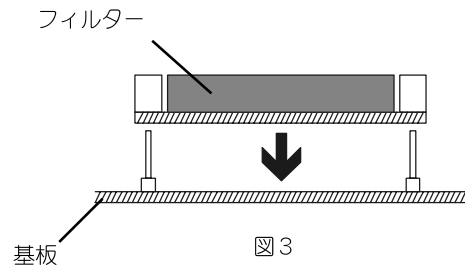


図3

オプション取り付け時の注意事項

- 誤って金属片などで回路素子をショートさせないように、十分に注意してください。
- 静電気などにより、半導体が破損する恐れがありますので、必要箇所以外には不用意に手を触れないでください。
- オプションの取り付けを、お近くの営業所/サービスにご依頼になる場合は、所定の工賃を別途申し受けいたしますので、ご了承ください。

故障かな？ と思う前に / アフターサービスについて

故障かな？と思う前に

電源が入らない！

- 外部電源の接続は間違っていますか？
外部電源を使用するときには、必ず付属の電源ケーブルを使用してください。
- 外部電源の電圧や電流容量が不足していませんか？
外部電源の電圧や電流容量が不足していないか確認してください。

FT-897D	13.8V 22A以上
FT-897DM	13.8V 14A以上
FT-897DS	13.8V 10A以上

- 電池パックが消耗していませんか？
指定の方法で充電を行ってください。

音が出ない！

- **SQL/RF** ツマミを時計(右)方向にまわしすぎていませんか？
時計(右)方向にまわしすぎている場合、弱い信号では音が出ない場合があります。
- 外部スピーカーの接続は間違えていませんか？
インピーダンスが4~8Ωのスピーカーを使用してください。

受信できない！

- アンテナは正しく接続してありますか？

スキャンしない！

- スケルチが開いていませんか？
- メニューモード “No-024 CW PADDLE” が “MICKEY” になっていませんか？

電波が出ない！

全ての運用モード(電波型式)で

- アンテナは正しく接続してありますか？
- アンテナ端子の選択が間違っていないですか？
- 送信周波数がアマチュアバンド外になっていませんか？

SSB/AM/FMモードのとき

- マイクロホンは正しく接続してありますか？
- PTT スイッチは確実に押していますか？
- マイクゲインの設定が低くなっていませんか？

CWモードのとき

- 電鍵は正しく接続されていますか？
- ブレークイン機能が “ON” になっていますか？

データ通信のとき

- 周辺機器(パケット用 TNCやRTTY用 TU)は正しく接続してありますか？
- TNCのDCDランプが点灯したままになっていませんか？

勝手に送信状態になってしまう！

- VOX 運用になっていませんか？

マイクロホンが正しく動作しない！

- メニュー “No-059 MIC SEL” の設定が、使用するマイクロホンに合った設定になっていますか？
“No-001 EXT MENU” を “ON” にしないと “No-059 MIC SEL” を呼び出すことはできません(p46 参照)。

アフターサービスについて

保障期間はご購入の日より1年間です。

本製品には保証書が添付されています。ご購入いただいた日から1年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、無料で修理をお引き受けします。

保証書は大切に保管してください。

保証書を紛失しますと、保障期間に発生した故障でも、保障期間が過ぎたものとして有償扱いにさせていただきますのでご了承ください。

また、販売年月日・販売店名などの必要事項が記入されていない保証書も、無効扱いにさせていただきますので、ご購入いただきました販売店名・ご購入年月日などが正しく記入されていることをご確認のうえ、大切に保管してください。

梱包箱も大切に保管してください。

修理や点検のために本製品を運搬する場合には、運搬中の事故やトラブルを防止するため、梱包箱を使用して運搬してください。

製品の改良のため、取扱説明書の図面や回路図などが、一部製品と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

本製品または、他の当社製品についてのお問い合わせは、お近くの営業所/サービス宛にお願いいたします。また、その際には、必ず製品の製造番号(本体底面に貼ってある銘板に記載されています)を併せてお知らせください。なお、お手紙をいただくときには、お客様のご住所・ご氏名を忘れずにお書きください。

アマチュア無線局免許申請書の書きかた(1)

本機は技術基準適合機ですので、免許申請書に技術基準適合証明番号(FT-897D は 002KN378, FT-897DM は 002KN380, FT-897DS は 002KN379)を記入することにより、記入の一部(裏ページに記載してある記入例の“□”部分)の記入を省略することができます。

ただし、RTTY用のTUやパケット通信のTNCなどの付属装置を接続して申請する場合には、下記に示す記入例を参考にして必要事項を記入し、保証認定を受けて申請してください。

技術基準適合証明番号は無線機ごとに異なり、本体底面に貼り付けてある“技術基準適合証明ラベル”に記載してあります。



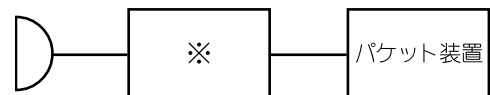
『技術基準適合証明ラベル』の一例

免許申請書記入時のご注意

- 第三級アマチュア無線技士のかたは、10MHz帯と14MHz帯の申請はできません。
- 第四級アマチュア無線技士のかたは、4630kHzと1.9MHz帯、10MHz帯、14MHz帯、18MHz帯および“A1A”の申請はできません。
- 1.9MHz帯と10MHz帯では、“A3E”と“J3E”の申請はできません。
- “F3E”は、28MHz帯以上のアマチュアバンドで申請することができます。
- オプションのDTMFマイクロホン“MH-36ESJ”や“MH-36ABJ”を使用するときには、“F2D”の免許も併せて申請します。
- 1.9MHz帯、3.8MHz帯、10MHz帯を除き、RTTY(F1B)の免許も申請することができます。この場合、『発射可能な電波の型式、周波数の範囲』の欄に“F1B”を追記するとともに、付加装置の緒元も併せて記入し、保証認定で免許申請を行います。
- 28MHz帯以上のアマチュアバンドでは、1200bpsのパケット(F2D)の免許も申請することができます。この場合、『発射可能な電波の型式、周波数の範囲』の欄に“F2D”を追記するとともに、付加装置の緒元も併せて記入し、保証認定で免許申請を行います。
- 9600bpsのパケット(F1D)の免許も申請することができます。この場合、『発射可能な電波の型式、周波数の範囲』の欄に“F1D”を追記するとともに、付加装置の緒元も併せて記入し、保証認定で免許申請を行います。
- 1.9MHz帯と10MHz帯を除き、FAX(F3C)、SSTV(F3F)の免許も申請することができます。この場合、『発射可能な電波の型式、周波数の範囲』の欄に“F3C”、“F3F”を追記するとともに、付加装置の緒元も併せて記入し、保証認定で免許申請を行います。

パケット通信のTNCを接続する場合の記入例

- 『送信機系統図』に、右図に示す項目を記入します。



※技術基準適合証明番号を記入します。

FT-897D ➡ 002KN378
 FT-897DM ➡ 002KN380
 FT-897DS ➡ 002KN379

- 『アマチュア局の無線設備の保証認定願』に、次の項目を記入します。

- ※ 1 : AFSK/GMSK ※ 4 : ±500Hz/±2.4kHz 以下
 ※ 2 : 1200bps/9600bps ※ 5 : AX.25 プロトコル準拠
 ※ 3 : 1700Hz/ — ※ 6 : 電波型式 F2D/F1D

データ 通信装置 (パケット)	1 方式	※ 1	第 1 送信機
	2 通信速度	※ 2	
	4 副搬送波周波数(副搬送波を用いる方式の場合のみ。)	※ 3	
	5 最大周波数偏移または位相偏位量(副搬送波を用いる場合は、副搬送波のもの。)	※ 4	
	9 符号の構成	※ 5	
	10 装置出力の最高周波数(副搬送波を用いる方式の場合のみ。)	※ 6	
	11 その他		

上記は記入の一例です。お手持ちのTNCの取扱説明書を参考に記入ください。

アマチュア無線局免許申請書の書きかた(3)

第三級アマチュア無線技士のかたが申請する場合

姓 フリガナ 名 フリガナ ※ 免許の有効期間

1.9M, 3.5M 3HA, 3.8M 3HD, 7M 3HA, 18M 3HA, 21M 3HA, 24M 3HA, 28M 3VA, 50M 3VA, 144M 3VA, 430M 3VA に✓印をつけてください。

1.9M～144Mまでは、空中線電力の50Wを記入してください。430Mは20Wを記入してください。

4630kHzに✓印をつけてください。

空中線電力の50Wを記入してください。

50

装置の区別	変更の種類	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	変調方式	終段管	定格出力 (W)
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更	002KN380	A1A [1.9MHz, 4630kHz A1A J3E A3E 3.5MHz, 18MHz 3.8MHz, 21MHz 7MHz, 24MHz A1A J3E A3E 28MHz J3E, A3E F2A, F2D F3E 144MHz 430MHz 430MHz]	平衡変調 (J3E) 低電力変調 (A3E) リアクタンス変調 (F3E)	1.9MHz～50MHz 2SC2782A X 2 144MHz 430MHz 2SC3102 X 1	13.8 V 19MHz～144MHz 50W 430MHz 20W
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V

技術基準適合証明番号を記入した場合は、記入する必要はありません。

「技適証明」で免許申請を行う場合は、本体底面に貼り付けてある技術基準適合証明ラベルに記載されている、技術基準適合証明番号(002KN380)を記入してください。

使用するアンテナの型式を記入してください。

「有」に✓印をつけてください。

送信空中線の型式

添付図面 送信機系統図 その他の工事設計

周波数測定装置の有無 有 (誤差0.025%以内) 無

法第三章に規定する条件に合致する。

第四級アマチュア無線技士のかたが申請する場合

3.5M 4HA, 3.8M 4HD, 7M 4HA, 21M 4HA, 24M 4HA, 28M 4VA, 50M 4VA, 144M 4VA, 430M 4VA に✓印をつけてください。

3.5M～28Mまでは、空中線電力の10Wを記入してください。50M～430Mは20Wを記入してください。

「技適証明」で免許申請を行う場合は、本体底面に貼り付けてある技術基準適合証明ラベルに記載されている、技術基準適合証明番号(002KN379)を記入してください。

装置の区別	変更の種類	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	変調方式	終段管	定格出力 (W)
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更	002KN379	J3E A3E [3.5MHz, 21MHz 3.8MHz, 24MHz 7MHz, J3E, A3E F2D, F3E 28MHz 50MHz 144MHz 430MHz]	平衡変調 (J3E) 低電力変調 (A3E) リアクタンス変調 (F3E)	3.5MHz～28MHz 2SC2782A X 2 144MHz 430MHz 2SC3102 X 1	13.8 V 3.5MHz～28MHz 10W 50MHz～430MHz 20W
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V

技術基準適合証明番号を記入した場合は、記入する必要はありません。

使用するアンテナの型式を記入してください。

添付図面 送信機系統図 その他の工事設計

周波数測定装置の有無 有 (誤差0.025%以内) 無

法第三章に規定する条件に合致する。

定 格

■一般

受信周波数範囲: 100 kHz ~ 30 MHz
 50 MHz ~ 54 MHz
 76 MHz ~ 108 MHz
 144 MHz ~ 146 MHz
 430 MHz ~ 440 MHz

送信周波数範囲: 1.8 MHz帯 1.81000 MHz ~ 1.82500 MHz
 1.90750 MHz ~ 1.91250 MHz
 3.5 MHz帯 3.50000 MHz ~ 3.57500 MHz
 3.8 MHz帯 3.74700 MHz ~ 3.75400 MHz
 3.79100 MHz ~ 3.80500 MHz
 7 MHz帯 7.00000 MHz ~ 7.10000 MHz
 10 MHz帯 10.10000 MHz ~ 10.15000 MHz
 14 MHz帯 14.00000 MHz ~ 14.35000 MHz
 18 MHz帯 18.06800 MHz ~ 18.16800 MHz
 21 MHz帯 21.00000 MHz ~ 21.45000 MHz
 24 MHz帯 24.89000 MHz ~ 24.99000 MHz
 28 MHz帯 28.00000 MHz ~ 29.70000 MHz
 50 MHz帯 50.00000 MHz ~ 54.00000 MHz
 144 MHz帯 144.00000 MHz ~ 146.00000 MHz
 430 MHz帯 430.00000 MHz ~ 440.00000 MHz
 4630 kHz (非常連絡設定周波数)

電 波 型 式: A1A(CW), J3E(LSB/USB), A3E(AM),
 F3E(FM), F2A, F2D

周 波 数 ス テ ッ プ: 最小 10 Hz(CW/SSB), 100 Hz(AM/FM)

アンテナインピーダンス: 50 Ω 不平衡, M型接栓

使用温度範囲: -10°C ~ +60°C

周 波 数 安 定 度: ±0.5ppm(@25°C, 電源投入60分後, 1時間あたり)

外 部 電 源: 定格電圧 13.8 V ± 15%(マイナス接地)

内 部 電 源: FP-30(オプション)AC 90 ~ 120 V

内 部 電 池: FNB-78(オプション): 13.2 V, 4500mAh

消 費 電 流: 受信無信号時: 約 600 mA

受信定格出力時: 約 1.0 A

送信定格出力時: 約 22 A(FT-897D)

約 14 A(FT-897DM)

約 10 A(FT-897DS)

外形寸法(突起物含まず): 200(W)mm × 80(H)mm × 262(D)mm

重 量: 約 3.9 kg (FP-30, FNB-78, マイクは含まず)

■送信部

定格送信出力:
 (13.8V時)

	FT-897D	FT-897DM	FT-897DS
HF帯	100W (AM: 25W)	50W (AM: 12.5W)	10W (AM: 3W)
50 MHz帯	100W (AM: 25W)	50W (AM: 12.5W)	20W (AM: 5W)
144 MHz帯	50W (AM: 12.5W)	50W (AM: 12.5W)	20W (AM: 5W)
430 MHz帯	20W (AM: 5W)	20W (AM: 5W)	20W (AM: 5W)

変 調 方 式: 平衡変調(SSB), 低電力変調(AM),
 リアクトランス変調(FM)

最大周波数偏移(FM): ± 5 kHz(FM-N時は± 2.5 kHz)

不 要 輻 射 強 度: - 50 dB以下(1.8 ~ 29.7 MHz)
 - 60 dB以下(50/144/430 MHz)

搬送波抑圧比(SSB): - 40 dB

不要側波帯抑圧比(SSB): - 50 dB

送信周波数特性(SSB): 400 Hz ~ 2600 Hz(- 6 dB)

占有周波数帯域: 3 kHz以内(SSB), 0.5 kHz以内(CW),
 6 kHz以内(AM), 16 kHz以内(FM)

マイクロホンインピーダンス: 200 ~ 10 k Ω (標準: 600 Ω)

■受信部

受 信 方 式: ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン
 (SSB/CW/AM/FM)
 スーパーヘテロダイン(WFM)

中 間 周 波 数: SSB/CW/AM/FM WFM
 第一中間周波数 68.330 MHz 10.7 MHz
 第二中間周波数 455 kHz -

受 信 感 度: (IPO off, ATT off)

	SSB/CW	AM	FM
0.1 ~ 1.8 MHz	-	32 μV	-
1.8 ~ 28 MHz	0.2 μV	2 μV	-
28 ~ 30 MHz	0.2 μV	2 μV	0.5 μV
50 ~ 54 MHz	0.125 μV	1 μV	0.2 μV
144 ~ 146 MHz	0.125 μV	-	0.2 μV
430 ~ 440 MHz	0.125 μV	-	0.2 μV

(SSB/CW/AM=S/N 10 dB時, FM=SINAD 12 dB時)

スケルチ開放感度: (IPO off, ATT off)

	SSB/CW/AM	FM
100 kHz ~ 1.8 MHz	-	-
1.8 MHz ~ 28 MHz	2.5 μV	-
28 MHz ~ 30 MHz	2.5 μV	0.32 μV
50 MHz ~ 54 MHz	1 μV	0.16 μV
144 MHz ~ 146 MHz	0.5 μV	0.16 μV
430 MHz ~ 440 MHz	0.5 μV	0.16 μV

イ ヌ - ジ 比: HF/50 MHz: 70 dB以上
 144/430 MHz: 60 dB以上

中間周波妨害比: 60 dB以上

選択度(-6/-60 dB): 2.2 kHz/4.5kHz (SSB/CW)

6 kHz/20 kHz (AM)

15 kHz/30 kHz (FM)

9 kHz/25 kHz (FM-N)

(- 6/ - 66 dB) 2.3 kHz/4.7 kHz (SSB)

(オプションの“YF-122S”装着時)

500 Hz/2.0 kHz (CW)

(オプションの“YF-122C”装着時)

300 Hz/1.0 kHz (CW)

(オプションの“YF-122CN”装着時)

低 周 波 出 力: 2.5W以上(4 Ω, THD 10%)

低周波負荷インピーダンス: 4 ~ 16 Ω (8 Ω標準)

副次的に発する電波等の強度: 4000 μW以下

※定格値は、常温・常圧時の値です。

A

AGC	27
AMモードでの交信	18
ACLメーター	19
APO(オートマチックパワーオフ)	37
ARTS機能	40
ATAS-100/-120を使用する	61
ATT(アッテネーター)	26

C

CAT運用	56
CLAR(クラリファイア)	17
CTCSS(トーンスケルチ)	38
CW IDの設定	40
CW運用時の付属機能	22
CWサイドトーンの音量調節	22
CWディレイタイムの調整	22
CWトレーニング	23
CWピッチの調整	23
CWモードでの交信	21

D

DCS(デジタルコードスケルチ)	39
DCSサーチ	39
DSP AUTO NOTCH	24
DSP NR	24
DSPバンドパスフィルターを使う	24
DSPマイクイコライザー	27
DSPを使って混信を軽減する	24

F

FC-30を使用する	58
FMモードでの交信	18
FNB-78の充電方法	7
FNB-78の取り付け方法	7
FP-30を使用する	60

I

IF SHIFT	25
IFフィルターの切り換え	25
IPO	26

L

LOCK(ロック機能)	16
-------------	----

M

MH59A&Jを使用する	62
MIC GAINの調整	18

N

NB(ノイズブランカー)	25
--------------	----

P

PMS	34
-----	----

Q

QMB(クイックメモリーバンク)	32
------------------	----

R

RF GAIN	26
RTTY	43

S

SSBモードでの交信	18
SSTVについて	43
STEP	17
SWRメーター	19

T

TOT(タイムアウトタイマー機能)	18
-------------------	----

V

VFOスキャン	33
VFOリセット	28
VL-1000を使用する	64
VOX操作	19

Y

YF-122C/YF-122CN/YF-122Sを使用する	65
-------------------------------	----

あ

相手局と交信できる範囲にいるかを確認する (ARTS機能)	40
アッテネーター(ATT)	26
アフターサービスについて	66
アマチュア無線局免許申請書の書きかた	67
アースについて	3
アーツ機能	40
安全上の注意	1
アンテナについて	6

う

運用バンドを切り換える	16
運用モードを切り換える	16

え

エレクトロニックキーヤーを使用する場合	21
---------------------	----

お

オプション	4
オートマチックパワーオフ(APO)	37
オールリセット	19

か

快適な交信を行うために	27
外部電源使用時の注意事項	6

き

基本的な操作	16
キーイングスピードの調節	22
近接した周波数の使用状況をチェックする	35

く

クイックメモリーバンク(QMB)	32
クイックスプリット機能	27
クラリファイア	17
クローン	55

こ

故障かな?と思う前に	66
混信が激しいとき	25
コントラスト調整	41

さ

雑音が激しいとき	25
----------	----

し	
指定した周波数を定期的に受信する	36
充電方法 (FNB-78 の充電方法)	7
周波数ステップ	17
受信感度を調整する	26
受信操作	16
受信時に使用するその他の機能	17
準備	6
上面の説明	13
信号が入感する周波数を探して記憶する	34

す	
スキャン	33
スプリット運用	27
スプリットトーン	38, 39
スペクトラムスコープ	35
スマートサーチ	34

せ	
設定した間隔で繰り返し CW 符号を送出する	42

そ	
送信出力の調整	18
送信メーターの切り換え	19

た	
タイムアウトタイマー機能 (TOT)	18
縦振れ電鍵を使用する場合	21

て	
定格	70
ディスプレイの明るさ変更	41
ディスプレイの色変更	11
ディスプレイのコントラスト調整	41
ディスプレイの状態を変更する	41
ディスプレイの説明	10
ディスプレイのバックライトの動作変更	41
底面の説明	13
デジタルコードスケルチ (DCS)	39
デュアルレシーブスキャン	36
電波を発射する前に	3
電源について	6
電源の切り忘れを防ぐ	37
電池バック "FNB-78" で運用する	7

と	
特定の周波数範囲をスキャンする (PMS)	34
トーンサーチ	38
トーンスケルチ (CTCSS)	38

の	
ノイズブランカー (NB)	25

は	
背面の説明	12
倍角表示	11
ポケット	43
バックライトの動作変更	41
パネル面の説明	8
バンド区分	73

ひ	
ビーコン	42
ビープ音の変更操作	16

ふ	
プライオリティスキャン	36
プログラマブルメモリスキャン (PMS)	34

へ	
変調メーター	19

ほ	
ホームチャンネル	32

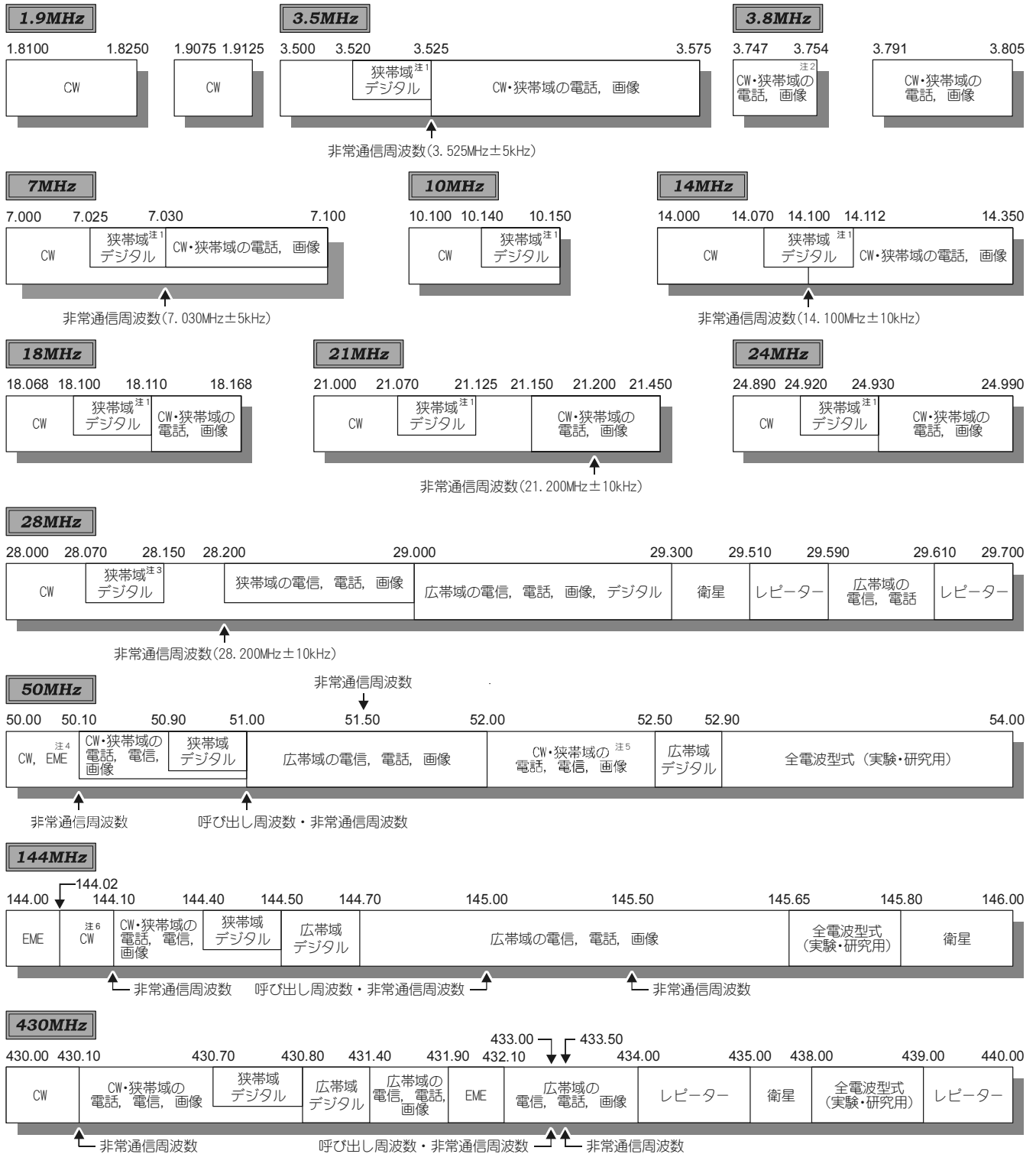
ま	
マイクゲインの調整	18
マイクロホンの説明	13
マイクロホンを取り付ける	6
マルチファンクションキー	14

め	
メニューモード	44
メニューモードのリセット	44
メモリーグループの切り換え	31
メモリースキップ	33
メモリスキャン	33
メモリータグ機能	30
メモリーチャンネルに書き込む	28
メモリーチャンネルに名前を付ける	30
メモリーチャンネルを呼び出す	29
メモリーチャンネルをグループに分ける	31
メモリーチューン	29
メモリーの消しかた	29
メモリーリセット	28

れ	
レピーターを使った交信	20

ろ	
ロック機能 (LOCK)	16

バンド区分



狭帯域：電波の占有周波数帯幅が6kHz以下のもの。

広帯域：電波の占有周波数帯幅が6kHzを超えるもの。

注1： F1B, F1D, G1B, G1Dに限る。

注2： A1A, H3E, J3E, R3Eに限る。

注3： A2A, A2B, A2D, F1B, F1D, G1B, G1Dに限る。

注4： 外国のアマチュア局と通信を行う場合に限り、RTTY及びデータ伝送も行うことができる。

注5： 51MHzから51.1MHzまでの周波数で、外国のアマチュア局と通信を行う場合は、狭帯域の電話、電信及び画像通信にも使用することができる。

注6： 144.02MHzから144.10MHzまでの周波数は、月面反射通信にも使用できる。

この場合の電波の占有周波数帯幅の許容値は、6kHz以下のものに限る。

注7： 144.30MHzから144.50MHzまでの周波数は、国際宇宙ステーションとの交信に限って、広帯域の電話、電信及び画像通信にも使用することができる。



製造元・株式会社バーテックススタンダード
〒153-8644 東京都目黒区中目黒4-8-8

© 2005 株式会社バーテックススタンダード
無断転載・複写を禁ず

